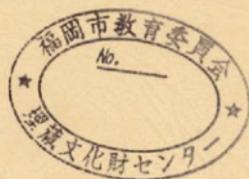


福岡市

城原小学校建設地内遺跡調査報告書

# 拾六町ツイジ遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集



1983

福岡市教育委員会

福岡市

城原小学校建設地内遺跡調査報告書

# 拾六町ツイジ遺跡

福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集

1983

福岡市教育委員会

# 序 文

本市では、人口急増に対応して学校の増設、校区の再編成に迫られていますが、西区下山門地区でも小学校の新設が計画されました。

福岡市教育委員会では、下山門地区の小学校新設に伴う埋蔵文化財の事前調査を昭和55年11月から昭和56年7月にかけて実施しました。

本書はその発掘調査の成果を収録したものです。

報告書にみられるように、弥生～古墳時代の水田址とともに各種木製品が出土するなど、貴重な成果をあげることができました。

発掘調査から資料整理に至るまで、調査指導委員の先生をはじめ多くの人々の御協力をいただいたことに対し、心から感謝の意を表するものです。

本書が埋蔵文化財の理解と認識を深める一助となり、合せて研究資料としても活用いただければ幸いです。

昭和58年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 西 津 茂 美

## 例 言

1. 本書は福岡市教育委員会施設部管理課が計画した市立城原小学校建設に伴う事前調査として、福岡市教育委員会文化課が1980年11月から1981年7月に行った福岡市西区拾六町に所在する拾六町ツジ遺跡の調査報告書である。
2. 本書の執筆は、以下のとおりである。

I	……………	松村 道博	
II	1	……………	山口 謙治
	2-1)・2)	……………	松村 道博
	3)・4)	……………	山口 謙治
	3	……………	松村 道博
III	……………	山口 謙治	
3. 本書に使用した図の作成は、山口・松村・杉山富雄・沢石正子・岡部裕俊・上敷領久・宮原晋一・国代柏香・平川祐介・本多俊明が行った。
4. 本書に使用した図の製図には、山口・松村・横山邦継・浜石正子・原俊一・岡部裕俊・上敷領久・赤司善彦・村上かをりがあたった。
5. 本書に使用した写真は、主に松村の撮影によるものである。
6. 本書は、木製品を可能な限り紹介することを意図し、文章は最小限にとどめた。
7. 遺物には、土器、木器、石器・石製品・土製品にそれぞれ通し番号を付した。なお遺物番号は、木器実測図と遺物出土状態一覧表とが一致している。
8. 本書の編集は、山口・松村で行った。

# 本文目次

I 序説	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の組織	1
3 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
II 調査の記録	3
1 調査概要	3
2 遺構と出土遺物	3
1) 第1号土壌	4
2) 第2号土壌	4
3) 第3～8号土壌	5
4) 水田址及び杭列	6
3 包含層の調査	7
III まとめ	8
1 出土木製品について	9
1) 弥生時代前期初頭の木製品	9
2) 弥生時代前期後半の木製品	9
3) 弥生時代後期初頭の木製品	10
4) 古墳時代(5世紀前半)の木製品	10
5) 古代(奈良時代末期～平安時代初期)の木製品	10
6) A・B-6・7区出土の木製品	11
7) 東割調査区出土の木製品	11
2 おわりに	11

## 挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図(1/25000).....	12
第2図	地形測量図(1:500).....	13
第3図	調査区の配置と遺構全図.....	14
第4図	第1号土壌実測図.....	15
第5図	第2号土壌実測図.....	15
第6図	第1・2号土壌出土土器実測図.....	16
第7図	第1号土壌出土土器実測図1).....	17
第8図	第1号土壌出土土器実測図2).....	18
第9図	第1号土壌出土土器実測図3).....	19
第10図	第1・2号土壌出土土器実測図4).....	20
第11図	第1・3号土壌出土土器実測図5).....	21
第12図	第3号土壌実測図.....	22
第13図	第3号土壌シガラミ状遺構実測図(折り込み)	
第14図	第4・5・6号土壌実測図.....	23
第15図	第7・8号土壌実測図.....	24
第16図	第3号土壌出土土器実測図1).....	25
第17図	第3号土壌出土土器実測図2).....	26
第18図	第8号土壌出土土器実測図1).....	27
第19図	第8号土壌出土土器実測図2).....	28
第20図	第8号土壌出土土器実測図3).....	29
第21図	土壌出土土器実測図1).....	30
第22図	土壌出土土器実測図2).....	31
第23図	土壌出土土器実測図3).....	32
第24図	土壌出土土器実測図4).....	33
第25図	土壌出土土器実測図5).....	34
第26図	土壌出土土器実測図6).....	35
第27図	土壌出土土器実測図7).....	36
第28図	土壌出土土器実測図8).....	37
第29図	土壌出土土器実測図9).....	38
第30図	土壌出土土器実測図10).....	39
第31図	土壌出土土器実測図11).....	40
第32図	土壌出土土器実測図12).....	41
第33図	土壌出土土器実測図13).....	42
第34図	土壌出土土器実測図14).....	43
第35図	古代水田址実測図.....	44
第36図	各調査区土層断面実測図(折り込み)	
第37図	E-6・7区遺物出土実測図(折り込み)	
第38図	E-6・7区出土土器分布図.....	45
第39図	B-6区遺物出土実測図(折り込み)	
第40図	B-6区出土土器分布図.....	46

第41図	G・H-2・3区遺物出土実測図(折り込み)	
第42図	東調査区出土石器分布図(折り込み)	
第43図	各区出土石器実測図1) E-6・7区	47
第44図	各区出土石器実測図2) E-6・7区	48
第45図	E-6・7区出土石器実測図1)	49
第46図	E-6・7区出土石器実測図2)	50
第47図	E-6・7区出土石器実測図3)	51
第48図	E-6・7区出土石器実測図4)	52
第49図	E-6・7区出土石器実測図5)	53
第50図	E-6・7区出土石器実測図6)	54
第51図	E-6・7区出土石器実測図7)	55
第52図	包含層出土石器実測図1) V層下	56
第53図	包含層出土石器実測図2) V層下	57
第54図	包含層出土石器実測図3) V層下	58
第55図	包含層出土石器実測図4) V層下	59
第56図	包含層出土石器実測図5) V層下	60
第57図	包含層出土石器実測図6) V層下	61
第58図	包含層出土石器実測図7) V層下	62
第59図	包含層出土石器実測図8) V層下	63
第60図	包含層出土石器実測図9) V層	64
第61図	包含層出土石器実測図10) V層	65
第62図	包含層出土石器実測図11) V層	66
第63図	包含層出土石器実測図12) V層	67
第64図	包含層出土石器実測図13) V層	68
第65図	包含層出土石器実測図14) V層	69
第66図	包含層出土石器実測図15) V層	70
第67図	包含層出土石器実測図16) V層	71
第68図	包含層出土石器実測図17) V層	72
第69図	包含層出土石器実測図18) V層	73
第70図	包含層出土石器実測図19) V層	74
第71図	包含層出土石器実測図20) V層	75
第72図	包含層出土石器実測図21) V層	76
第73図	包含層出土石器実測図22) V層	77
第74図	包含層出土石器実測図23) V層	78
第75図	包含層出土石器実測図24) V層	79
第76図	包含層出土石器実測図25) V層	80
第77図	包含層出土石器実測図26) V層	81
第78図	包含層出土石器実測図27) V層	82
第79図	包含層出土石器実測図28) V層	83
第80図	出土石器実測図1)	84
第81図	出土石器実測図2)	85
第82図	出土石器・石製品・土製品実測図	86

## 図 版 目 次

<p>図版1 拾六町ツイジ遺跡周辺航空写真</p> <p>図版2 (1)調査区西壁上層(A-7)</p> <p>図版3 (1)第1号土壌遺物出土状況</p> <p>図版4 (1)第2～4号土壌全景(南より)</p> <p>図版5 (1)第3号土壌杭列</p> <p>図版6 (1)第3号土壌杭列</p> <p>図版7 (1)E-6・7区遺物出土状況(西より)</p> <p>図版8 (1)E-6・7区遺物出土状況</p> <p>図版9 (1)G・H-2・3区遺物出土状況</p> <p>図版10 (1)G・H-2・3区遺物出土状況</p> <p>図版11 (1)B-6区遺物出土状況</p> <p>図版12 (1)B-6区～E-6・7区全景</p> <p>図版13 B-6区杭列</p> <p>図版14 (1)C-5区杭列</p> <p>図版15 (1)C-3区杭列出土状況</p> <p>図版16 (1)調査区東側水田検出状況</p> <p>図版17 (1)畦畔土層</p> <p>図版18 (1)第1号土壌(3)</p> <p>(3)第1号土壌(3)</p> <p>(5)E-6・7区90</p> <p>(7)E-6・7区79</p> <p>図版19 (1)E-6・7区97</p> <p>(3)第3号土壌(5)</p> <p>図版20 (1)H-2(171)</p> <p>(3)F-0(124)</p> <p>図版21 (1)E-6・7区(114)</p> <p>(3)B-6・7(344)</p> <p>(5)G-3区(建築材)</p> <p>(7)G-3区(容器)</p> <p>図版22 各区出土土器(1)</p> <p>図版23 各区出土土器(2)</p> <p>図版24 各区出土土器(3)</p> <p>図版25 第1号土壌出土木器</p> <p>図版26 第1号土壌出土木器</p> <p>図版27 第3号出土木器(鍬・紡錘車)</p> <p>図版28 第3号土壌出土木器(又鍬・鋤・エブリ)</p> <p>図版29 第3号土壌出土木器(エブリ・エブリ状有孔湾曲板材)</p> <p>図版30 第3号土壌出土木器(エブリ状有孔湾曲板材)</p> <p>図版31 第3号土壌出土木器(エブリ・容器類)</p> <p>図版32 第3号土壌出土木器(腕輪・容器・エブリ・槌)</p>	<p>(2)調査区東側土層(F-1)</p> <p>(2)第2号土壌遺物出土状況</p> <p>(2)第8号土壌(南より)</p> <p>(2)第3号土壌土層</p> <p>(2)第3号土壌杭列</p> <p>(2)E-6・7区遺物出土状況(西より)</p> <p>(2)F-6・7区遺物出土状況</p> <p>(2)G・H-2・3区遺物出土状況</p> <p>(2)G・H-2・3区遺物出土状況</p> <p>(2)B-6区杭列出土状況</p> <p>(2)B-6区杭列</p> <p>(2)D-2区杭列</p> <p>(2)C-3区杭列出土状況</p> <p>(2)潤水田畦畔検出状況</p> <p>(2)畦畔土層</p> <p>(2)E-6・7区99</p> <p>(4)E-6・7区(建築材)</p> <p>(6)E-6・7区97</p> <p>(8)E-6・7区(101)</p> <p>(2)E-6・7区(290)</p> <p>(2)H-3(容器)</p> <p>(4)H-3(157)</p> <p>(2)G-1区(107)</p> <p>(4)F-6・7区(158)</p> <p>(6)H-3(229)</p> <p>(8)第1土壌(9)</p>
---	---

図版33	第3号土壌出土木器(容器類)
図版34	第3号土壌出土木器(容器類)
図版35	第3号土壌出土木器(柄類)
図版36	第3号土壌出土木器(杵・建築材・その他)
図版37	第3・7号土壌出土木器(杵・建築材・エブリ類・その他)
図版38	E-6・7区出土木器(鍬類)
図版39	E-6・7区出土木器(鍬類)
図版40	E-6・7区出土木器(鍬類・槌・柄)
図版41	E-6・7区出土木器(儀器類・紡錘車・その他)
図版42	各区出土木器(木炭・建築材)
図版43	E-6・7区出土木器(杵・建築材・その他)
図版44	包含層出土木器(鍬類・鋤類)
図版45	包含層出土木器(鍬類)
図版46	包含層出土木器(鍬類・鋤類)
図版47	包含層出土木器(エブリ類・鋤類・大足類)
図版48	包含層出土木器(容器類・柄類)・第3号出土木器(杵)
図版49	包含層出土木器(その他)
図版50	包含層出土木器(ナスピ形鍬)
図版51	包含層出土木器(二又鍬)
図版52	包含層出土木器(二又鍬)
図版53	包含層出土木器(二又・三又鍬)
図版54	包含層出土木器(鍬類)
図版55	包含層出土木器(鍬類・鋤類)
図版56	包含層出土木器(柄類・杵・槌)
図版57	包含層出土木器(槌・柄類)
図版58	包含層出土木器(大足類・板材)
図版59	包含層出土木器(大足類・板材)
図版60	包含層出土木器(大足類・板材)
図版61	包含層出土木器(大足類)
図版62	包含層出土木器(大足類・板材)
図版63	包含層出土木器(有孔板材)
図版64	包含層出土木器(有孔板材)
図版65	包含層出土木器(有孔板材)
図版66	包含層出土木器(板材・建築材)
図版67	包含層出土木器(有孔板材)
図版68	包含層出土木器(紡錘車・その他)
図版69	包含層出土木器(容器)
図版70	包含層出土木器(容器・その他)
図版71	包含層出土木器(儀器・容器)
図版72	包含層出土木器(儀器)
図版73	包含層出土木器(儀器)
図版74	包含層出土木器(建築材)

図版75	包含層出土木器（建築材・その他）
図版76	包含層出土木器（建築材・杵）
図版77	包含層出土石器（石斧・石庵丁・石鏃・玉類）
図版78	包含層出土石器・土製品（石錘・石斧・投弾・紡錘車）

## 表 目 次

表1	土器観察一覧表	87~91
	拾六町ツイジ遺跡出土木器一覧表	
表2	諸手鍬	93
表3	平鍬	93
表4	三又鍬	94
表5	二又鍬	94
表6	ナスビ形木製品	95
表7	その他の又鍬	95
表8	不明鍬	95
表9	着柄鋤	97
表10	長柄鋤	97
表11	エブリ	97
表12	エブリ状有孔湾曲板材	97
表13	大足状木製品	98~100
表14	杵	100
表15	タテギネ・ヨコブチ	100
表16	有柄木製品	102
表17	柄	102
表18	容器・樽	103
表19	容器 筒・高坏・蓋	105
表20	杓子・杓文字	106
表21	くさび・釘状	106
表22	紡錘車	106
表23	木鏃	106
表24	儀器	107
表25	その他の木製品	107~109
表26	板材	109~112
表27	はしご	112
表28	ねずみ返し	112
表29	建築材	113~115
表30	削材	116
表31	出土石器・石製品・土製品	117

# I 序 説

## 1. 調査に至る経過

1979年、下山門地区の児童数の増加に伴い、小学校建設の計画があがり、敷地内の大部分の土地買収が終了した時点で、教育委員会施設課より文化課に対して、当該地の埋蔵文化財についての事前の確認がなされた。申請地は「福岡市文化財分布地図(西部Ⅰ)」には遺物分布地域に入っていなかった。しかし、南丘陵部に大林遺跡、西側に城ノ原廃寺があり、また、住宅公開の用地建設に伴って調査された吉川遺跡に隣接するなど、遺跡の集中する地域であるため、その存在はある程度予想されていた。

文化課では施設課の要請により1980(昭和55)年8月27～9月3日試掘調査を実施した。合計7本のトレンチを設けたが、各トレンチから木製品、杭列が検出され、埴子、杵等が出土し、土器は少量しか認められなかったが、学校建設予定地内全体にその分布があり、全体が遺跡として扱えられた。申請地は周辺部が宅地化が進んでいるのに加え、深田と呼ばれる湿地であり、遺物包含量まで約1.2mと深く、湧水が著しく、調査範囲が広大であることから、調査期間が長期化する可能性がもたれた。教育委員会では、下山門周辺地区の著しい児童数の増加に対応するには、遅くとも昭和57年4月に開校することが望ましく、早急に調査をする必要があった。文化課では、他にも多くの調査箇所を抱えていたが、施設課、学校建設公社と協議を進め、昭和55年11月より調査に着手し、付換道路、水路部分より調査を開始することにした。調査期間は約6カ月間を予定した。

## 2. 調査の組織

調査委託 福岡市教育委員会

調査主体 福岡市教育委員会文化部文化課埋蔵文化財第1係

調査担当 山口譲治 松村道博 浜石哲也

事務担当 岡島洋一

発掘補助 岡部裕俊(同志社大学)、杉山富雄(現福岡市教育委員会文化課)、浜石正子、國代柚香(奈良大学)、平川祐介(福岡大学)、本多俊明(国学院大学)。

整理補助 岡部裕俊、赤司善彦(明治大学)、上教額久(九州大学)、浜石正子、宮原晋一(広島大学)。

樹種識別 嶋倉巳二郎

発掘・整理作業にあたっては以下の人々の協力を得た。

横溝恵美子 藤タケ 米島ハツネ 清水文代 海津静枝 倉光三保 倉光ユキエ 石橋輝枝  
新町ナツ子 山口富子 緒方マサヨ 伊場秀子 柴田春代 柴田勝子 柴田タツ子 林久子  
後藤ミサヲ 浅見秀子 平井和子 宮原邦江 中川保子 石橋信子 土妻崎艶子 得丸礼子

原幸子 伊藤武志 青柳恵子 神月漢千枝 奥田洋美 村上かをり 釜淵耐美 鳥飼喜代子  
高木静代 須原純子 山口朱美 河鍋允子

発掘調査、整理作業では乙益重隆、金子裕之、後藤直、高倉洋彰、立平進、千々和実、坪井清正、西谷正、藤井功、町山章、松岡史、三島格、森貞次郎、横田義彰、横山浩一、渡辺誠の各先生に御指導、助言を得た。記して感謝したい。

### 3. 遺跡の位置と周辺の遺跡

拾六町ツイジ遺跡は福岡市西区大字拾六町字ツイジに所在する。早良平野は室見川を中心にした大小の河川によって形成される複合沖積地により形成されるが、遺跡はその西端部にあたり、標高約5mを測る。周辺部は宅地化が進み、農耕地は極めて少なく、水田可耕地は減少傾向を示す。遺跡は十郎川の西約180m、生ノ松原の海岸線から約1.8km南側に位置し、叶ヶ岳、飯盛山から北へ延びる丘陵は起伏の著しい谷部を形成し、早良平野と糸島平野を分断する丘陵の東側部に占地する。周辺部を見渡すと、南側から北西部にかけて、標高12~13m前後を測り、南から北へ向って低くなる丘陵が急峻に立ち上がる。東から北へかけては現在下山門を始めとして大型団地が展開し、眺望が極めて悪いが、以前は水田地帯で海を見渡すことができた。

この丘陵部及びその沖積部には野方中原遺跡、宮ノ前遺跡、湯納遺跡など多くの遺跡が確認され、調査が実施されている。縄文時代の包蔵地は少なく、遺構を伴うものは知られていない。弥生時代では夜臼式土器を多数出土した十郎川遺跡が目立つ。自然堤防上に占地する遺跡で、土器出土に一定の集中する部分があり住居状況を呈する。遺物は土器とともに黒環石製石鏃、大陸系石器、石錘など生活用具が一括して出土している。他にもこの時期の遺跡は数例あるが、その量は散在的である。板付遺跡では水田地が検出されているが、早良平野では今のところ検出されていない。中期では遺跡数は増加するが大きく展開するのは後期に至ってからである。野方中原遺跡では弥生時代から古墳時代にかけての大集落跡で、環濠を有している。漢式鏡片を副葬する墳墓も検出されて、ある程度の権力の集中が認められる。弥生時代の終末の墳墓に宮ノ前D遺跡があげられる。円墳状の高塚を築き、その裾部上墳墓を有する集団墓で、古墳時代への始動をうかがわせる墳墓である。古墳時代の集落跡は野方中原遺跡を始め下山門南遺跡などの遺跡で認められ、また古墳は、前期のものは認められないが、後期になると草場古墳群など多数の群集墳が丘陵部に築造される。さらに歴史時代では奈良~平安時代の城ノ原廃寺や、下山門遺跡、十郎川遺跡など越州窯系磁器を出土する遺跡もあり、連続と遺跡が展開する。この地域は和名称の額田郡に比定される地域で、奈良区割を良好にその跡をこどめている。

本遺跡の調査で、舟型木器、女性陰部を線刻する板材、漁網錘などで明らかに、漁撈活動を示す遺物が周辺部の下山門南、野方中原遺跡などで出土しており、その生産基盤を農耕活動だけの所産と考えることは困難である。しかし、拾六町ツイジ遺跡、湯納遺跡でも多くの木製農耕具の多数の出土は、明らかに農業にその生産活動の重点を置いたものと推定されよう。

## II 調査の記録

### 1. 調査概要

発掘調査は1980年11月から1981年7月にかけて実施した。1979年の試掘調査の結果、弥生時代以降の水田址と考えられ、学校建設地内全域に遺構及び遺物の存在が予想された。

調査は、学校建設予定地内全域の調査をめざしたが、小学校開校が決まっており、学校用地の造成及び校舎建設工事の工程に合せる形で日程を組んだ。その結果、運動場用地に関しては、今後の調査にゆだねることとし、保存地区とした。調査に入る前に、学校用地全域に20×20mの方眼を組み調査区を設定した(第3図参照)。

調査は、造成工事の工程に合せた形でA・B-6・7区から行ない、E-6・7区、B-6区、C-6区、D-6区、F-6・7区、E-H-0-4区と実施した。さらに運動場用地に遺構の広がり、遺物の有無及び土層堆積状態を観察するため4×37mの調査区をC・D-2・3区にそれぞれ設定して調査を行なった。以下各調査区の概要について述べていくことにする。

A・B-6・7区、B-6区は調査対象北西部に当り、北西部コーナーから南に40m、東に13mの調査区である。この調査区では、中央部のV層中に3カ所の流木集中区があり、二又鎌など19点の本製品が出土した。さらにB-6区を13×23m拡張して調査を行なった結果、農耕具を主体とした木製品100点が出土した。A・B-6・7区では、時期決定できる資料は出土していないが、E-6・7区の第V層と同一層であること、木鏝(5世紀前半と考えられる)が出土していることなどから、5世紀前半の時期のものと考えられる。遺構としては、南北に走る杭列・南西から北東に走る平行する2列の杭列が確認されたが、時期的には5世紀前半または5世紀よりさかのぼる時期のものと考えられる(第39図参照)。

C-6・7区、D-6・7区はそれぞれ25×20m、20×20mの調査区を設定し、調査を行なったが、遺構は検出できず、遺物も少量出土しただけである。

E-6・7区、F-6・7区、F-5・6区は調査対象地の南西部に位置する調査区で、東西36m、南北34mで対象地ぎりぎりまで調査を行なった。本調査区では第VI層中から掘り込まれた弥生時代前期初頭(板付1式・夜門式土器共伴期)の第1号土壌が確認された。

第1号土壌からは土器とともに、諸手鎌・ユブリなどの木製品を主とした56点の木製品が出土した(第4・6～11図)。

また、本調査区の西の一部で台地が確認され、台地際から第V層が堆積している。台地上には、密着した状態で5世紀前半の土師器が出土し、第V層中からも同時期の土器が多量の本製品(81点)とともに出土した(第14図)。

また本調査区では2列の杭列が確認された。

東部調査区(E-H-0-4区)では校舎建設が予定されている地区で、調査設定方眼のF-H-1～4区を全掘し、E-F-0区、F-0～4区を拡張した。この調査区では、第1号土

墳と同時期で同様の性格をもつ第2号土壇や弥生時代前期後半の溝状をなす土壇3基・弥生時代後期の土壇1基・弥生時代の土壇2基が確認され多量の木器を主とする遺物が出た。また第V層面では、古代の水田址が確認されたほか、弥生時代から古墳時代の枕状が確認され、第V層上面・下面からは古代・古墳時代以前の木製品が多量出土した(第42図)。

以下、遺構・遺物(表1~31参照)について報告する。

## 2. 遺構と出土遺物

### 1) 第1号土壇(第4図、図版3)

E-6・7区の北西隅に位置し、木器包含層の下から検出された。夜臼・板付I共伴期の弥生時代初頭の土壇である。八女粘七層下の黒灰色砂質土に掘り込まれ、南北3.80m、東西2.84mの平面形が略五角形の大形土壇である。断面は深皿状で深さ約0.42mを測る。壁面は少なからず、床面は多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。木製品は上層からは板状の割材と自然木が少量出土していただけであったが、下層にいくにしたがって、鉄の未製品、手斧柄末製品1点、柄末製品1点、横槌1点、木製容器2点が出た。これらの木器とともに、夜臼式土器・板付I式土器も出土している。鉄・エブリの未製品を加工した段階で一度貯蔵し、仕上げの段階で、再度取り上げて加工する可能性が高いが、今度の第1号土壇の状況では舟形容器、高環状木製品等、明らかに完成品を包蔵している点が疑問点として指摘されよう。しかし、半製品が多く占める点は注目に値しよう。

出土遺物(第6図1~9、第7図~第11図11~13) 1は甕で復元口径22.3cm。口縁部に突帯をめぐらし、外面は横方向の条痕が残る。茶褐色で焼成良く、胎土に石英粒を含む。3は鉢で、下半部を欠失する。胴部上半で屈曲し、外反する。2・5・8~9は壺の頸部~口縁部~口縁部の破片である。口縁部は肥厚し、頸部の境に大きな段を有する。5・7~9は板付I式。9は内外面に黒漆を塗布し、さらに口縁部内側に赤色顔料で鋸歯状の文様を描き、その中に平行線を有する。木器1・2は片面に自然面を残し、表面中央部に方形ないし円形の突起部を削り出す半製品の概である。裏面は大きく凹ませ、両端部を平らに造り、横に溝状の切り込みを入れる。2は手斧柄の部製品で、柄部は樹皮を残し、台部は上下を荒く切断し、一面に割面をもつ。全体に荒い加工である。5は扁平片刃石斧の台部で、柄を欠失。全体に丁寧な加工が施される。4は容器で、側面、木口部の一部しか遺存していない。平面長方形の浅いものと考えられる。11は柄の半製品で、表裏面を中央部位まで平坦に加工。全長2.68cmで、先端部は屈曲する。7は棒状で、全体に荒い加工で、半製品の可能性もある。13は平面長方形、断面三角形の容器破片である。表面に黒漆を塗布後、平行線を赤漆で描く。6は用途不明な木器である。大きく屈曲する柄に、短筒形の身部がつき、柄と反対方向に屈曲し、先端部は肥厚する。身部と柄の境には突起状の削り出しを有し、側面には自然面を残す。加工は全体に丁寧な仕上げで、削り痕を良く遺す。この形態の木器は唐古遺跡に一例あるが、他に類例を知らない。

### 2) 第2号土壇(第5図、図版3)

第8号土壇の北隅に検出された土壇で、板付I式・夜臼共伴期、弥生時代初頭の土壇である。

第1号土壇と同じく、八女粘土層下の黒灰色砂質土に掘り込まれ、南北2.42m、東西2.23mの平面形が略円形の土壇である。断面は深鉢状で、深さ0.81mを測り、中央部に段をもち、二段の掘り込みである。出土遺物は4~5分割の大木の削材、自然の丸木材(径15cm、長さ82cm)、小枝材などの自然木がほとんどで、木製品は諸手織未製品が1点と土器数点があげられる。削材は木器の原材となり得るものかも知れない。

出土遺物(第6図10~12、第10図8)土器10は壺の胴部破片で外面に横方向へう磨きを施し、内面は横方向に板状調整を施す。最大径は肩部近くにある。11・12は壺の底部で、11は削り状の椀痕を持つ上げ底である。木器は諸手織の未製品で中央部に舟型突起を有する。柄孔以外は製品とほぼ同様に仕上げられている。保存状態は著しく悪く、刃部の加工は不明である。

### 3) 第3~8号土壇

東照調査区では、第VI層下面から八女粘土層まで掘り込まれた第2号土壇と、第VI層上面から八女粘土層まで掘り込まれた土壇8基が確認された。

以下各土壇ごとに述べていくことにする。

#### 第3号土壇(第12・13図)

第VI層上面から八女粘土層まで掘り込まれているが、人為的に掘られたか否かは不明である。長径32m、短径6m、深さ1.15mの不定形の土壇で、平面プランは凹凸が多い。底はほぼ平坦になっている。

本土壇は暗褐色砂質土、茶褐色シルトが堆積した後、黒色から黒褐色の粘質土・粗砂が堆積している。この後、本土壇の北東部壁に沿った形で櫛状の杭が打ち込まれている。この杭列の杭は、径3~6cmで、ほとんどが芯持ち丸木的一端を尖らせたもので、長さは80cm前後のものである。さらに灰白色砂・茶褐色砂が堆積した後、東西に横切る杭列(b-b'、d-d')が設けられている。東西に土壇を横切る杭列の杭は、径3~5cm、長さ40cm前後の芯持ち丸木の杭である。この後、黄白色~灰褐色の砂が堆積している。この土壇付設の杭列は、北東部壁に沿って分布するものは、密に打たれており、壁の崩落を防ぐための柵と考えられる。東西に横切る杭列は25~30cmの間を置いて打ち込まれており、立杭に横木をはさんだ復跡もないことから堰とも考えられず、用途はわからない。

本土壇からは、木器と多量の土器が出土した。本土壇出土の土器は、茶褐色砂質土層を境として、時期的に分けられる。従って、遺物は、茶褐色土層から上の堆積層に入っているものを上層として分けた。下層からは夜臼式土器(第16図17~20)・板付Ⅱ式土器(第16図14~16・21・22・24、第17図25・26)が出土した。夜臼式土器は、本土壇が第VI層を切っており、混入と考えられ、本土壇下層の遺物は弥生時代前期後半から前期末に位置づけられる。一方上層は、後期初頭の土器(第16図23)などが混入していることから弥生時代後期初頭に位置づけられる。木製品は134点が出土した。下層出土のものは、前期後半に時期限定(腕輪など)できるが、他の製品は時期決定できなかった。しかし、弥生時代後期初頭以前に位置づけできる(表2~30参照)。

また本土壇の広がった個所には4~8本の環状の杭列があり、水利施設と考えられる。

本土壤は、弥生時代前期後半から弥生時代後期にかけて用いられた水利施設（水田付設か）と考えられる。

#### 第4号土壌（第14図）

F-2区に位置する最大幅6m、長さ22.5mの土壌で、深さは60cm前後の溝状の土壌である。

本土壤からは、杵(56)、杓子(53)、着柄鋤(21)、有柄木製品(70)の4点の木製品と、流木が出土しただけで、他の遺物の出土はなかった。

この土壌と第3・6号土壌は、浅い溝状遺構でつながっており、杵や着柄鋤が第3号土壌下層出土のものと同様ことから、本土壤は弥生時代前期後半に位置づけられよう。

#### 第5号土壌（第14図）

H-3区に位置する土壌で、第8号土壌に切られている不整形の土壌で、底面は2段になっており、最深部は上場から1.40mある。

本土壤からは、板付Ⅱ式土器とともに、鉄斧柄(42)、組合せ容器？(48)、諸手鍬(264)など5点の木製品と流木などが出土した。

以上から本土壤は、弥生時代前期後半から前期末に位置づけられる。

#### 第6号土壌（第14図）

F-1区に位置する土壌で、径7.5mの不正円形をなす土壌で、深さは1.6mを計る。第Ⅴ層上面から八女粘土まで掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。本土壤からは、流木が出土したのみで、人工遺物の出土はなかった。

堆積土層、Ⅴ層下層が上面をおおっていること、第4号土壌と溝状遺構でつながることなどから弥生時代前期後半の土壌と考えられる。

#### 第7号土壌（第15図）

E・F-0区に位置する土壌で、F-0区に位置するものと、E・F-0区に位置するものに分けるべきかもしれない。切り合い関係ではF-0区に位置する土壌が後者を切っている。溝状を呈する土壌で、深さは約1mである。本土壤からは、エブリ(75)など3点の木製品と流木が出土したが、土器など時期決定できる遺物の出土はなかった。

本土壤は、第Ⅴ層下層から掘り込まれていることから、弥生時代後期と考えられる。

#### 第8号土壌（第15図）

本土壤は、H-3・4区に位置する溝状の土壌で人為的なものか否かは分からない。調査区南端に位置していること、幅8m前後で台地となることから台地際に位置する自然流路とも考えられる。深さは80cm前後で、第5号土壌を切っている。

本土壤からは多量の土器と少量の木製品が出土した。出土土器は弥生時代後期初頭（第17図27～第19図63）の単一時期の上器（前期～中期のものも少量含む）で、完形品が多く、祭祀的意味をもつものかもしれない。木製品は少なく、4点であるが、多量の流木が出土した。

以上から本土壤は弥生時代後期初頭に位置づけられる。

#### 4) 水田址及び杭列

東側調査区では、中世・古代の水田址が確認された。東側調査区C・D-3・4区、E・F-

5～7区、A・B-6・7区で古墳時代（5世紀前半）から弥生時代後期にさかのぼる杭列が確認された。また、第3号土壇の溝状に広がった所には、4～8本の弧状の杭列があり、水田の水口と考えられる。第3号土壇・第4号土壇は幅1m前後、深さ70cm前後の溝状遺構でつながっており、水田址に伴う水利遺構と考えられる。以下、水田址及び各杭列について概要を述べていくことにする。

#### 古代水田址（第35図）

東側調査区（E～G-0～4）の第V層面を出した所で畦畔が確認された。畦畔を残して調査を進めた結果、11区画（水田）を検出した。

各水田耕上面の標高は、3.15m前後で、耕上面及び畦畔上には無数の足跡が確認された。なお床土にあたる上層は10～25cmの深さを持ち、畦畔は土盛りで、床土下面から盛り上げられている。畦畔の幅は、1～1.5mの幅を持ち、30cm前後の高さをもっている。畦畔の盛土はシルト・粘質土・砂を互層にして土盛りした後、砂が盛り上げられている。場所によっては、畦畔の流出を防ぐために流木や板材をのせ数本の杭で止めている所もある。なお畦畔は東西・南北方向に走り、東南方向からの力を受けたと考えられ、北西方向に流れている。

水田は11枚確認されたが、広さを限定できるものはなかった。しかし、水田8が15×11mの広さを、水田9が25×25mの広さをもつと考えられる。

水田の時期は、水田耕上面から第V層最上層に木器を主体とした多量の遺物を出し、これらの遺物が奈良時代末期から平安時代初期と考えられること、畦畔が第VI層及び第V層下層上面の上に盛り上げられていること、第V層上層の木製品が堆積した時点で水田としての機能を失したと考えられることなどから、奈良時代末期から平安時代初期の水田址といえよう。

#### 杭列（第3・37・39図）

杭列は第V層中で確認されたE・F-5～7区の杭列（N-42'～W）、A・B-6・7区で確認された杭列とC・D-2・3区、東側調査区（E～H-0～4）、F-6・7区（N-77'～E）のように第V層下層、第VI層上面で確認されたものがある。これらの杭列は、ほぼ20～30cmの間を置いて直線的に打ち込まれている。また杭は、径3～6cmの芯持ち丸木の一端を尖らせたものである。

杭列の性格は、直線的にのびることなどから水田の区画をなすものと考えられる。

杭列の時期は、第V層で確認されたものが古墳時代（5世紀前半）で、第V層下層、第VI層で確認されたものが、弥生時代後期と考えられる。

### 3. 包含層の調査

包含層までの深さは、八女粘土を基盤とする台地部に接するE-6・7を除けば、ほぼ1.0～1.2mを測り、全体的にはほぼ同一高であるが、北に向ってわずかに傾斜を示す。包含層はV層と呼称した茶褐色砂質土層で、厚さ約20～30cmの厚さに堆積している。IV層は中世の層で青灰色粘質土層である。この層は遺物量も少量であることや、試掘調査で明確な遺構を検出していないこと、V層の遺物が多量であり、校舎建設の着手時期の都合からV層の調査に主眼を置

き、機械力で除去する方法をとった。

遺物の分布は、その出土状況により大きく三カ所に集中する場所が認められる。①E-6・7区、②A・B-6・7区、③H-2・3区を中心とした調査区東側に区分できる。E-6・7区は古墳時代前期4世後半～5世紀と考えられるもので、調査区の南西隅にあり、さらに調査区外へと延びる。この調査区の南側は北西方向へ延びる水田耕作土の直下は八女粘土層で、南東部から北西部へ横切るように台地が拡がり、その台地から5～6m離れた北西部に地表下約70cmの位置より幅14～15cm、長さ5mの範囲に木器、土器が集中して検出された。調査区の西端部近辺か、木器出土の中心地点にあたると考えられ、さらに西側へ拡がり、その範囲は幅20～30mの帯状になるものと推定される。この調査区では、他の調査区と異なり、時期決定できる多くの土器が出土している。91の須恵器を除けば、木器はイスノキ製の木鏝、小型の舟形木製品、ネズミ返しなどの建築材など総数81点の木器が検出された。

A・B-6・7区は地表下約1m位で幅15m、長さ20mの範囲に厚さ30～40cmの範囲に木器の分布がみられる。さらに北側へ拡がるが、試掘調査で、遺物の出土が少ないことから調査事務所用プレハブを設置していたので、それ以上の調査を実施することは不可能であった。木器は第4図111のみで、その時期は明らかではないが、木器の形態を観察すると古墳時代～奈良・平安時代と考えられよう。この調査区では紙、建築材、紡織具を中心として、総数114点の木器が出土している。

調査区東側地区はH・G-2・3区に特に著しい遺物の出土がみられた。それ以外の区域からは全体的にまとまりはなく、散在的に検出されている。この分布区域には層位的にはV層と区分できないが、V層下として取り上げた弥生時代から古墳時代の包含量がある。G・H-2・3区は、先に述べたように第3・8号土壌の上層にあり、木器とともに多くの弥生式土器が多く出土しており、その時期の所産の可能性が高い。他の地区では第4図106～115にみられるように古墳時代～12・13世紀の土器を出土し、その時期を明らかにすることは困難であるが8～9世紀を中心と考えて太過はないであろう。

以上、述べたように時期的に異なる多くのものが同一層から検出されているが、木器の保存状態、その堆積状況から、一度堆積し、その上層が削平を受け、その上にさらに堆積するといった、堆積→削平→削平が長い時期にかけて行われた結果の所産と考えられよう。

### Ⅲ まとめ

本遺跡では、古代の水田址確認や多量の木製品が出土したこと、木製品の中で時期限定をできる資料が出土したことなど大きな成果を得た。本報告は、多くの未整理の遺物を残したなかで作製したものであり、ここで少し整理しておくことにする。

出土遺構としては、弥生時代前期初頭（板付Ⅰ式・夜臼式土器共存期）の土壌2基（第1・2号土壌）、弥生時代前期後半の土壌3基（第3～5号）、弥生時代後期初頭の土壌1基（第8号

土壌)、弥生時代の土壌 2 基 (第 6・7 号土壌)・杭列、古墳時代 (5 世紀前半) の杭列、奈良時代末期から平安時代初期・平安時代末期から鎌倉時代の 2 期の水田址が確認された。

第 1・2 号土壌からは、前述したように未製品を中心とした多量の木製品が出土していることなどから、木製品の製作工程の中で利用された土壌といえよう。板付遺跡 G-7 b 区の夜臼式土器期の溝の欄部の畝など未製品出土、同遺跡 E-6・7 区夜臼式土器期の諸手轆・エブリ未製品出土例と共通するものといえよう。

第 3～8 号土壌は水稲耕作に関連する水利施設と考えられるが不明な点が多く、今後の課題としたい。

## 1. 出土木製品について

本遺跡では、諸手轆 (未製品・エブリ未製品を含む) 12 点、半轆 21 点、又轆 52 点、ナスビ形轆 3 点、その他の轆 11 点、鋤 20 点、エブリ 12 点、エブリ状湾曲板材 5 点、大足 52 点、杵 16 点、槌 8 点、有柄木製品 (櫛・ナギナタ状木製品を含む) 7 点、柄類 (農具・工具を含む) 29 点、槽 29 点、桶などの容器類 13 点、杓子や杓文字類 6 点、クサビ (農耕具を含む) 4 点、紡錘車 4 点、木鎌 15 点、儀器 (腕輪を含む) 9 点、その他の木製品 61 点、板材 158 点、梯子 5 点、鼠返し 3 点、建築部材 105 点、削材 22 点の総計 682 点を取り上げた。このほか、切断した丸太材や柱材と考えられる建築材、組むせ用の部品と考えられる板材、杭などを含めると、約 7,000 点の人為的な木製品が出土した。

以上の木製品から時期の限定できるものをあげると、弥生時代前期初頭のもの (第 1・2 号土壌出土)、弥生時代前期後半のもの (第 3 号土壌下層・第 5 号土壌出土)、弥生時代後期初頭のもの (第 3 号土壌上層・第 8 号土壌出土)、5 世紀前半 (初頭?) のもの (E・D-5～6 区出土)、8 世紀末から 9 世紀初頭のもの (東側調査区出土) がある。

### 1) 弥生時代前期初頭の木製品

弥生時代前期初頭の木製品は、第 1 号土壌から 22 点と、第 2 号土壌から 2 点が出土した。この 2 基の土壌からは、径 40cm、長さ 60cm の切断したカシの丸太材や削材も多数出土した。

第 1 号土壌出土の木製品は、高環 (9・10)、槽 (4)、有柄木製品 (6) が製品で、他はいずれも未製品である。有柄木製品は、農具と考えられるが、用途については不明である。類似品としては、唐古遺跡にみられる<sup>1)</sup>未製品としては、諸手轆未製品 (1・3・253) があり、いずれもカシを素材として柾目取りしている。轆の未製品は、ソリが大きく、エブリと考えるべきかもしれない。また板付遺跡 G-7 b・E-6・7 区<sup>2)</sup>で出土している同種の未製品は、ソリをもたないことから時期差・地域差が考えられよう。他に手斧柄木製品 (5) など工具の木製品が出土している。第 2 号土壌出土の諸手轆未製品 (8) は、弥生時代前期末に位置づけられる鉾町・瑞穂遺跡出土の諸手轆になると思われる。また、第 1 号土壌出土の諸手轆未製品は、鹿部山遺跡で中期初頭の出土例がある。第 1 号土壌出土の 254～256 はイスノキ (日本で一番芯が固い樹種)<sup>3)</sup>を素材としていることから興味もたれる。

## 2) 弥生時代前期後半の木製品

弥生時代前期後半の木製品は、第3号土壌、第5号土壌から38点の木製品が出土している。この時期の木製品は、農耕具(鋏・鋤・エブリ)は21%で、その他の農具(杵・杵)5.2%、槽18%である。第3号土壌で取り上げたものにも下層出土のものも多く、参考までに出すと、農耕具は20%、農具は6%となる。第3号土壌出土(上層を除く)の農耕具各器種の割合は諸手鋏24%、又鋏30%、鋤16%、エブリ類30%である。

本時期の木製品として、注目すべきものをいくつか上げておく。二又鋏(15・16・257)は、いずれも同形態をもっており、箱形の体部に3本の短い刃部をつけたもので、着柄角は67.5~81°と比較的急である。着柄鋤(19)の出土は注目される。この時期の農耕具は、20の着柄鋤をのぞいてすべて、カシの材を用い、柁目取りである。農具では、杵(55・128・269・275)・碇(35)が出土しており、杵は握部にそろばん玉状のつくり出しをもっている。そのほか箱形の片側小口に紐通し孔をもつ槽(44・50など)が多いことがめだつ。装身具としては、腕輪(14)がある。腕輪は、黒ウルシの上に赤ウルシを重ねており、縄文時代以降の伝統と考えられる。工具類では鉄斧柄(42)、鉛刃石斧柄(41)が出土している。鉄斧柄は鑄造鉄斧の柄と考えられるが、この時期の鑄造鉄斧の出土がなく、問題が残りそうである。

## 3) 弥生時代後期初頭の木製品

第3号土壌上層出土のもの20点、第8号土壌出土のもの3点がある。この時期の木製品の出土は少ないが、農耕具としては、平鋤木製品・エブリ(23・24・29)・エブリ状有孔湾曲板材(26・27・31・261・277)がある。

エブリ状有孔湾曲板材は、体部に1~3個の1.4cm前後の方形孔をもち、湾曲した内面に柄装着時のものと考えられる凹みがある。この器種はいずれも柁目取りをしており、両側縁部に刃をつくり出している。エブリと同じ用途と考えられるが、他遺跡からの出土例はない。

## 4) 古墳時代(5世紀前半)の木製品

E・F-5~7区V層出土のもの81点がある。ここでの農耕具の割合は28%で、杵・碇類は7%、木鋸9%である。また農耕具各器種の割合は、平鋤(木製品含む)22%、又鋏57%、その他の鋏(不明鋏)8%、鋤13%である。

農耕具は、78・80のイスノキ製の平鋤を除いて、いずれもカシを用い、柁目取りをしている。二又鋏が多いのがめだつ。注目すべき遺物としては、小形模造船(110)、木鋸(103~109・242)がある。木鋸の本遺跡出土のものと同じ例は、湯納遺跡出土のものがある。104がチヤノキ、242がタイミンチバナを用い、109(板バサミ?)を除いて、ほかはすべてイスノキを用いている。木鋸は、細かい削り加工後研磨を加えて仕上げられており、尖端部はつぶれており使用時のものと考えられる。

## 5) 古代(奈良時代末~平安時代初期)の木製品

東側調査区のV層出土で、250点出土した。この時期の木製品の割合は、農耕具が10%、農具(柄・大足状木製品を含める)22%、槽4%、容器・杵子類3%、儀器2%、板材40%となる。農耕具からみていくと、いずれもカシ材を用い、木取りは柁目である。農耕具の器種の割

合は平鍛19%、又鍛36%、ナスビ形鍛11%、不明鍛11%、鋸19%、エブリ4%となる。

V層出土の木製農耕具は、ナスビ形鍛(138~140)のように、この時期のものと考えられないものが入っており、IIで述べたように削平及び整地が繰り返されたため出土したものと考えられる。本層出土の木製品にこのような遺物が多いと考えられる。

この層からは儀器と考えられる遺物が6点出土した。237の剣形木製品は、スギの木目をうまく利用して精巧に作られているが、鞘部の中ほどから削り加工が加えられており、意図的に破したものと考えられる。この製品も古墳時代のものであろう。246は、女性性器の彫刻がある木製品である。247は、鳥形木製品の平面化したものと考えられる。248は、木偶で、ケズリによってコケシ形に成形し、頭部をつくり出し、目・鼻・口を線刻によって描き、腕も切り込みを入れることによってつくり出している。193・248は人形と思われるが、墨痕もなく、腕・脚部のつくり出しはないが、人形に類似するので儀器とした。

#### 6) A・B-6・7区出土の木製品

この区では114点の木製品が出土し、割合は農耕具21%、その他の農具(大足を含む)7%、木織4%、板材32%などである。また農耕具の器種の割合は、平鍛25%、又鍛58%、不明鍛13%、鋸4%となる。

この調査区の木器は、古墳時代5世紀前半のものが多いが、古代のものも混入している。

#### 7) 東側調査区V層下の木製品

44点の木製品が出土した。木製品の農耕具の割合は、諸手鍛5%、平鍛19%、又鍛33%、不明鍛14%、鋸24%、エブリ5%である。

この層出土の木製品は、弥生時代後期から古墳時代(5世紀前半)のものといえよう。

註1 末永整雄・小林行雄・藤岡謙二郎1942『大和唐古宗生式渡脚の研究』図版75の97

註2 山崎純男編1979『板付遺跡調査概報』P49Fig.82・83

山口藤治編1981『板付一般付合館建設に伴う発掘調査報告書』P28~P31

註3 a. 力武幸清編1976『福岡遺跡』P47

b. 吉岡完祐編1980『瓊糖』P42

福岡遺跡のW42・瓊糖遺跡第15区14に類似する製品になると考えられる。

註4 船倉巳三郎氏の教示による。

註5 山口藤治1983『福岡市拾六町ツジ遺跡出土の漆塗木製農具』『古代文化』第35巻1号』P49~P52

註6 栗原和彦編1976『令播バイパス発掘遺文化財調査報告』第4集P112、第114図3

註7 山口藤治1981『線刻画を有する木製品』『月刊文化財』218号』P42

## 2. おわりに

本遺跡の調査では、8基の土壌・枕列・古代の水田址が確認され、木製品を中心とした多量の遺物が出土し、多大な成果を得て終わったが、整理はこれから始まるといった感がある。

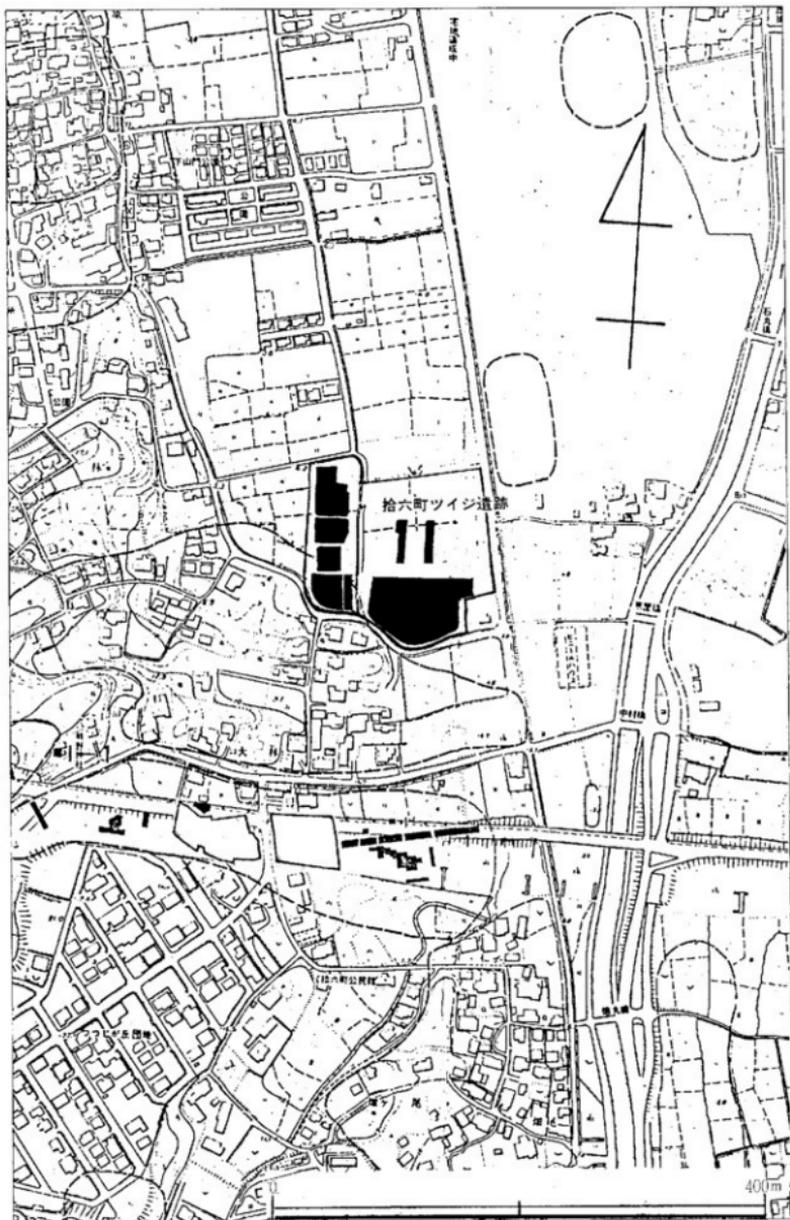
なお、出土遺物は、埋蔵文化財センターに収蔵保管してある。

未報告の遺物については、今後別紙にて紹介していくことにする。

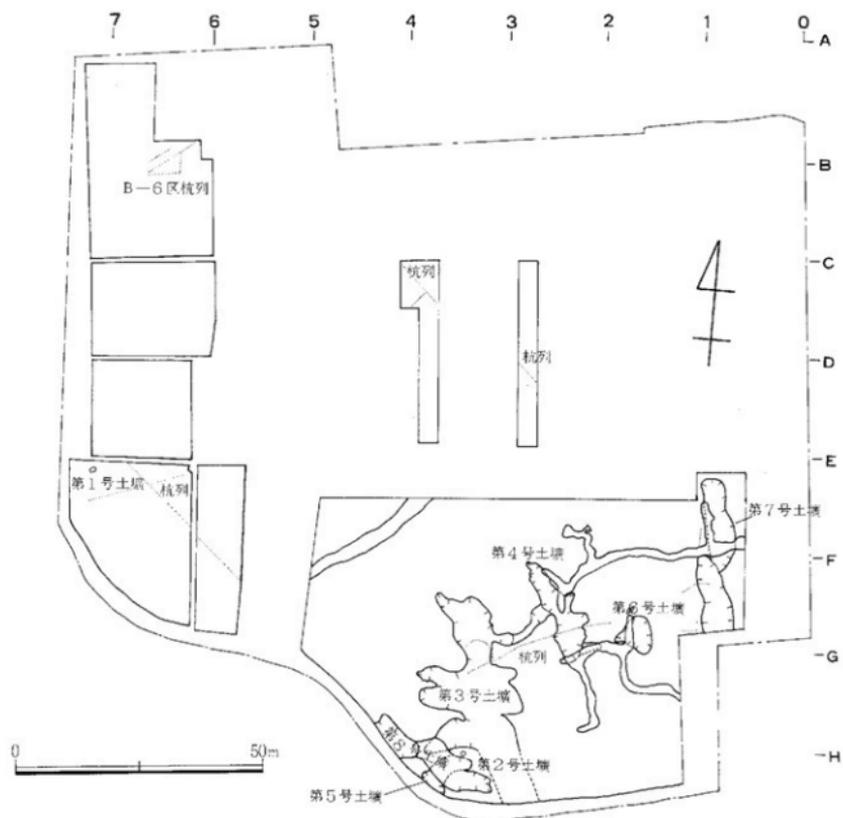


1. 有田・小田部遺跡 2. 田村遺跡 3. 四箇遺跡 4. 吉武遺跡群 5. 野方中原遺跡 6. コノリ遺跡  
 7. 牟多田遺跡 8. 十郎川遺跡 9. 湯納遺跡 10. 大又遺跡 11. 拾六町ツジ遺跡 12. 下山門遺跡

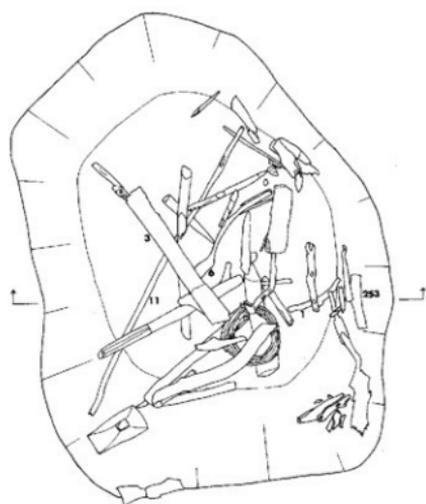
第1図 志賀の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 地形測量図 (1/4,000)



第3区 調査区の配置と遺構全図

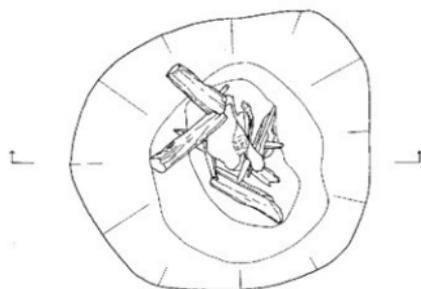


L = 400m



0 1m

第4图 第1号土壤实测图

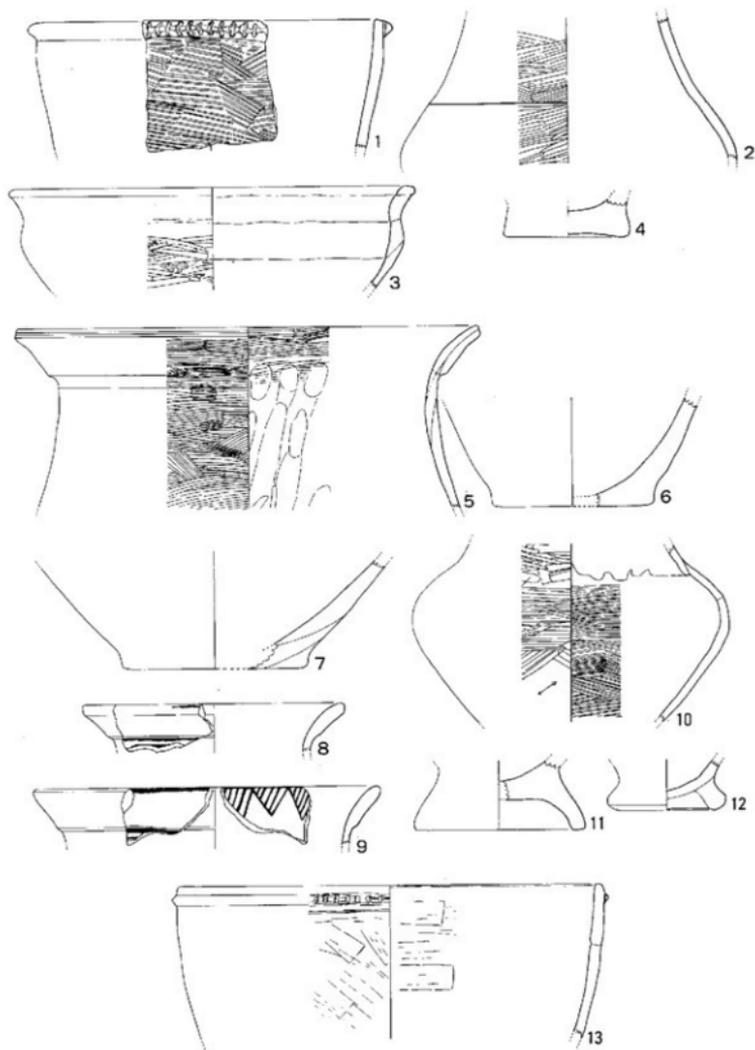


L = 3.40m

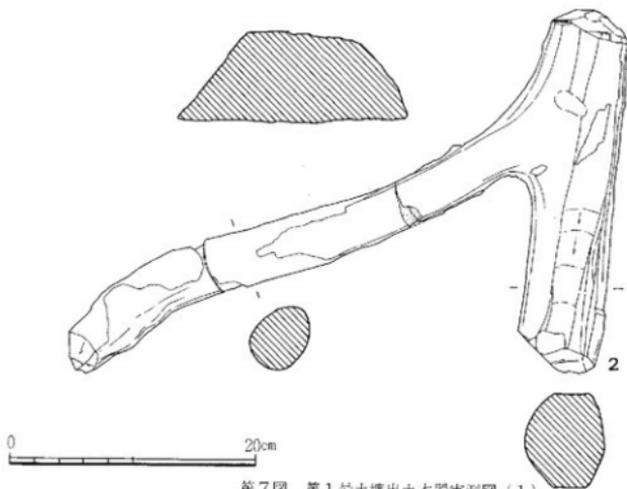
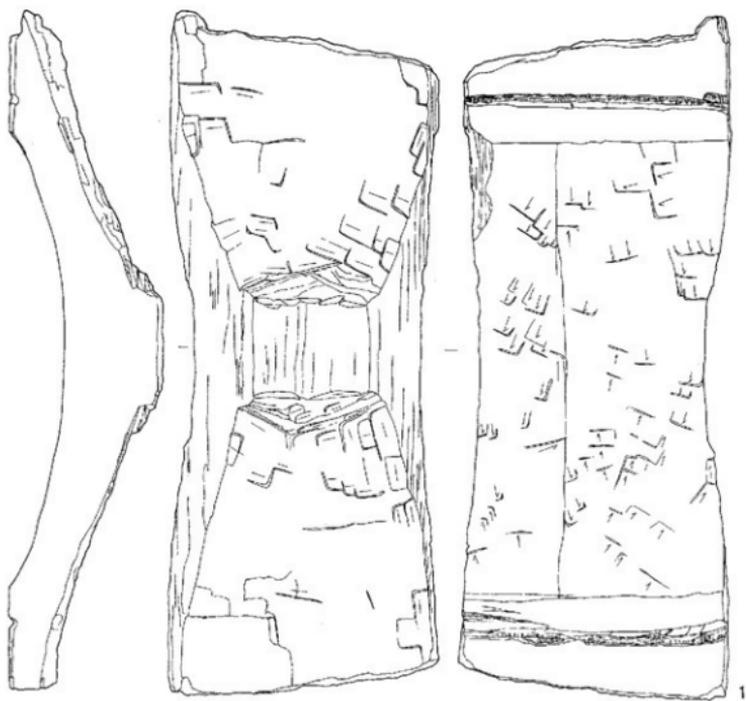


0 1m

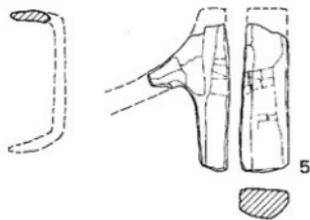
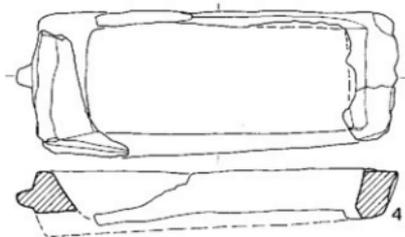
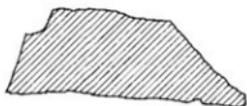
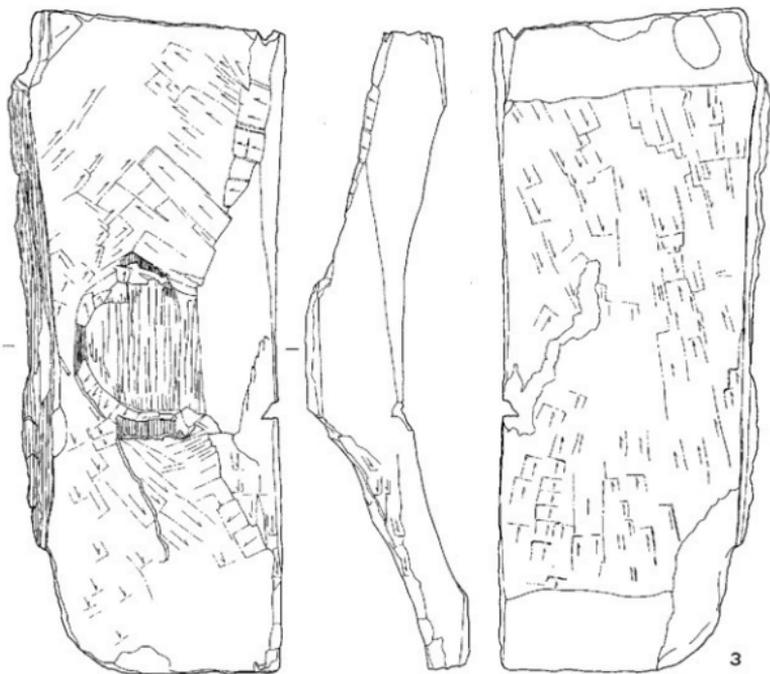
第5图 第2号土壤实测图



第6图 第1·2号土坑出土土器实物图

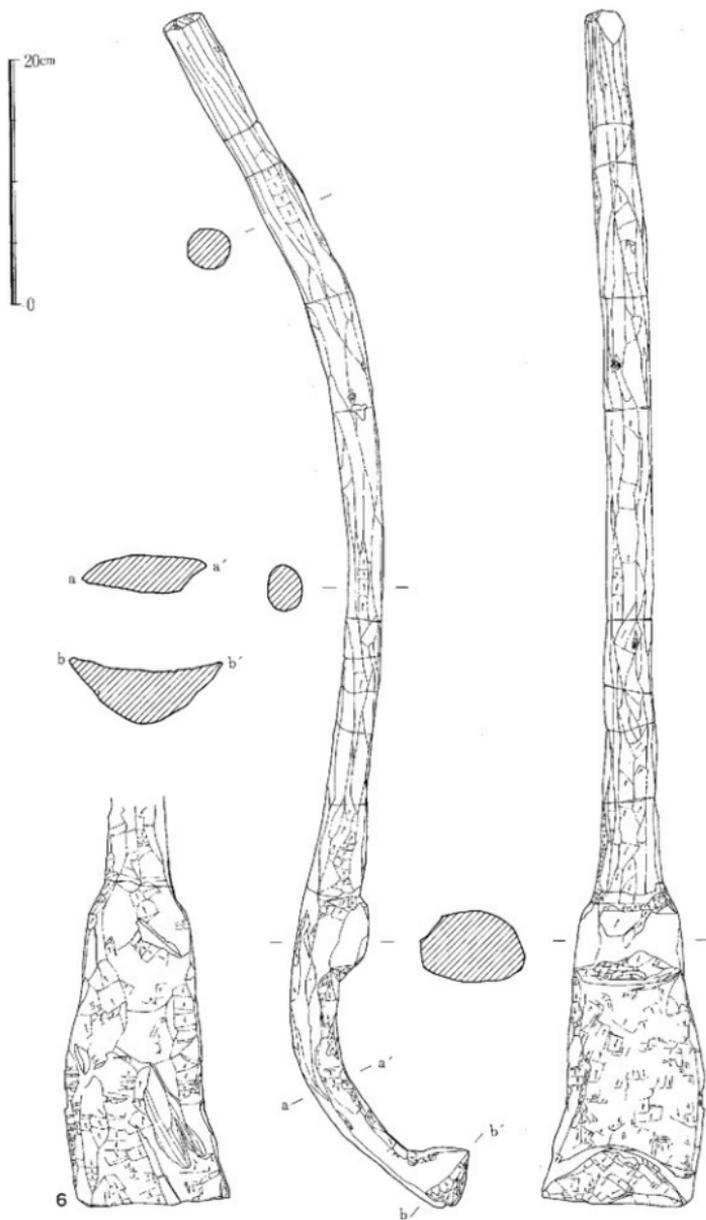


第7图 第1号土坑出土木器夹刻图(1)

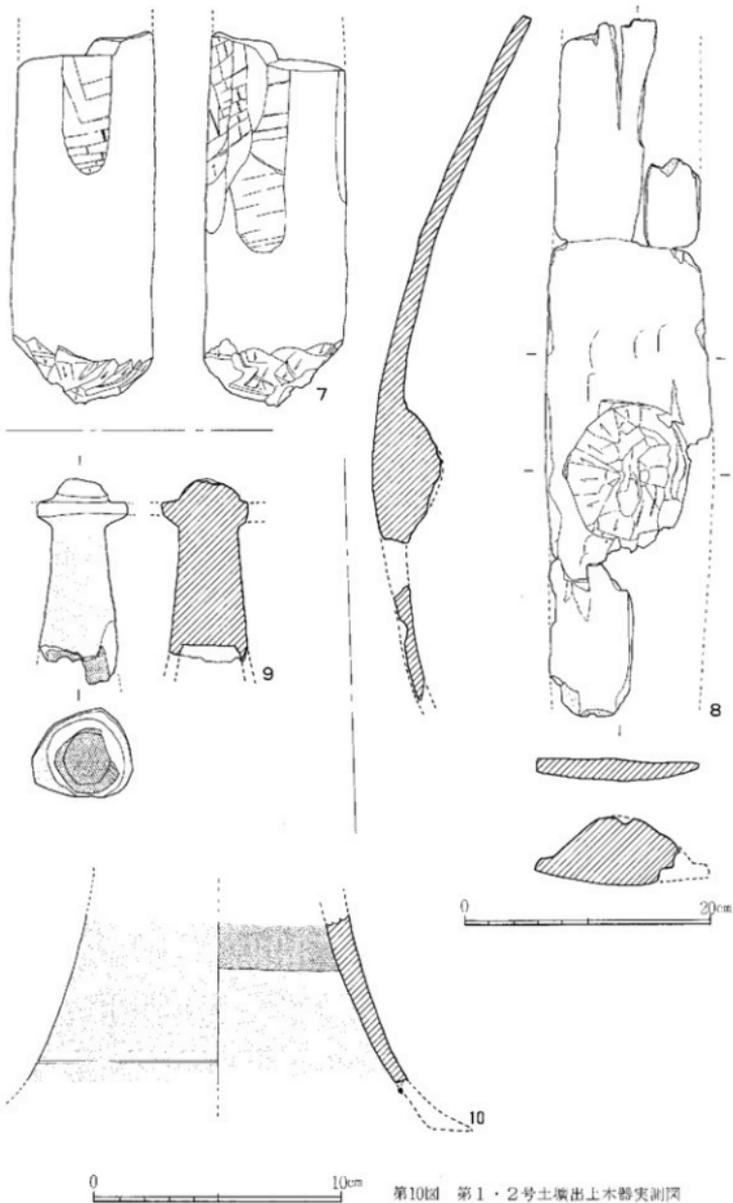


第8图 第1号土坑出土木器夹炭区(2)

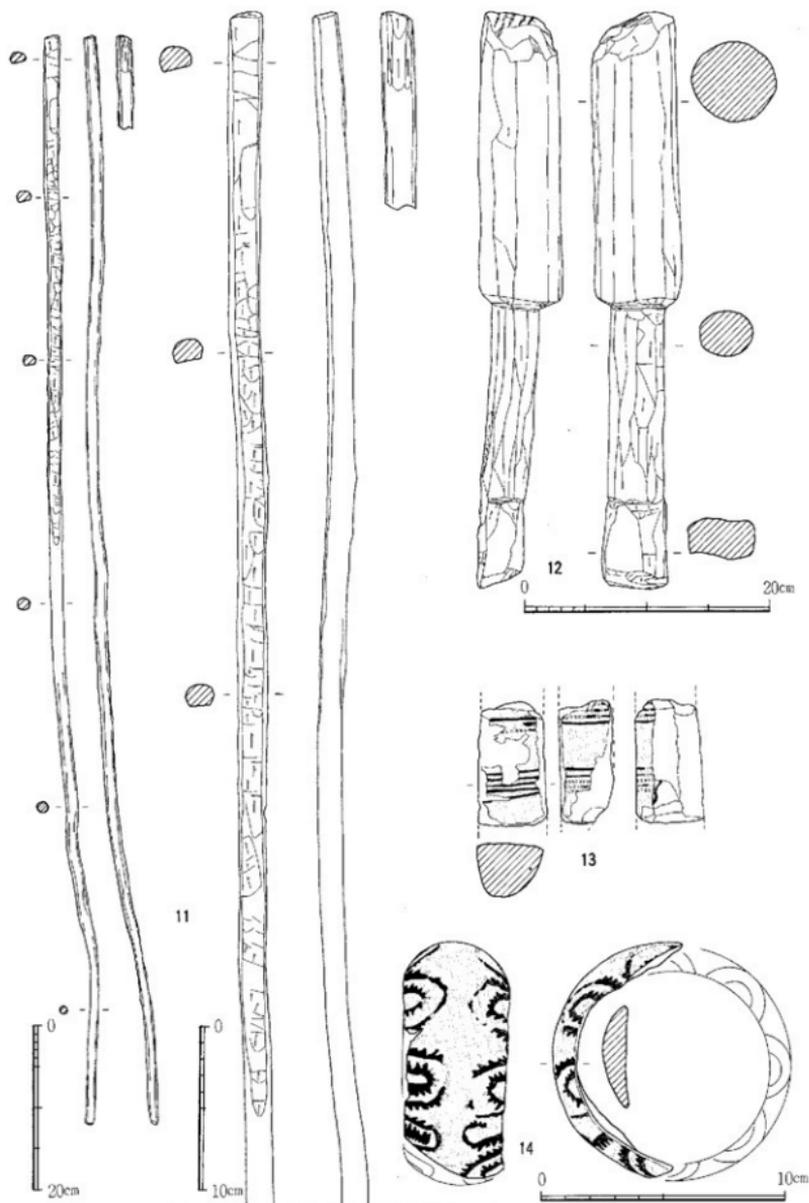




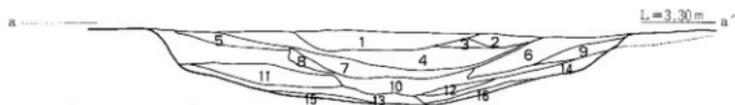
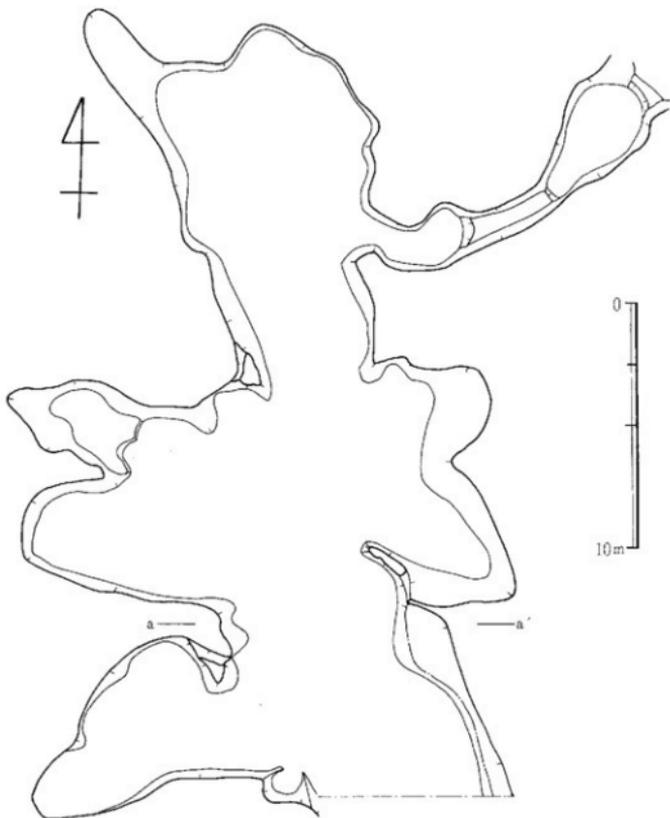
第9图 第1号土壙出土木器尖图(3)



第10图 第1·2号土坑出土木器实测图

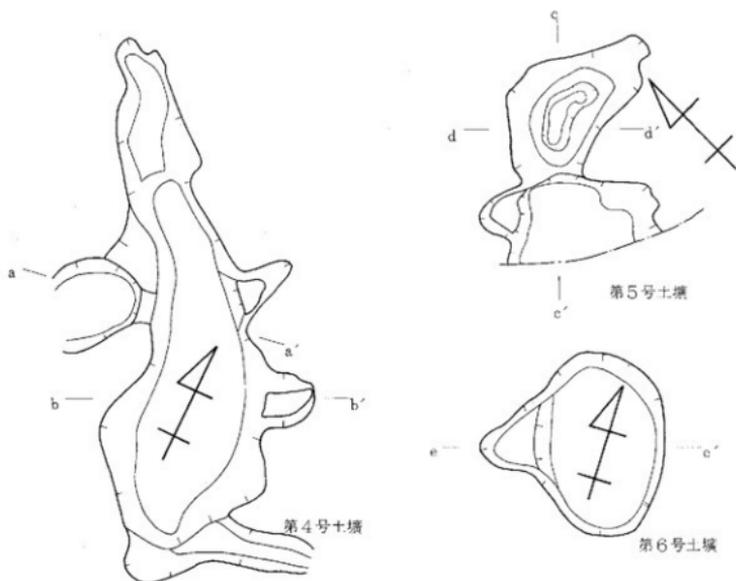


第11图 第1·3号土壕出土木器实测图(5)

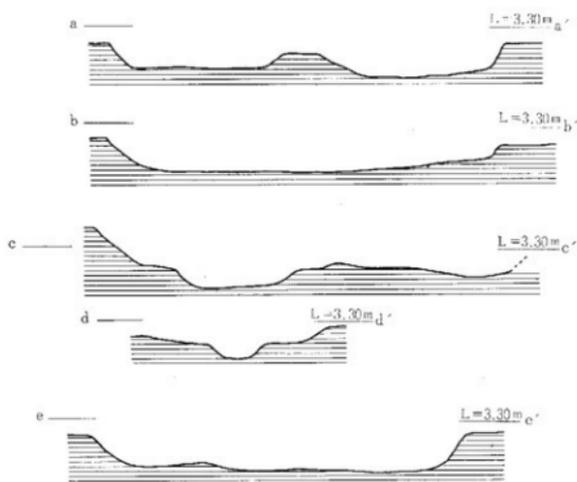


- |                               |                |
|-------------------------------|----------------|
| 1. 黒灰色砂質土層 (古代包含層に近似)         | 11. 茶褐色粘質土層    |
| 2. 灰褐色粘質土層                    | 12. 茶褐色砂質土層    |
| 3. 黄白色砂質                      | 13. 暗褐色粗砂層     |
| 4. 黄白色砂層 (暗褐色粘質土を砂層がしま状に堆積する) | 14. 黒色砂層+黒色粘土層 |
| 5. 暗褐色粘質土層 (粗砂混入)             | 15. 茶褐色根質土     |
| 6. 灰白色砂層                      | 16. 地山と14層の混合層 |
| 7. 茶褐色砂質土層                    |                |
| 8. 黄白色砂層                      |                |
| 9. 赤褐色粘質土層                    |                |
| 10. 暗褐色粘質土層 (砂層とシルトが互層となる)    |                |

第12図 第3号土溝実測図

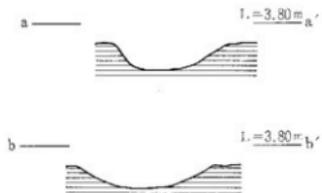
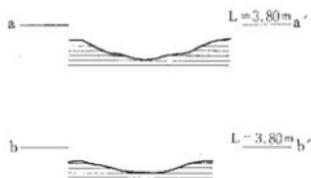
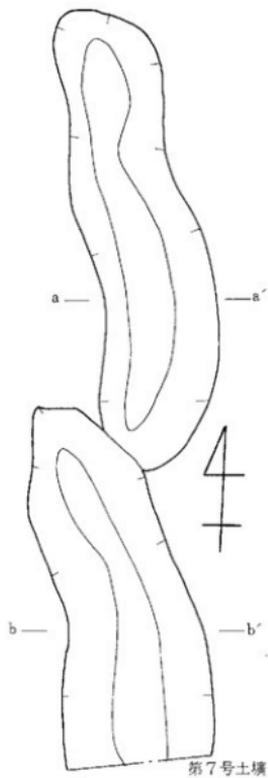
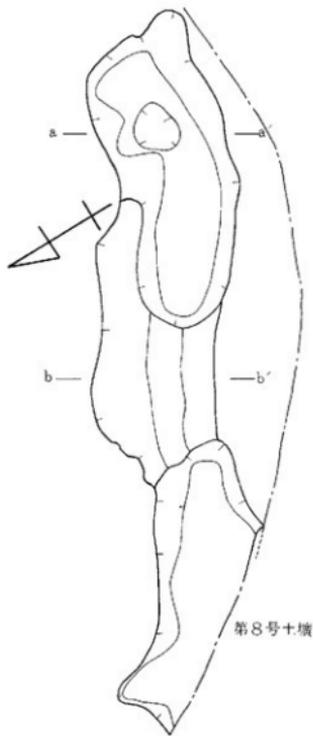


0 10m

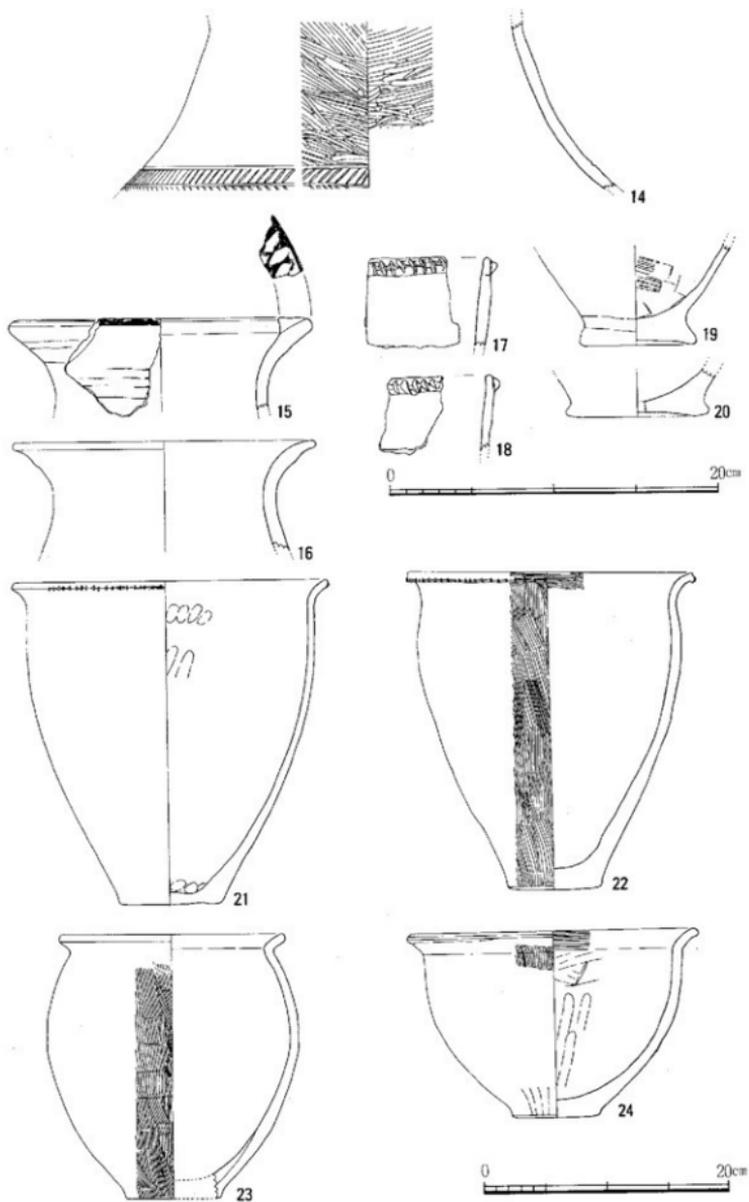


0 5m

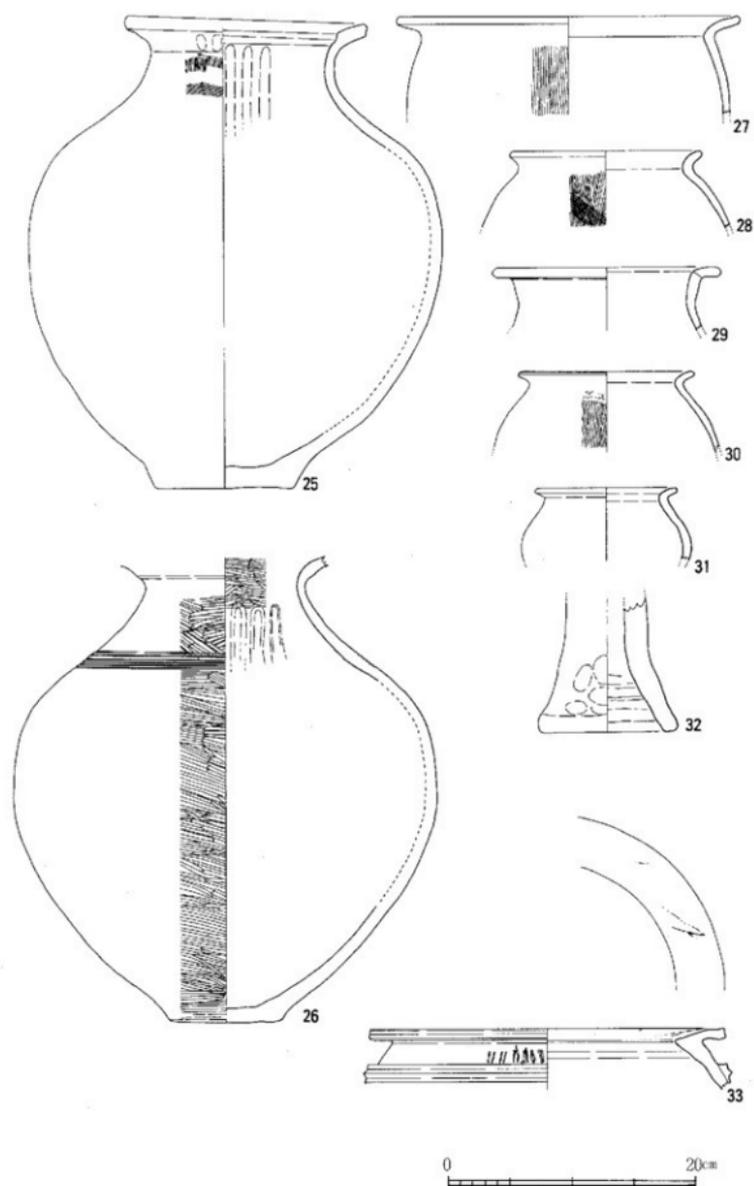
第14图 第4~6号土坑实测图



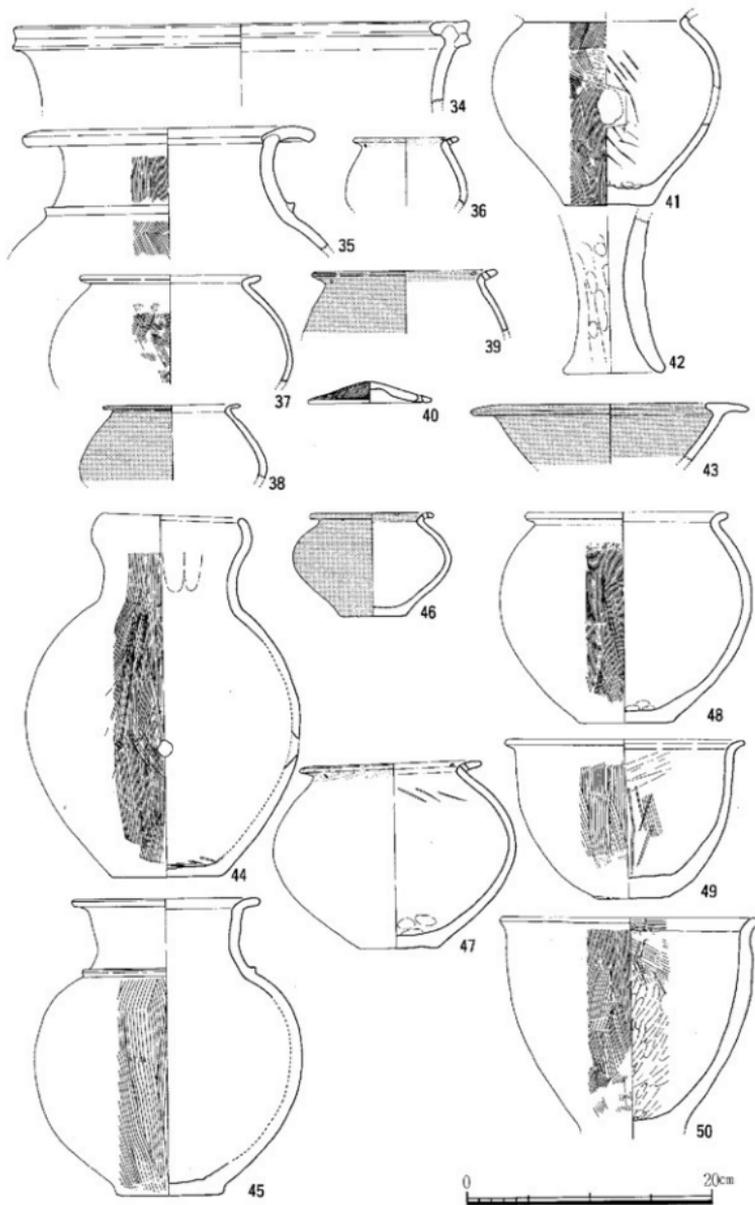
第15图 第7·8号土壙实测图



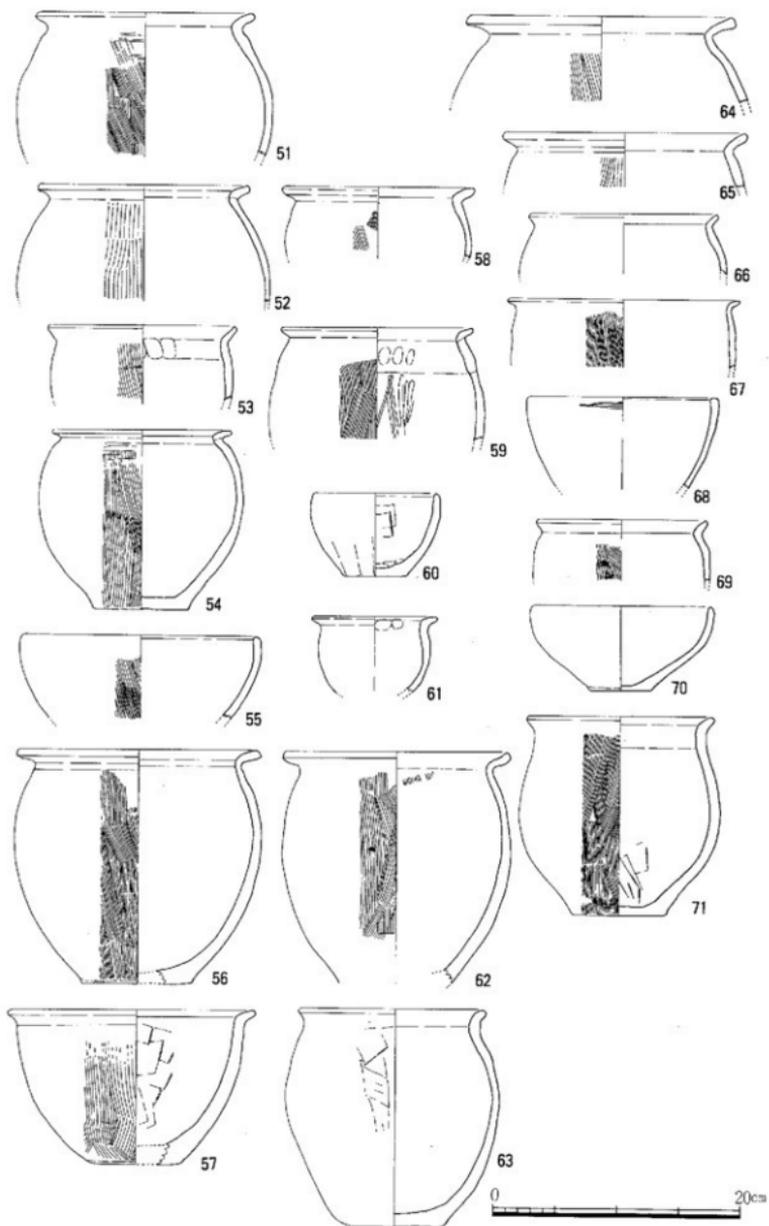
第16图 第3号土坑出土土器实例图(1)



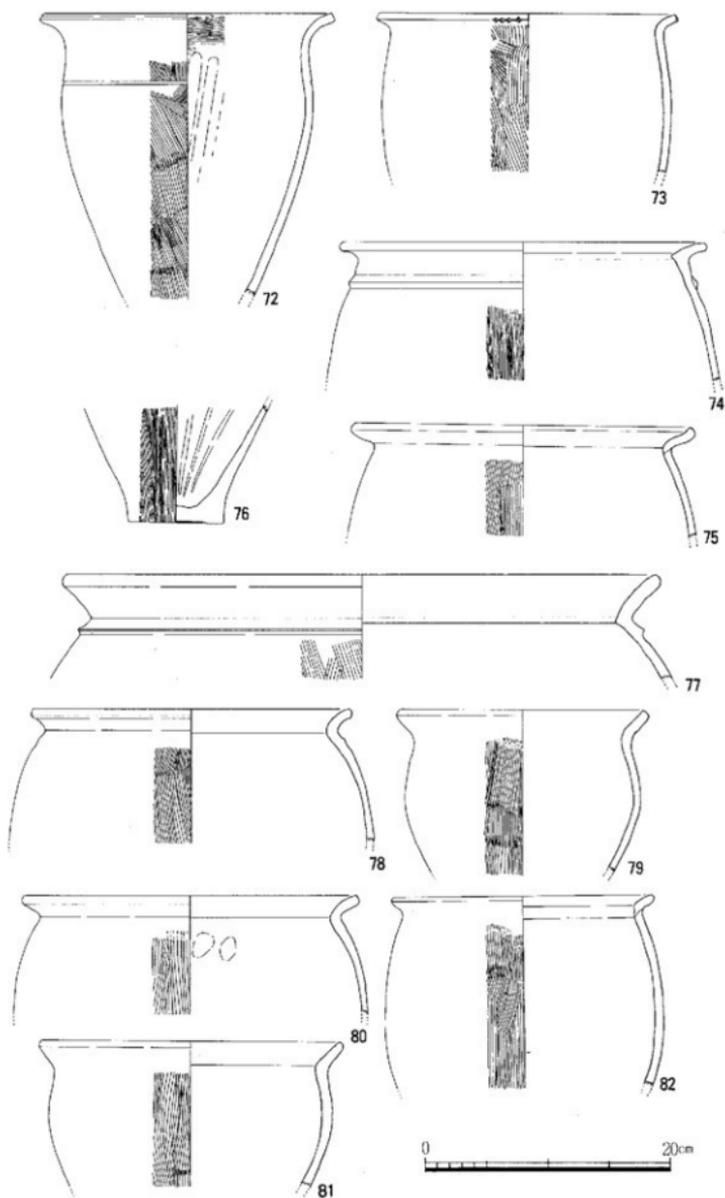
第17图 第3号土坑出土土器实测图(2)



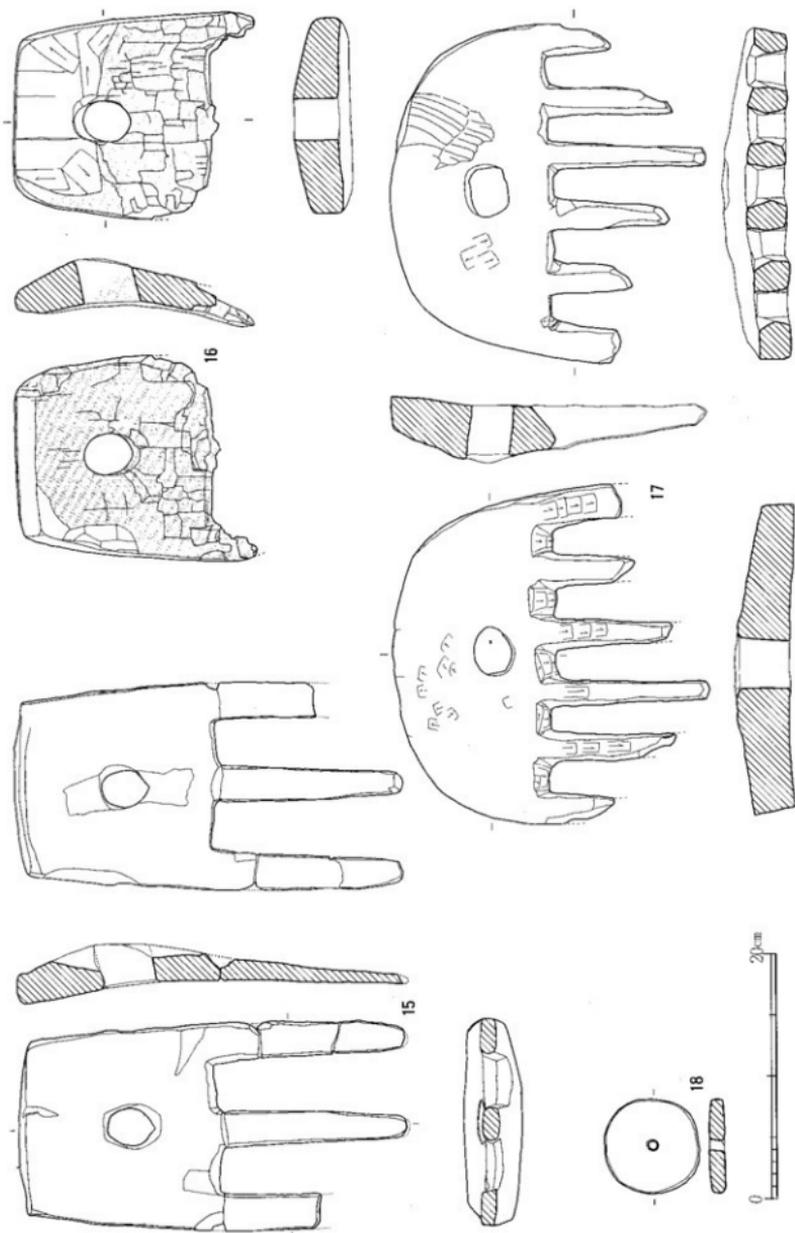
第18图 第8号土坑出土土器实例图(1)



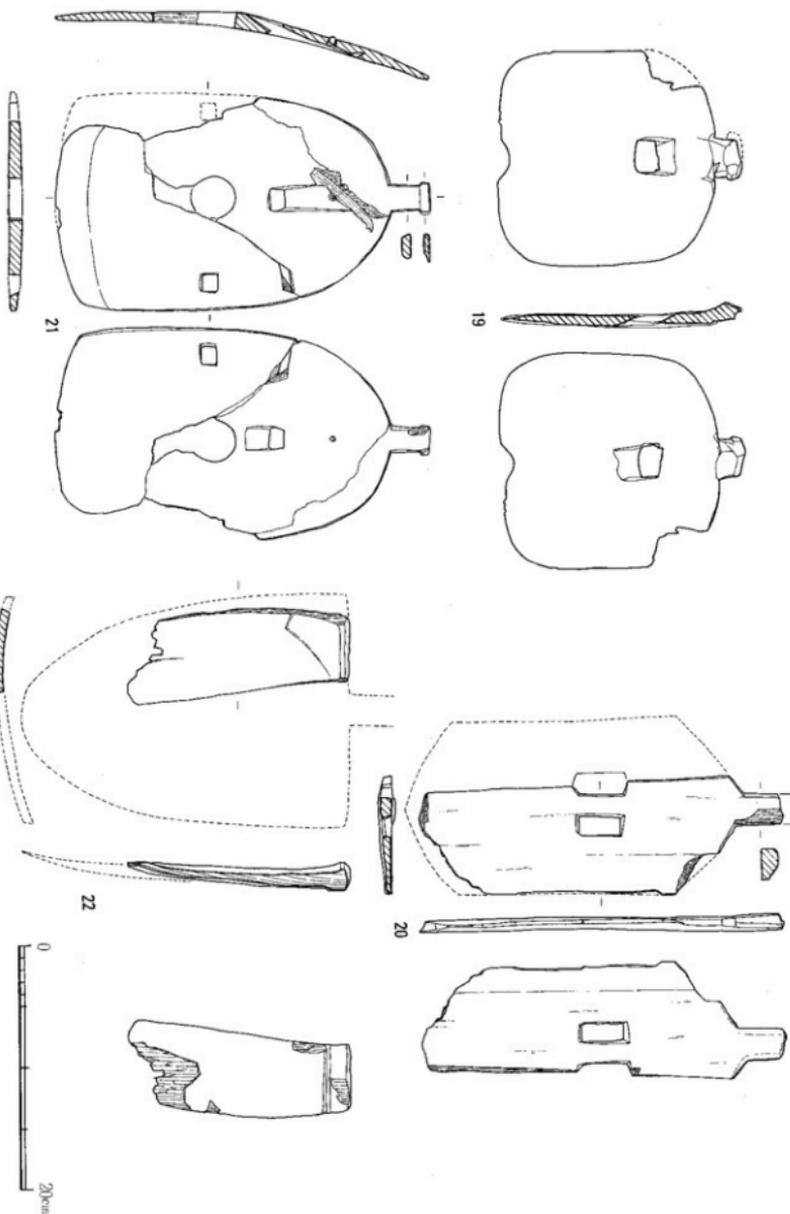
第19图 第8号土坑出土上器实例图(2)



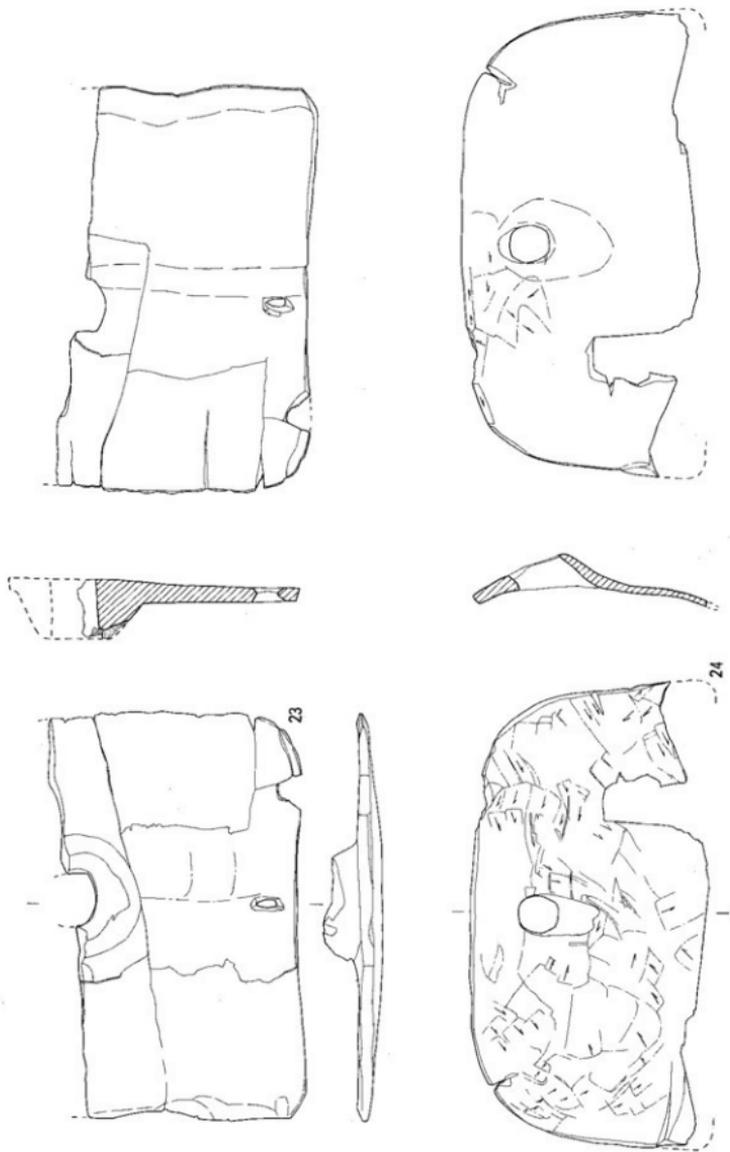
第20图 第8号土坑出土石器类器区(3)



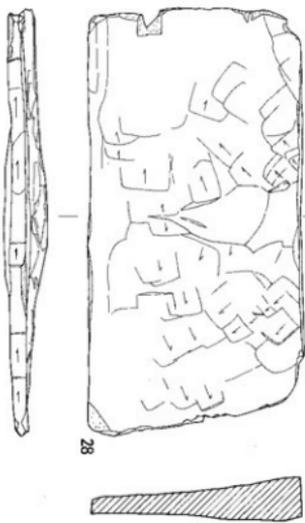
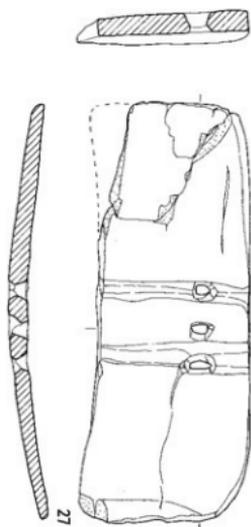
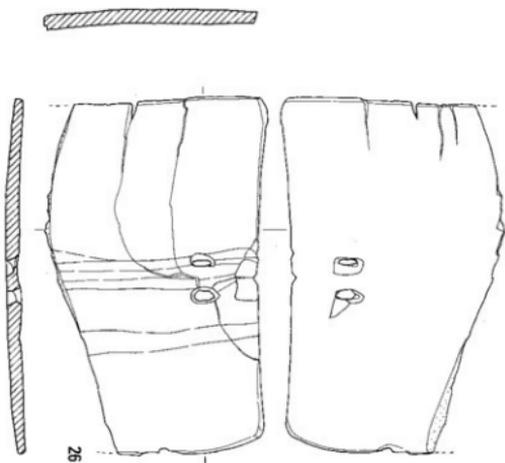
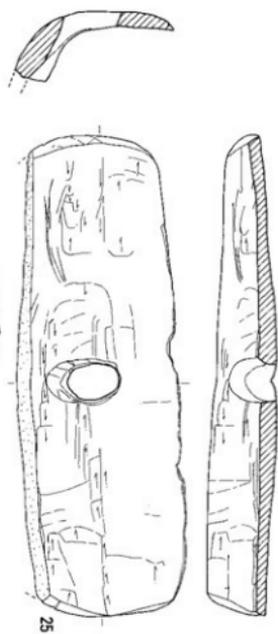
第21图 土壙出土木器残画(1)



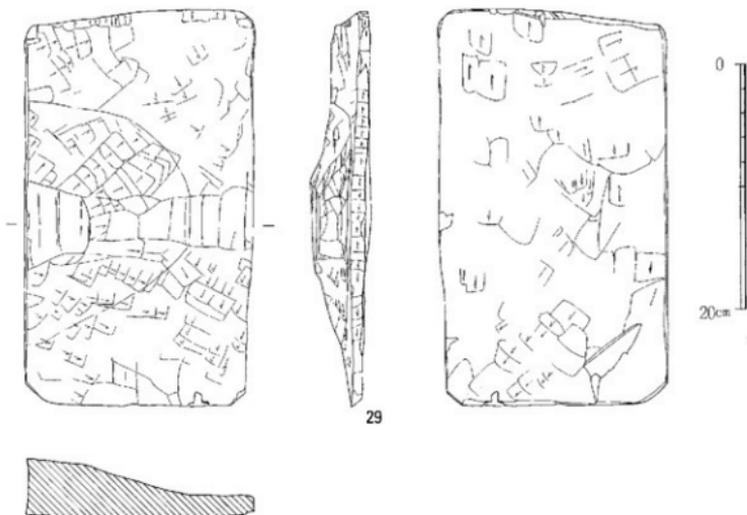
第22图 土壕出土器类图(2)



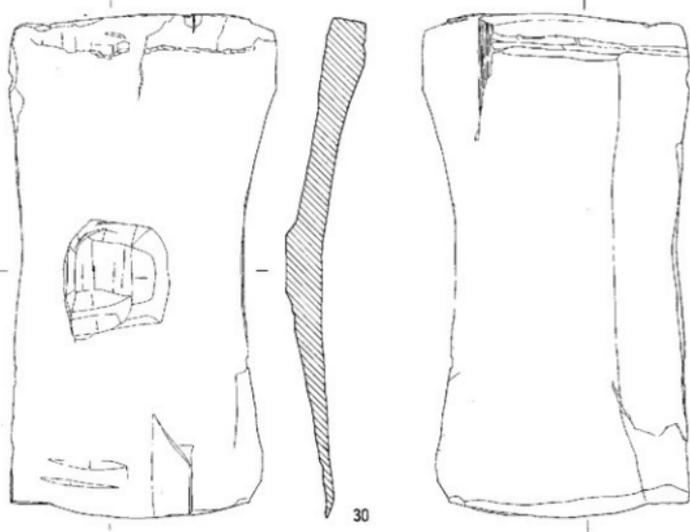
第23圖 土壙出土水器実測図(3)



第24区 土壕出土木器実測図(4)

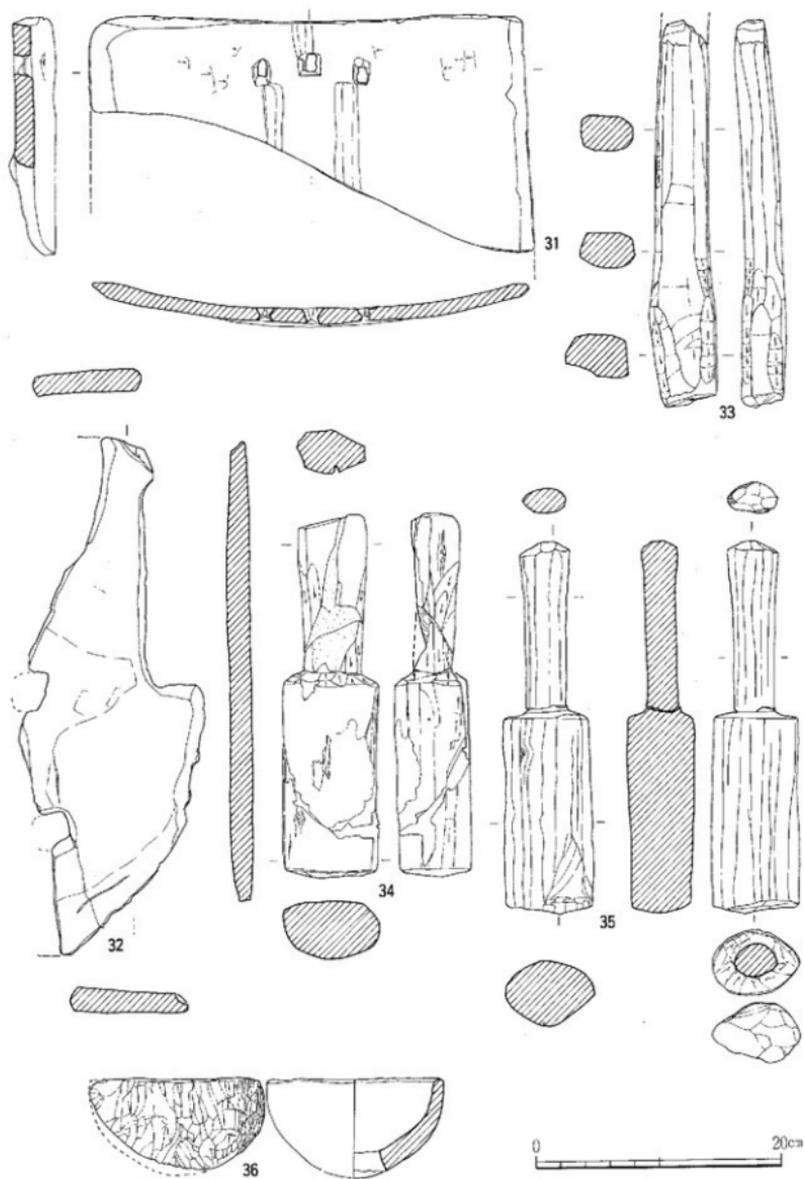


29

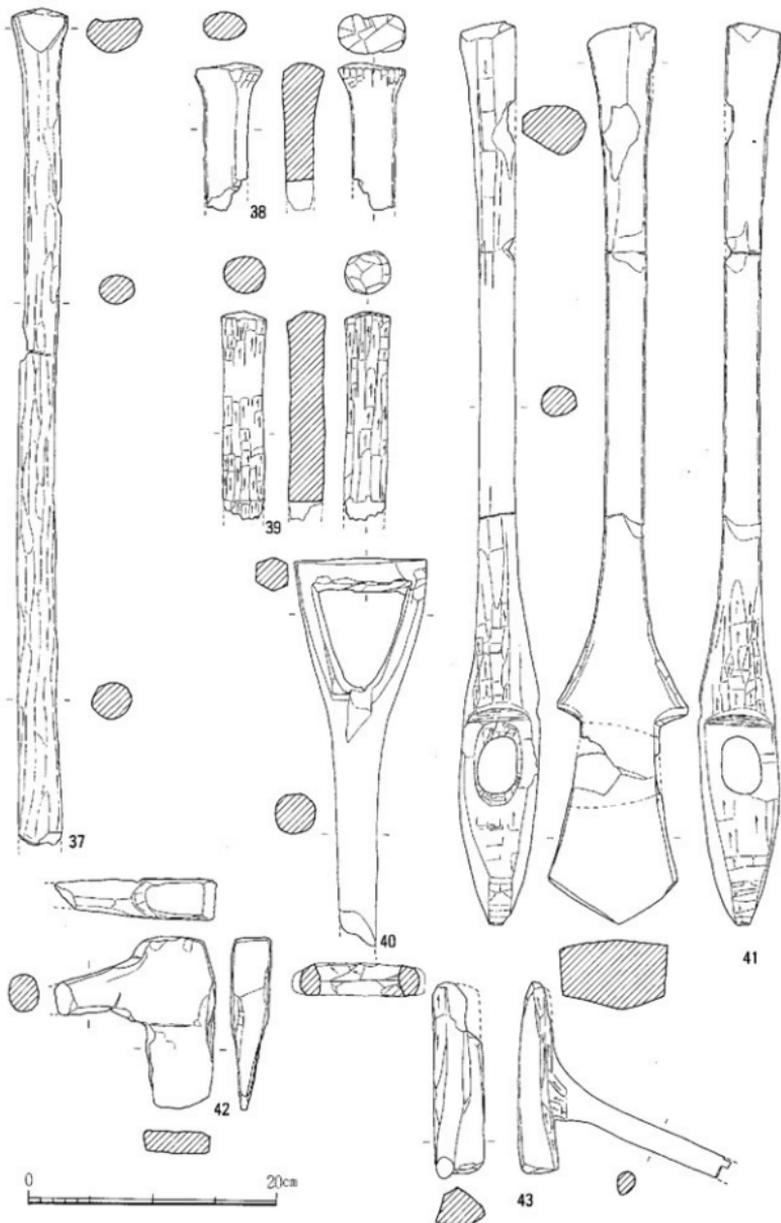


30

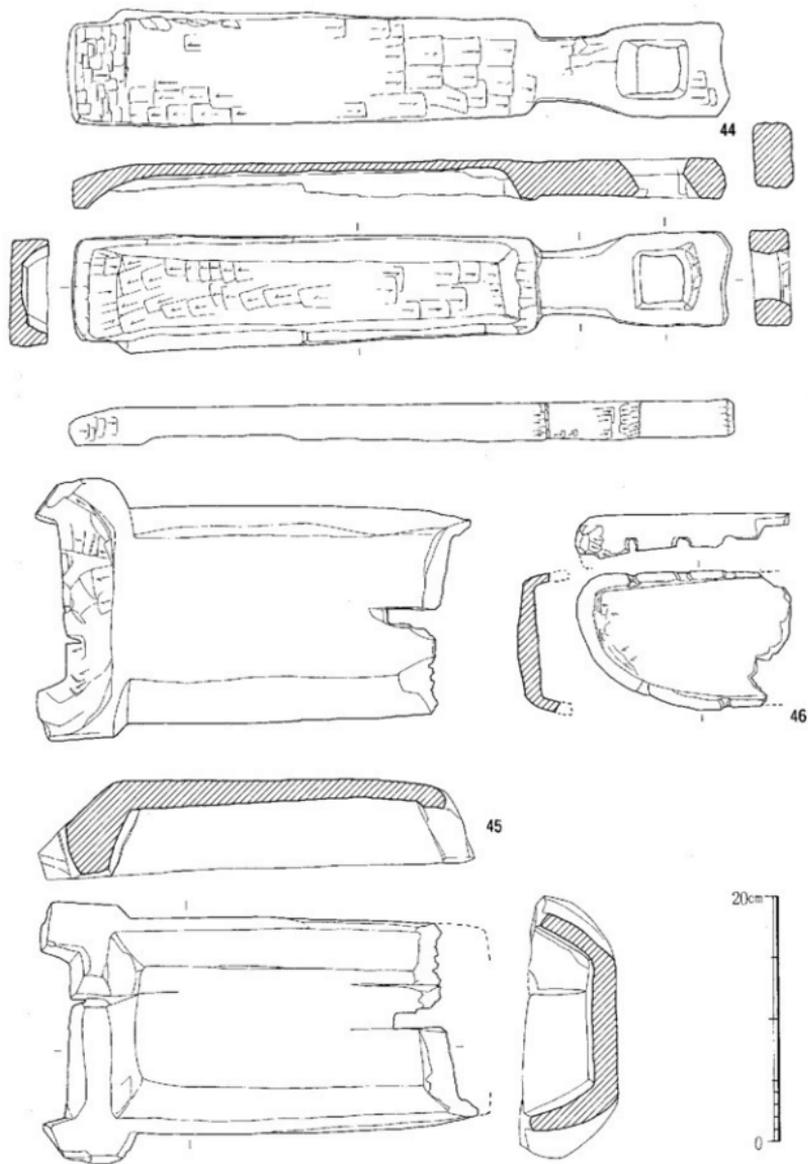
第25图 土境出土水器実測図(5)



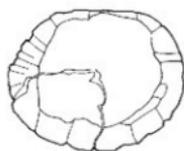
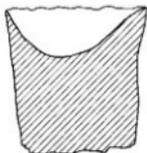
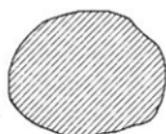
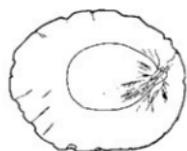
第26图 上塘出土木器实例图(6)



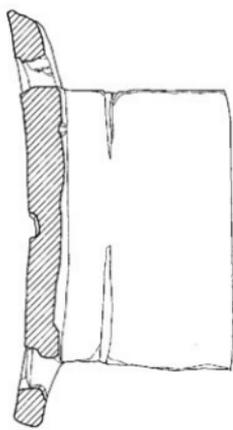
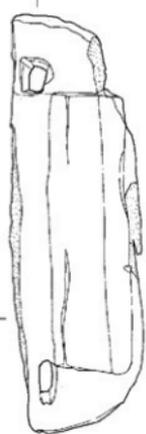
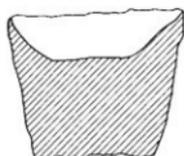
第27图 土壤出土木器实测图(7)



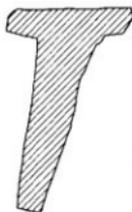
第28图 土坑出土水器实例区(8)



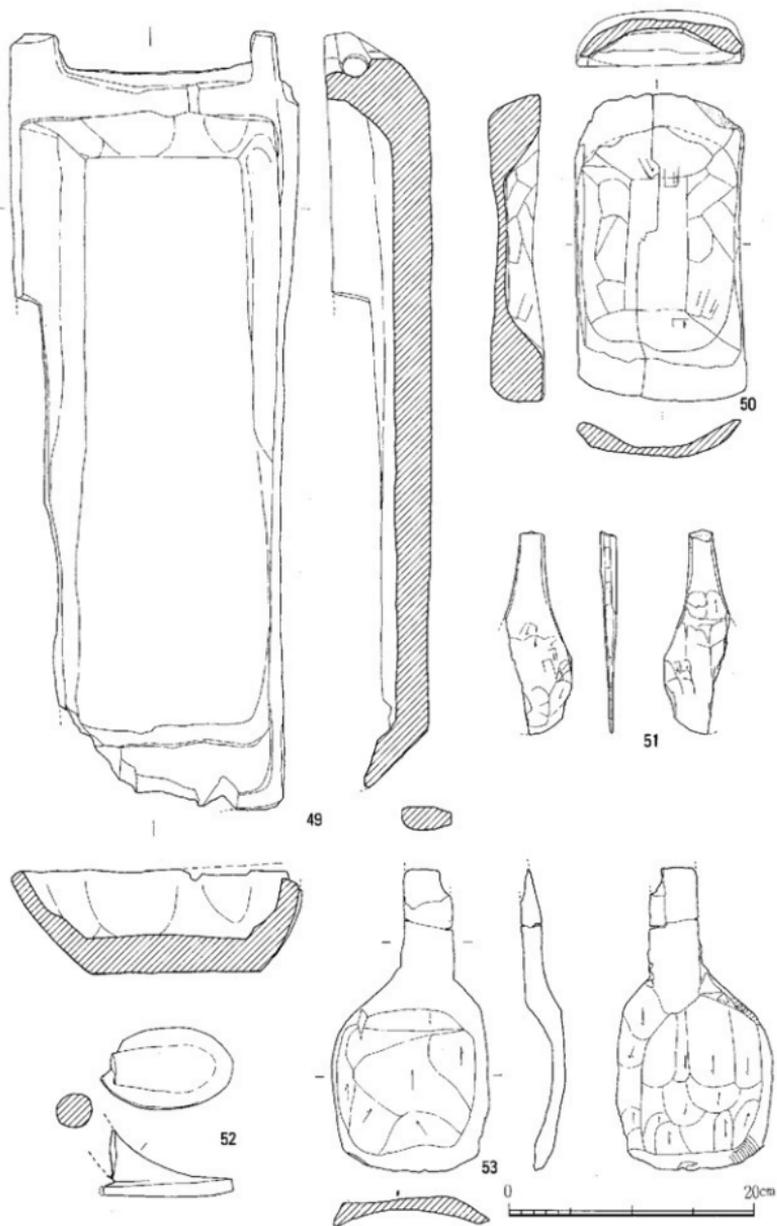
47



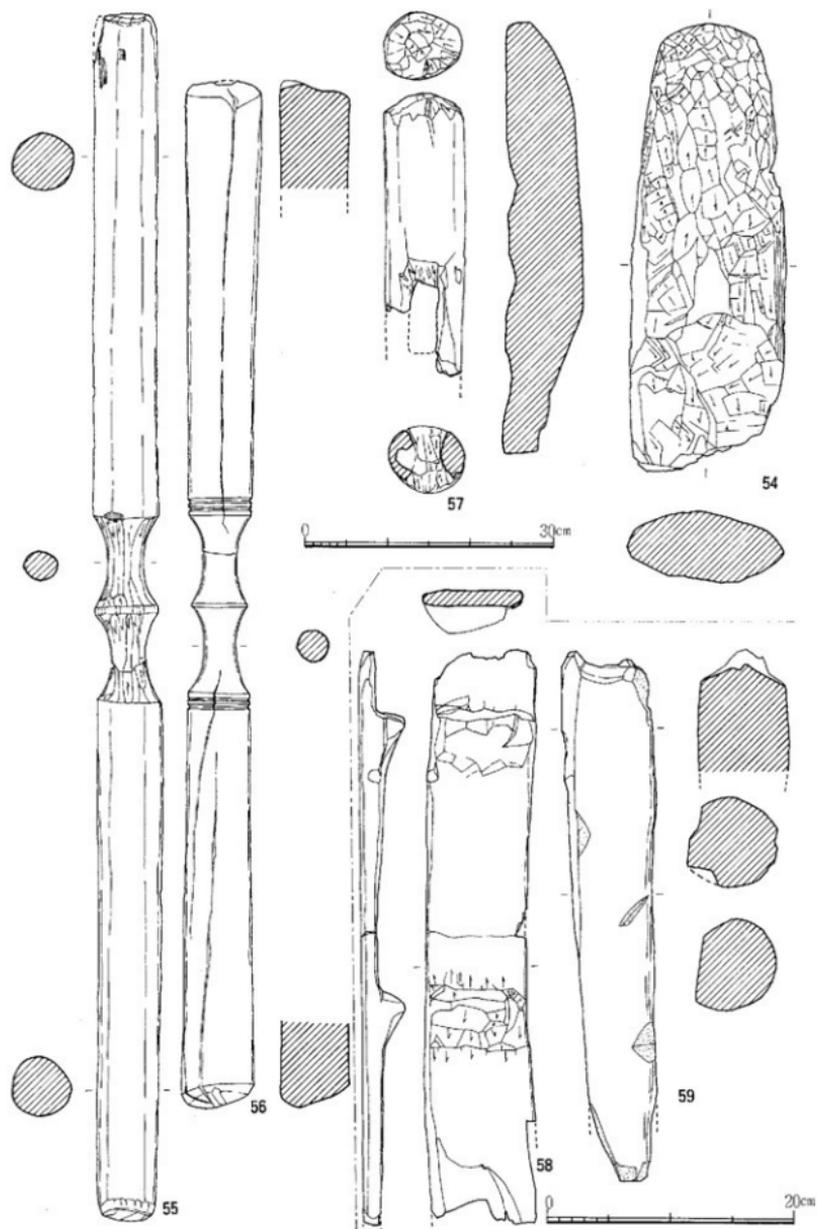
48



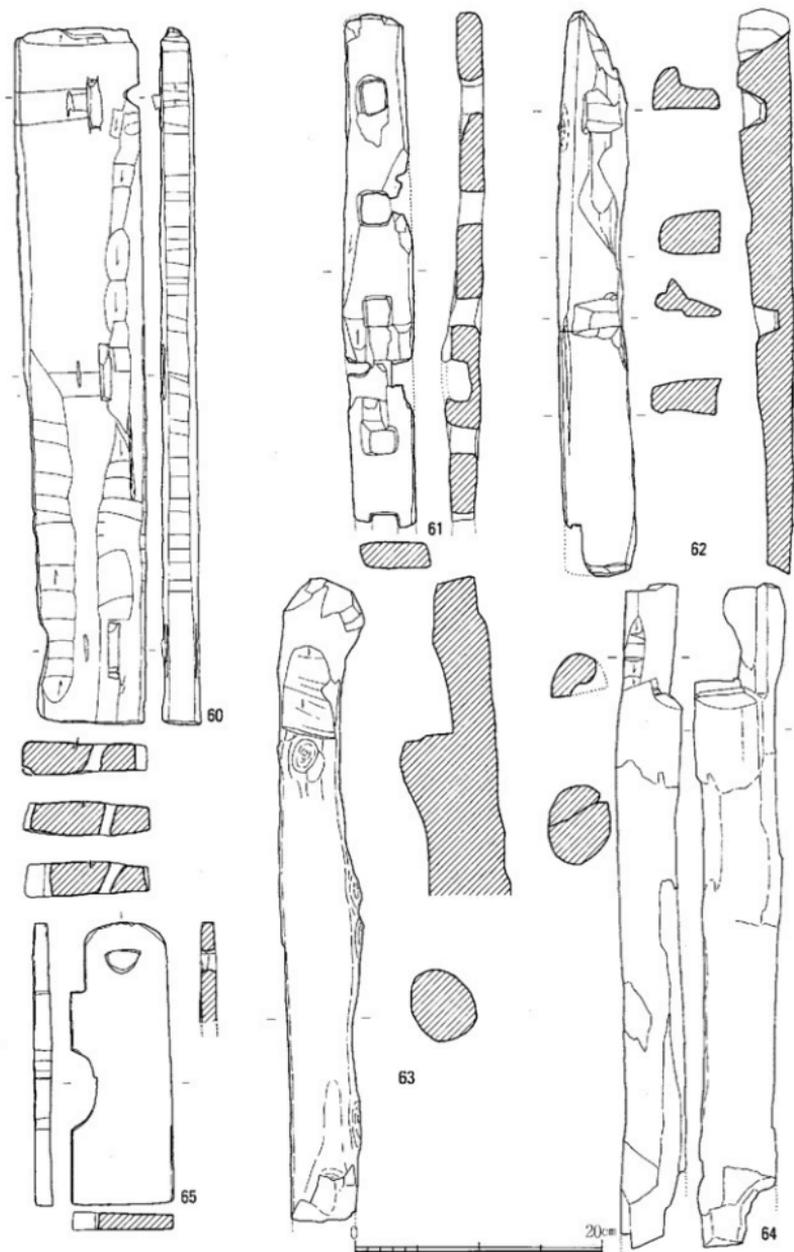
第29图 土城出土木器夹测区(9)



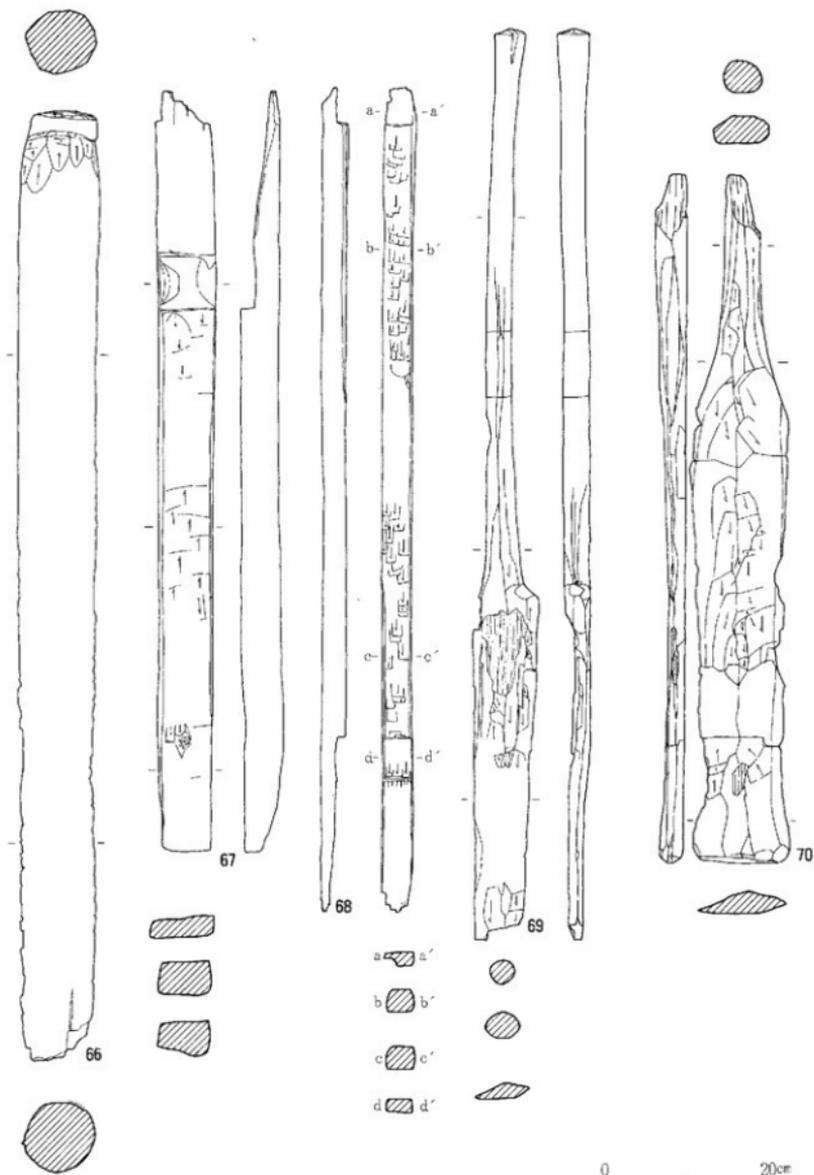
第30图 上壤出土木器尖刻图(10)



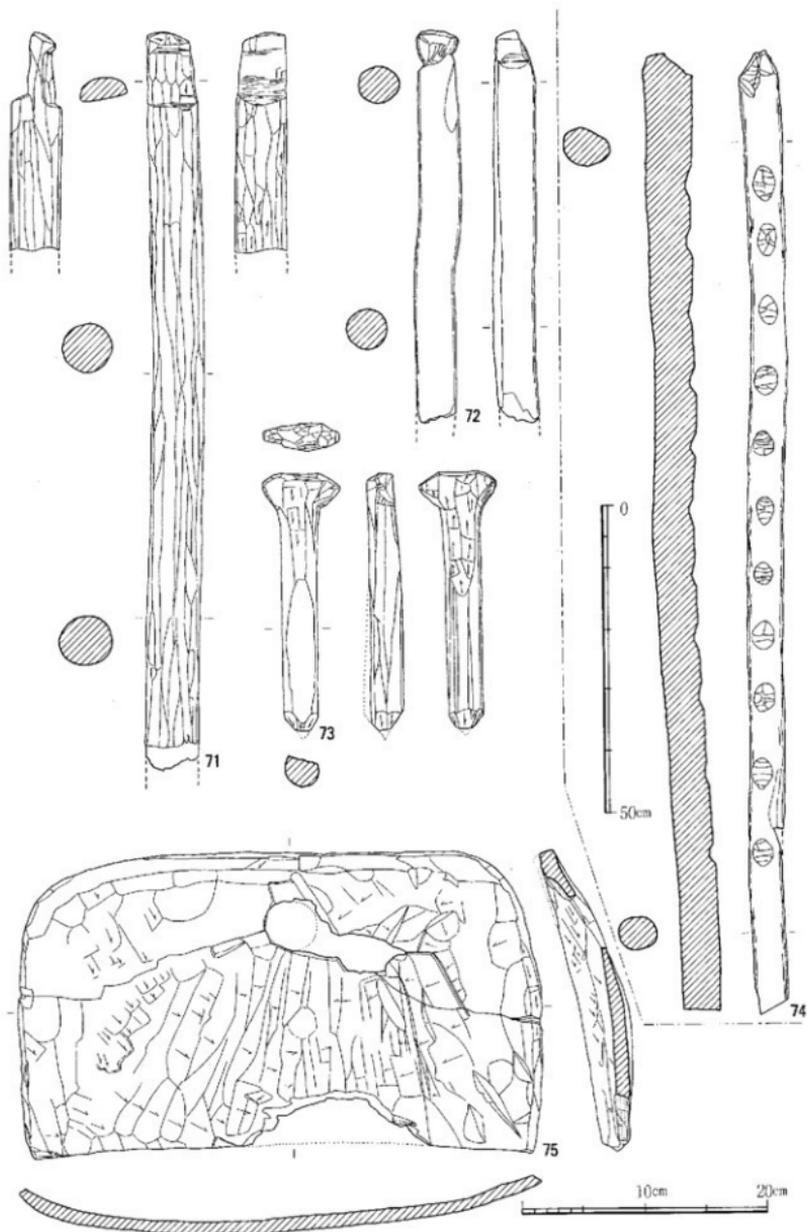
第31图 土城出土木器实测图(11)



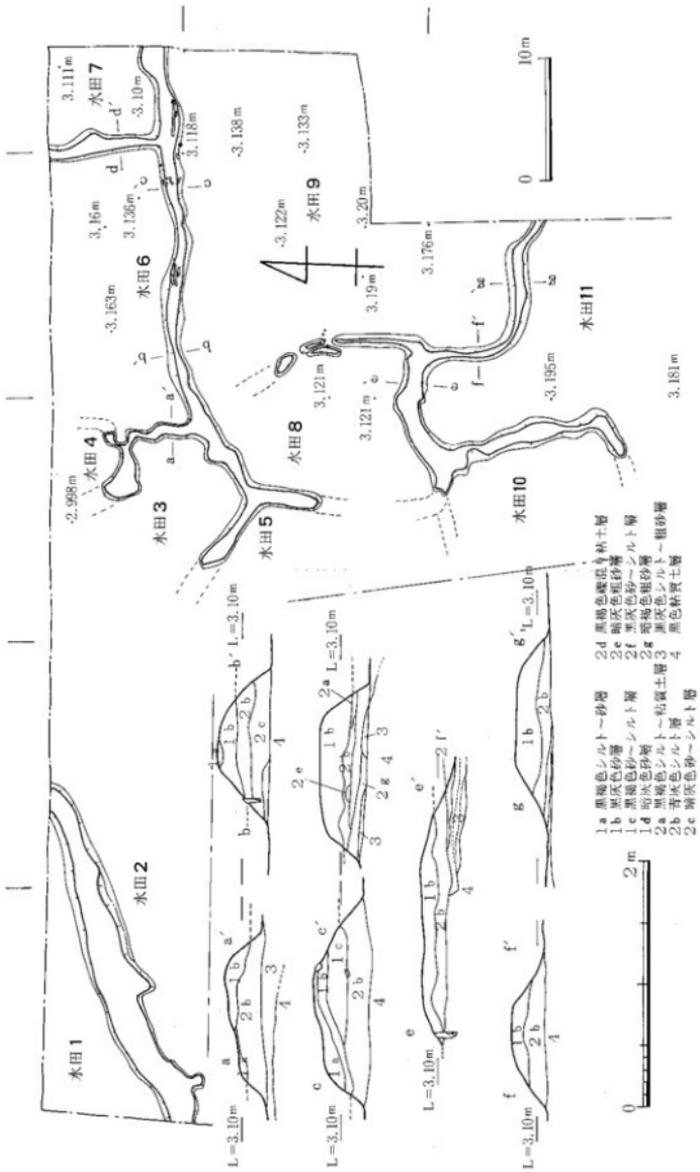
第32图 土城出土木器类测图(12)



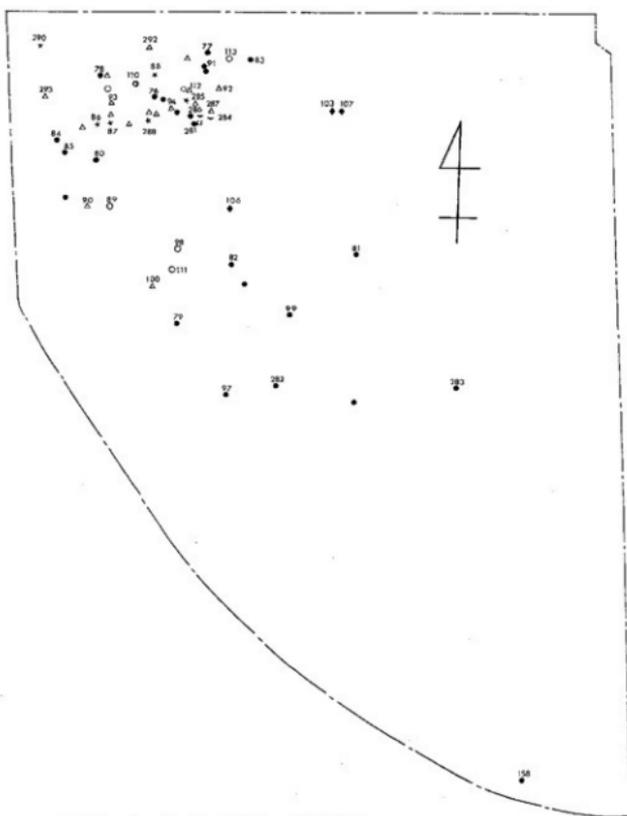
第33图 土坑出土木器实例图(13)



第34区 土壙出土木器实例图(14)



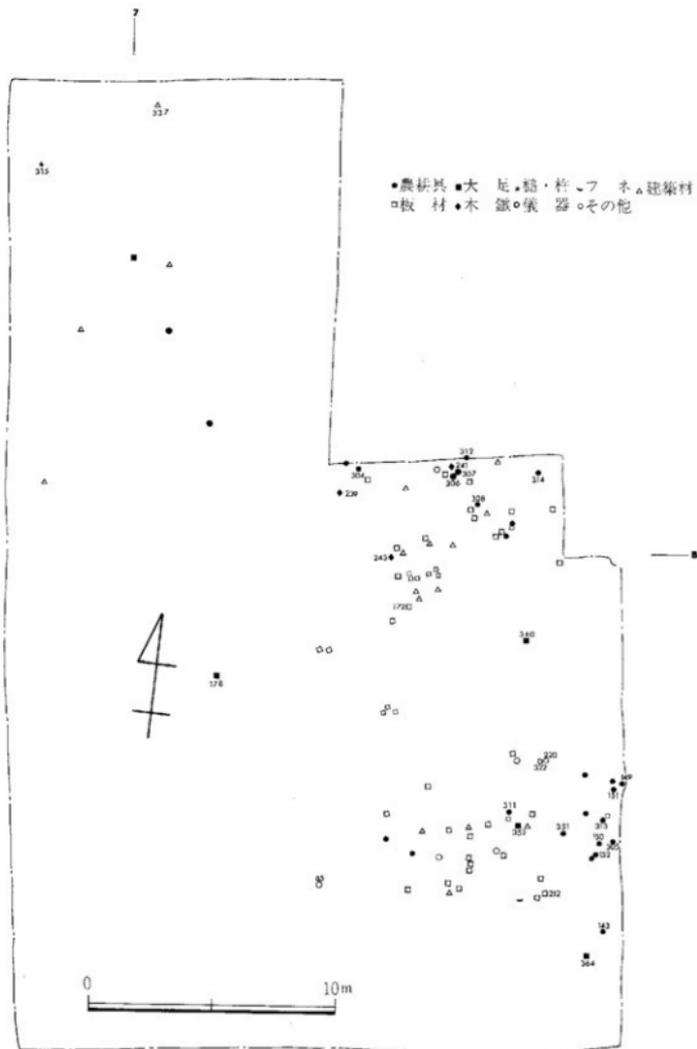
第35圖 古代水田址実測図



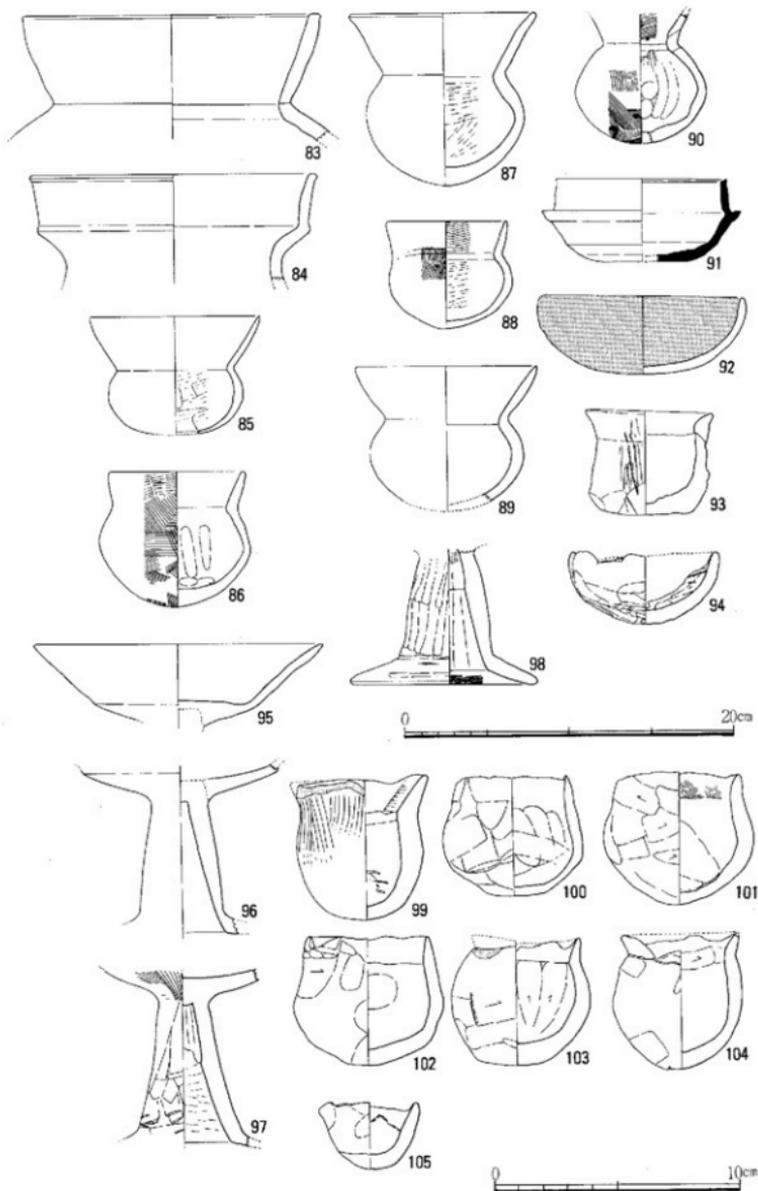
- 農耕具 ■大 足・繩・杵・フ ネ△建築材  
○板 材・木 鐵○儀 器その他

0 10m

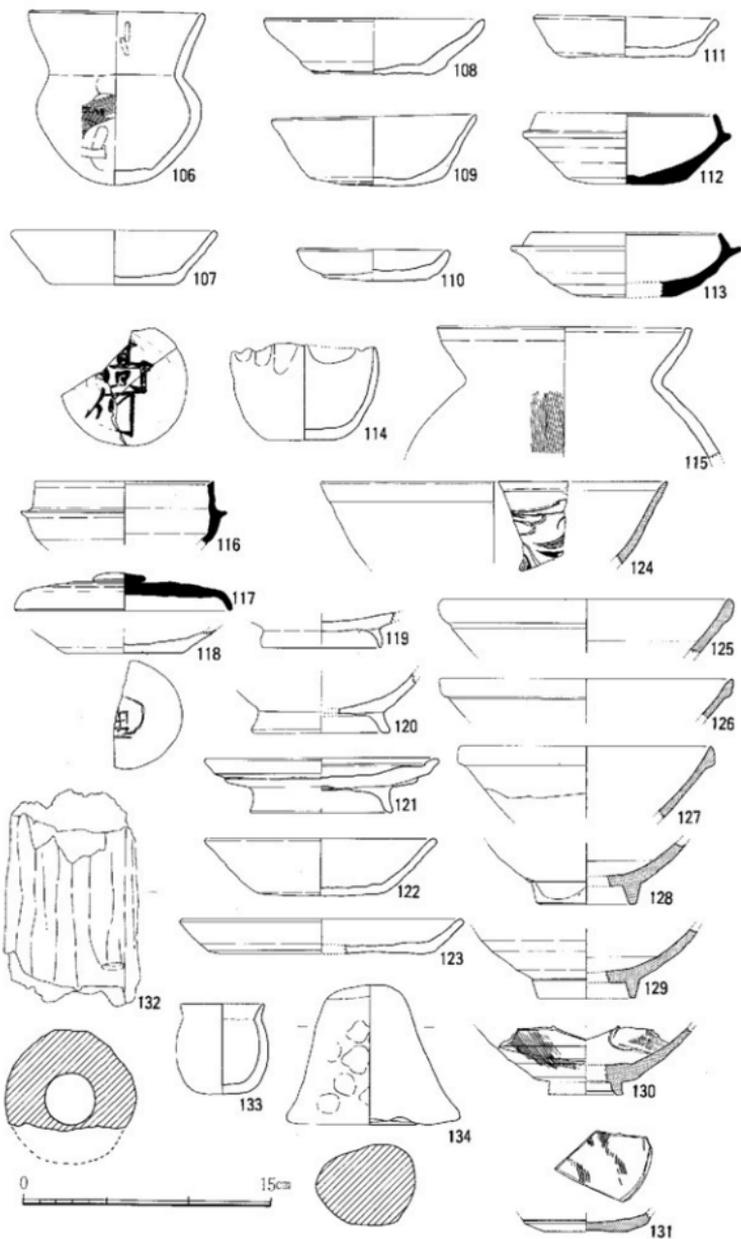
第38区 E-6・7区出土木器分布図



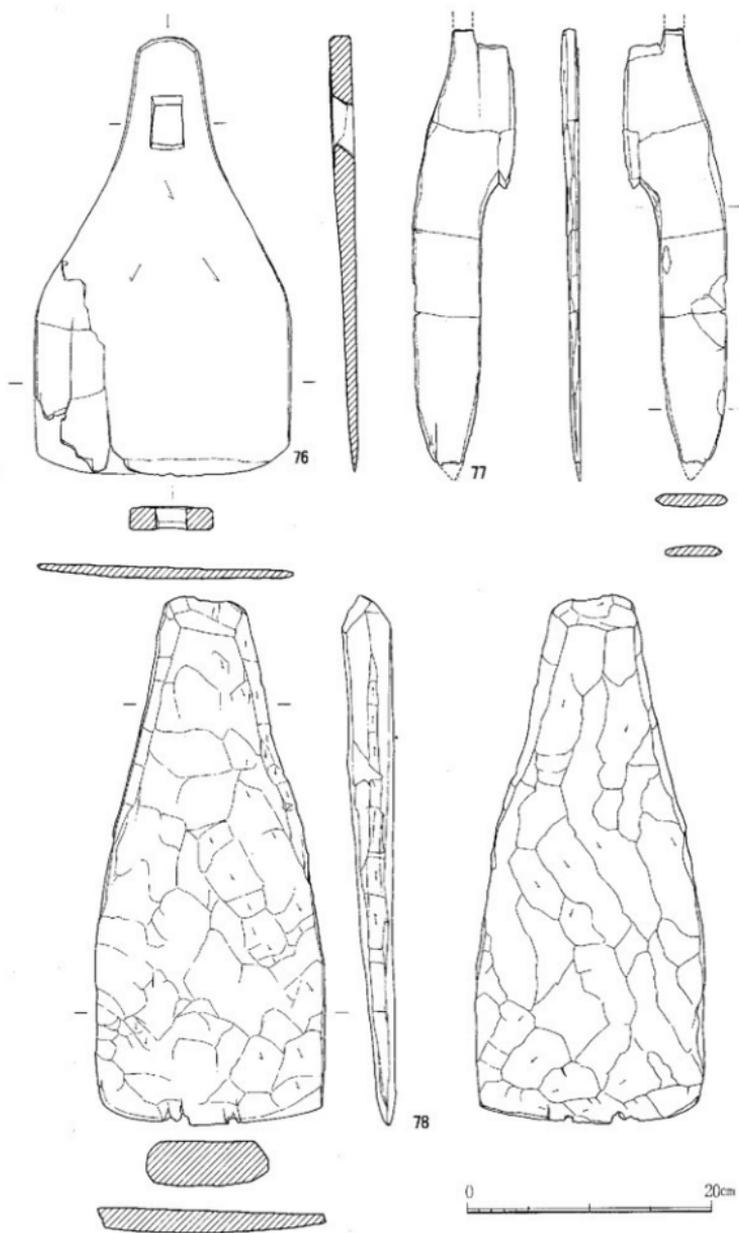
第40図 B-6区出土木器分布図



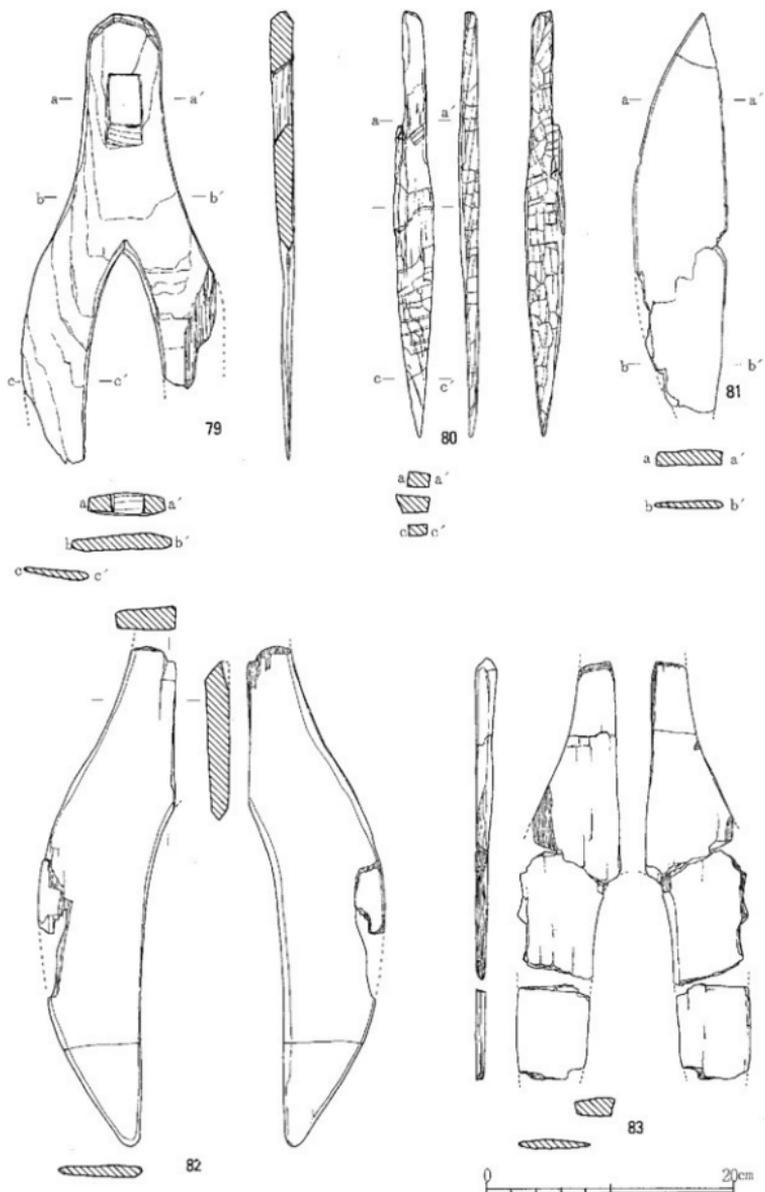
第43图 各区出土石器实测图(1) E-6·7区



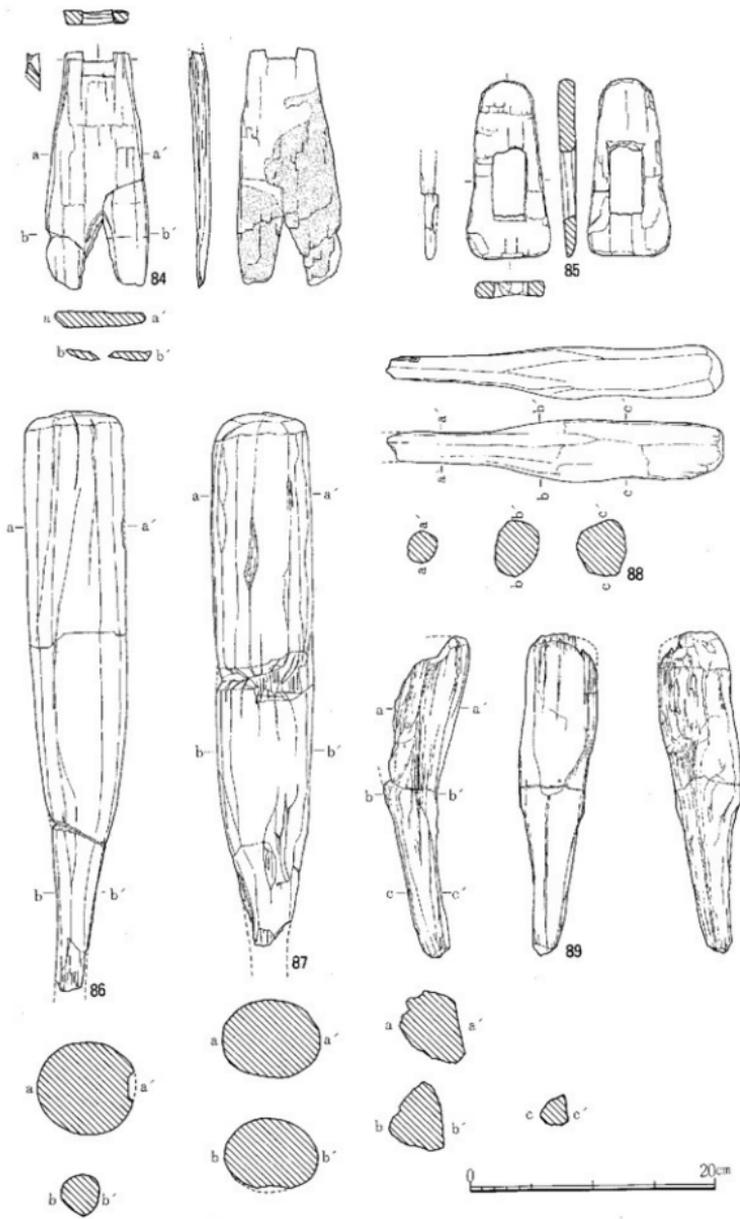
第44图 各区出土土器实测图(2)



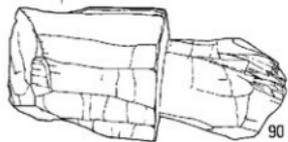
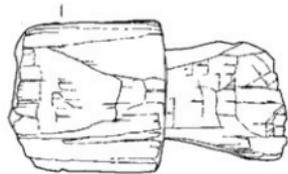
第45图 E-6·7区出土木器实物图(1)



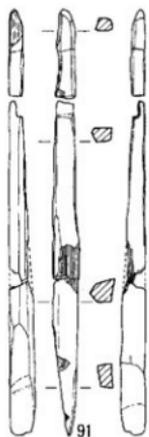
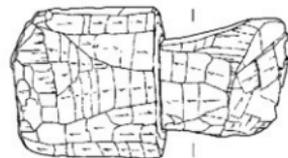
第46图 E-6·7区出土石器实测图(2)



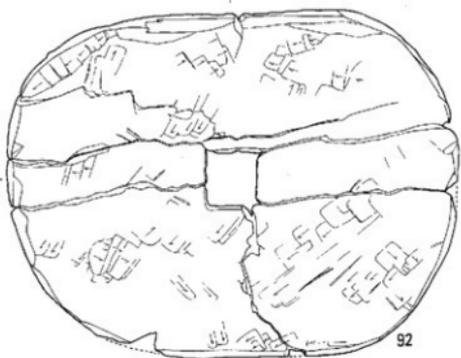
第47图 E-6·7区出土木器夹陶图(3)



90



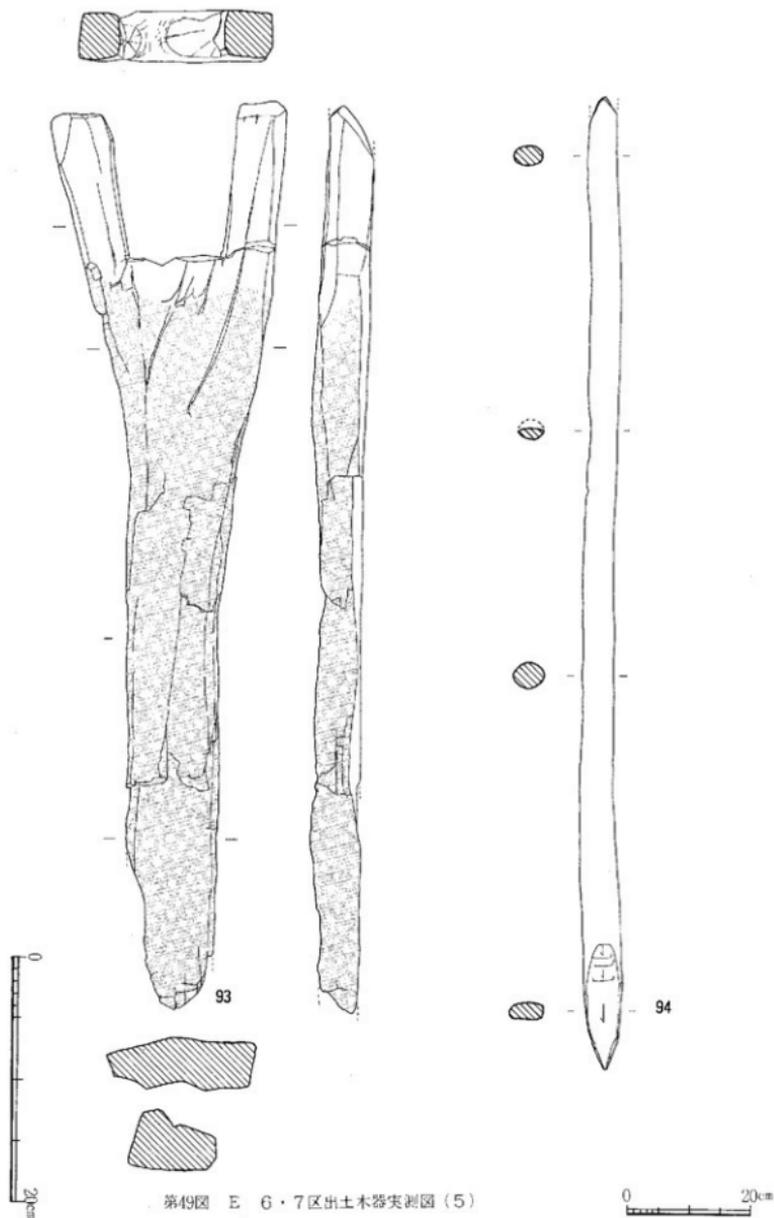
91



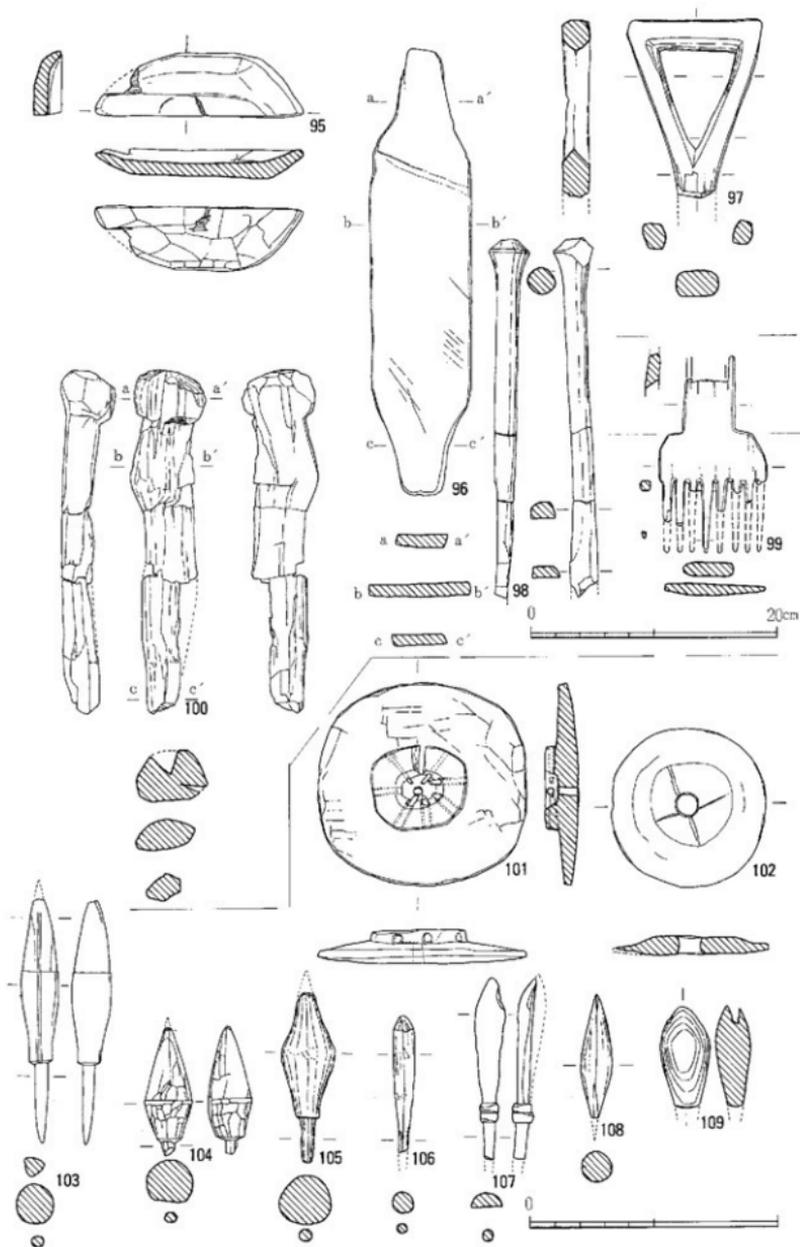
92



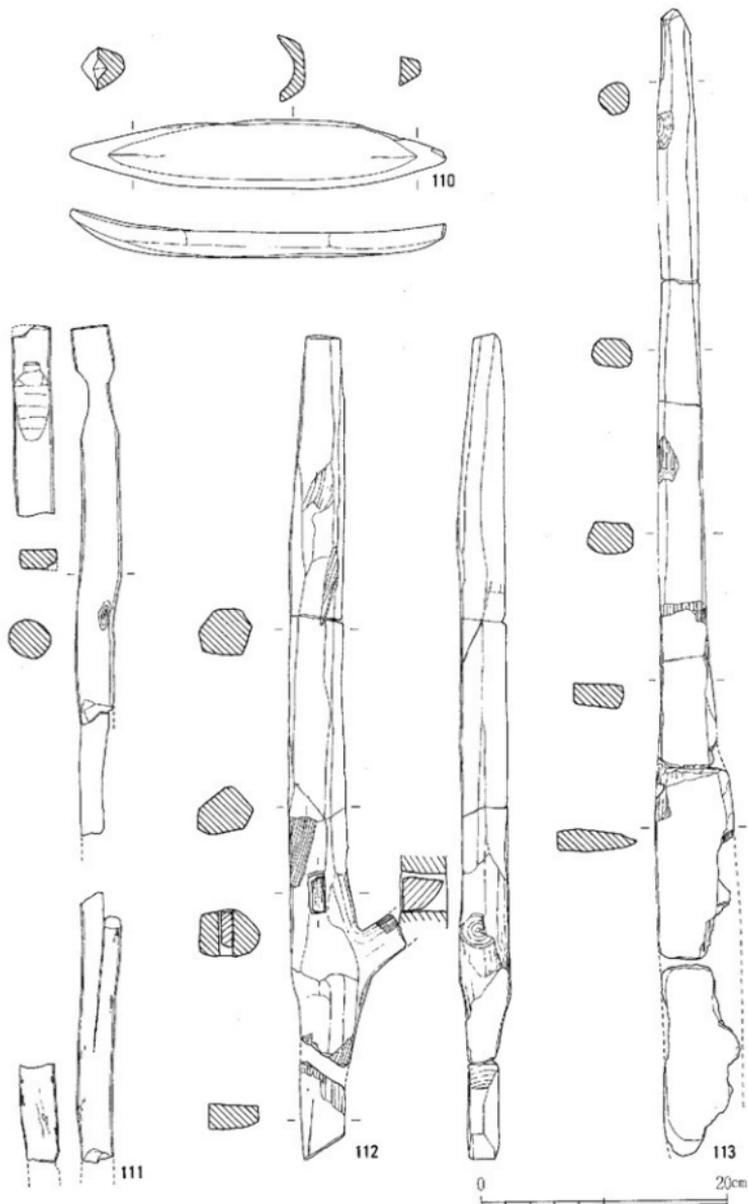
第48图 E 6·7区出土石器实测图(1)



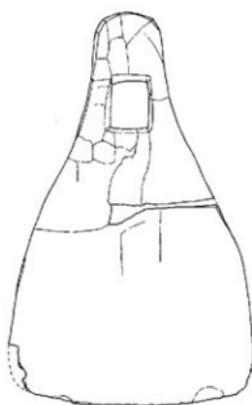
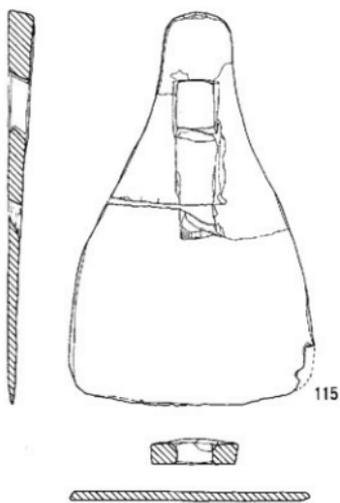
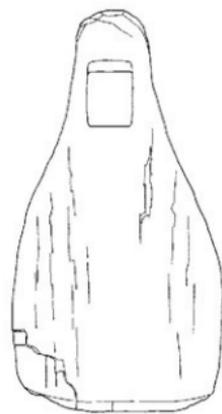
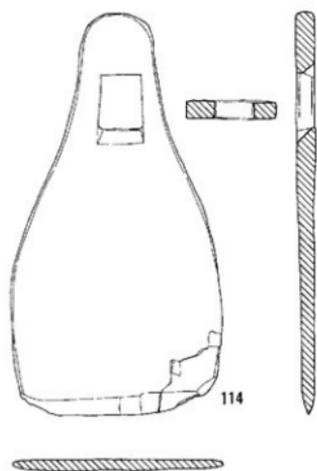
第49图 E·G·7区出土木器实物图(5)



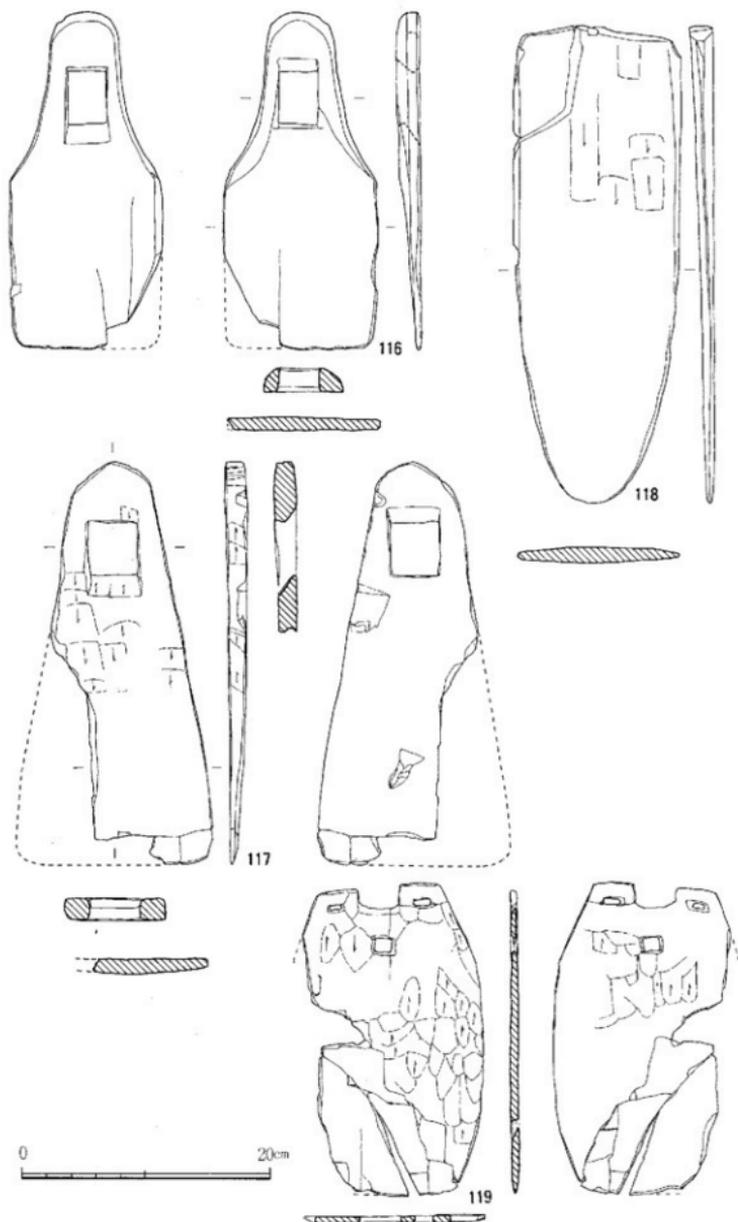
第50图 E-6·7区出土木器实物图(6)



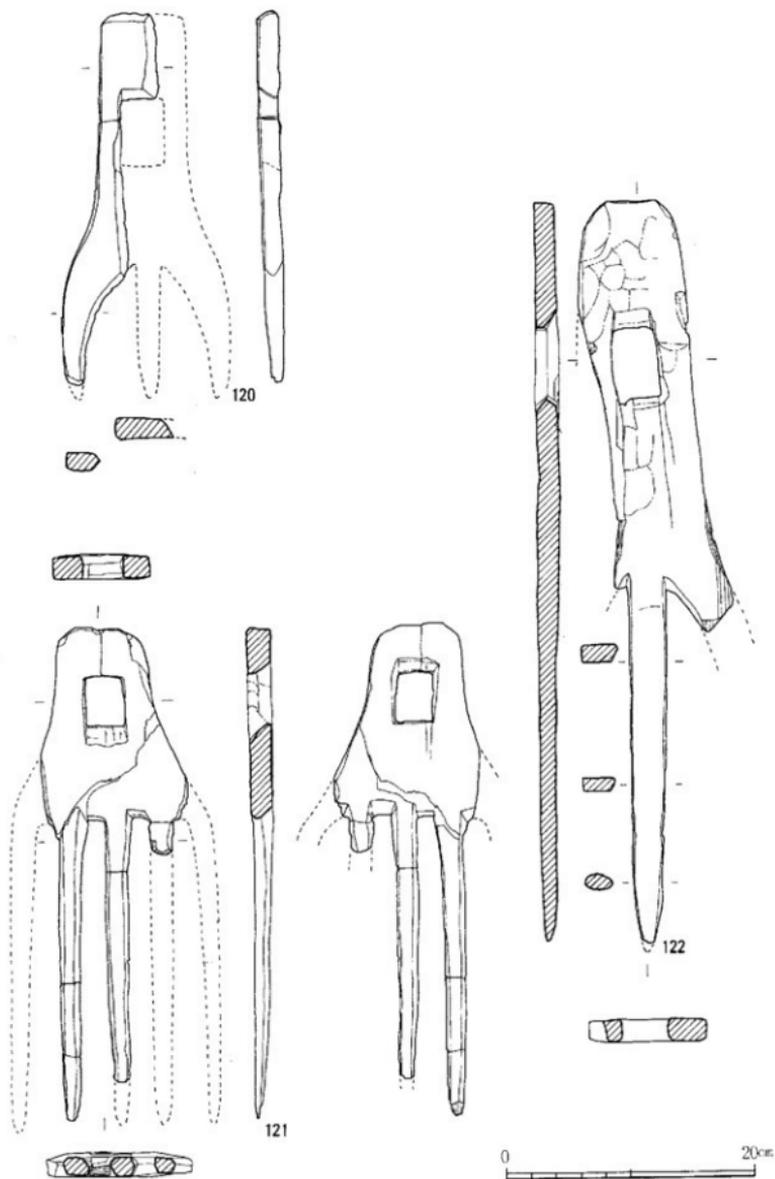
第51图 E-6·7区出土木器实测图(7)



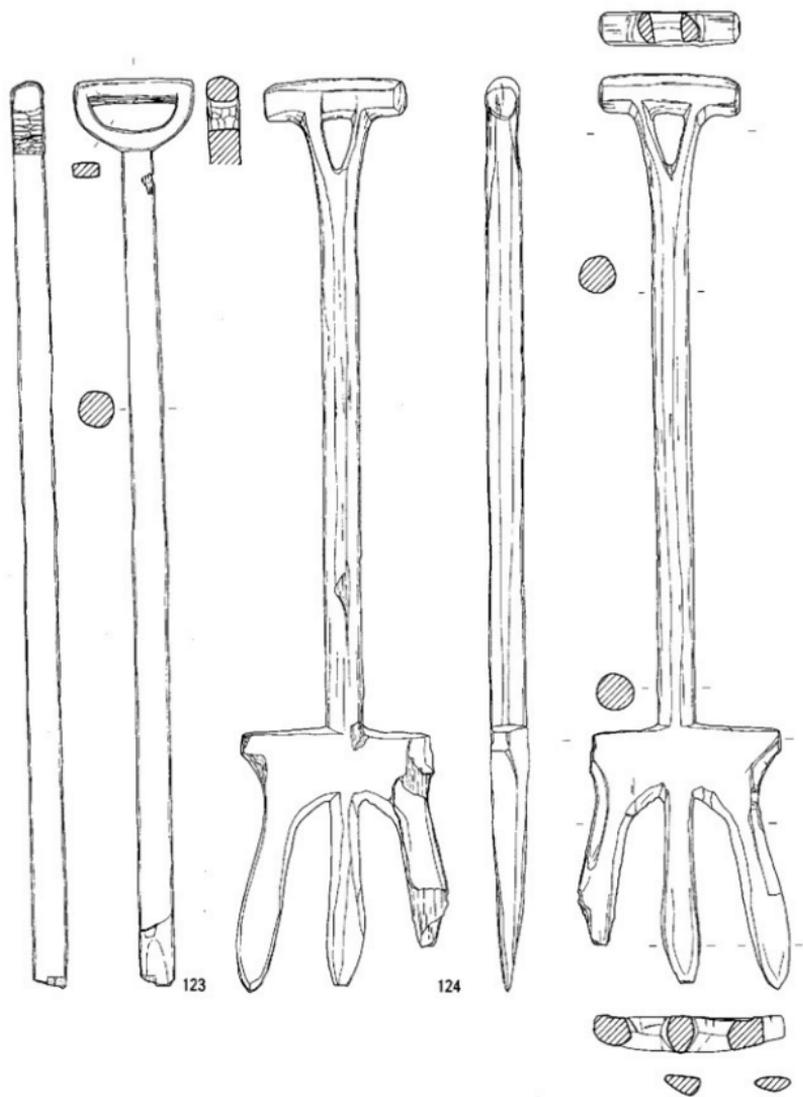
第52层 包含层出土木器尖测图(1)Ⅴ层下



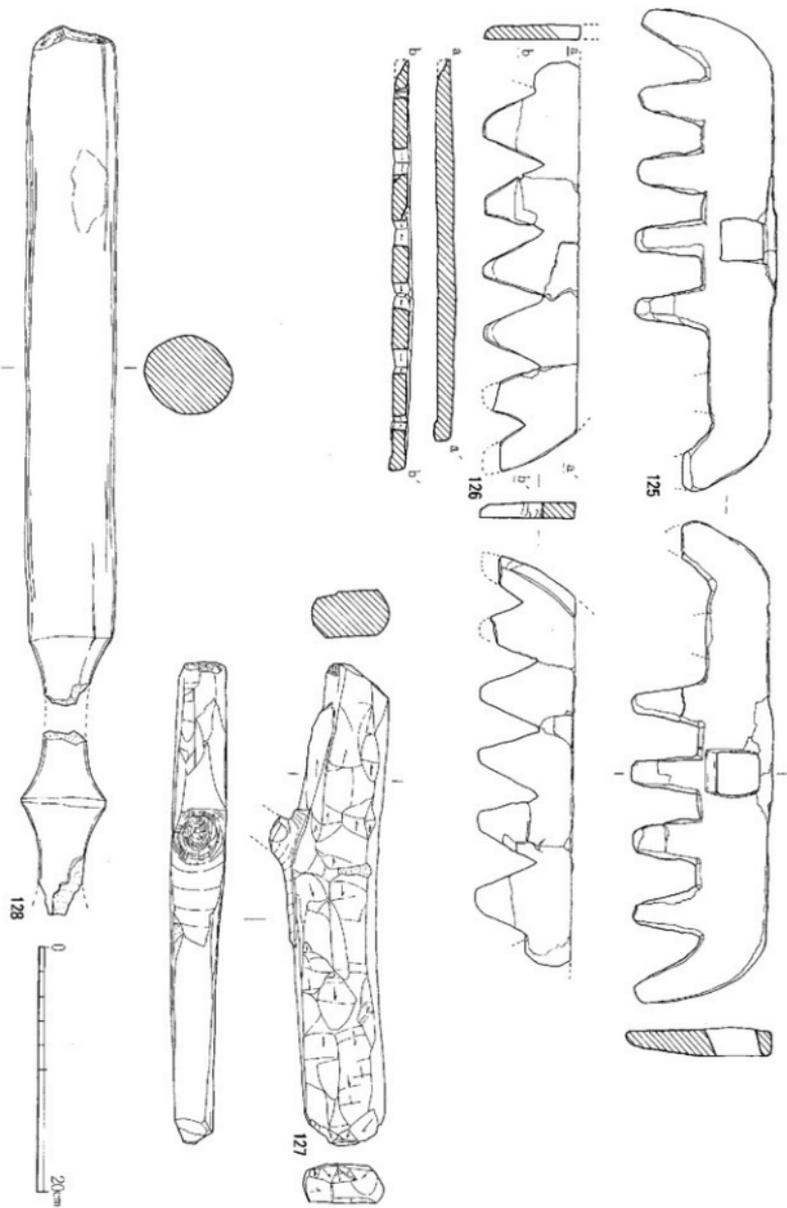
第53图 包含层出土木器夹测图(2)V层下



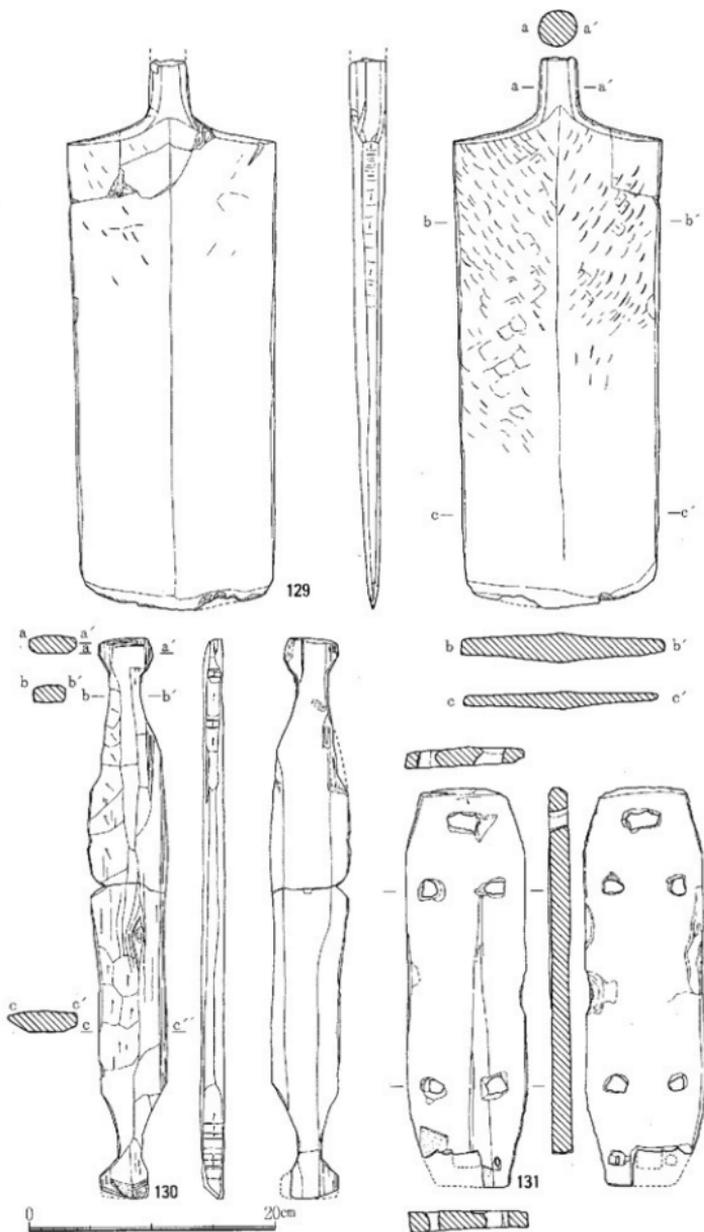
第54图 包含层出土木箭矢测图(3) V层下



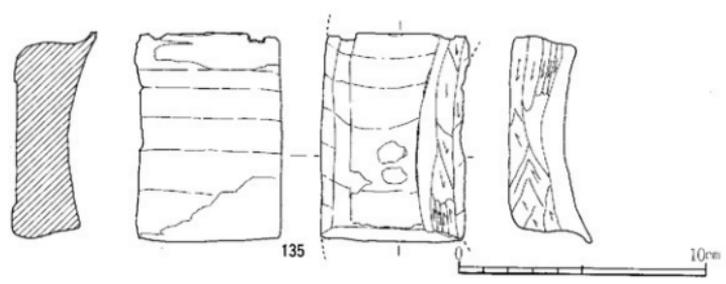
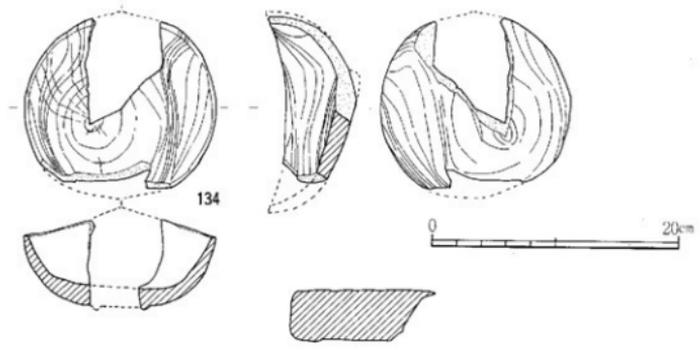
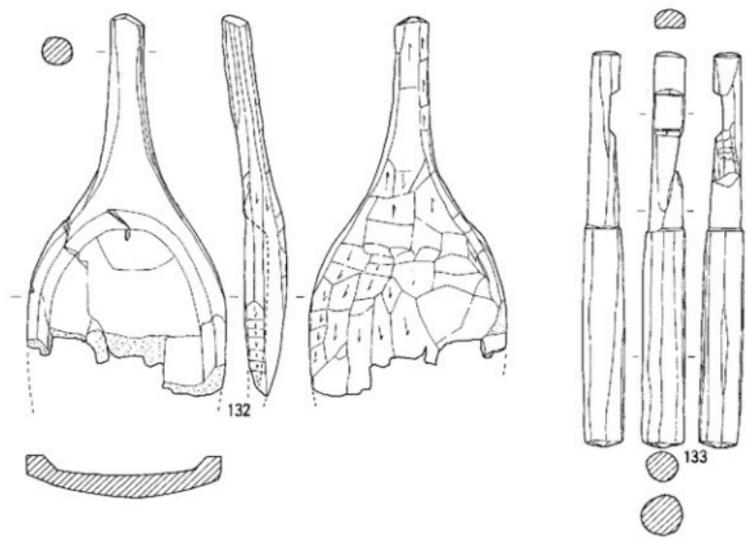
第55图 包含层出土木器实测图(4) V层下



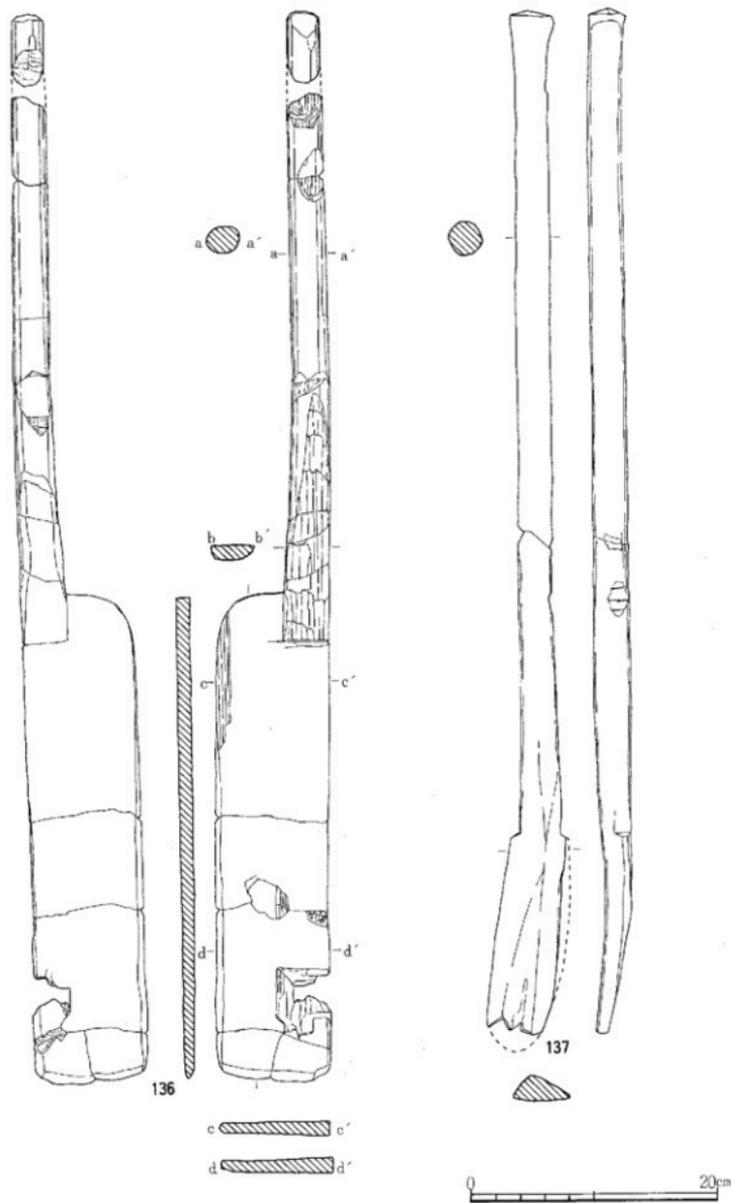
第56图 包含层出土石器类测区(5)Ⅴ层下



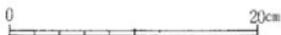
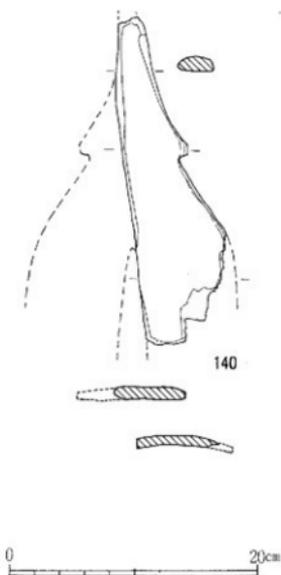
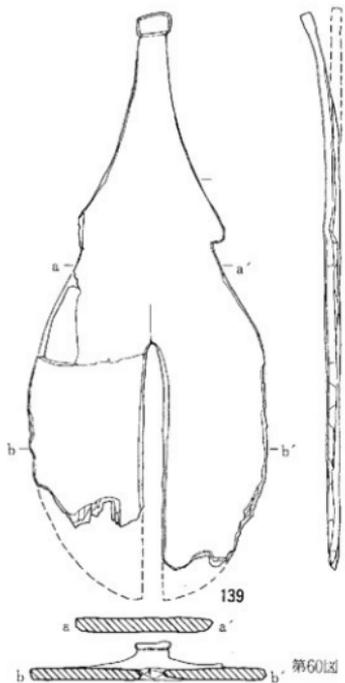
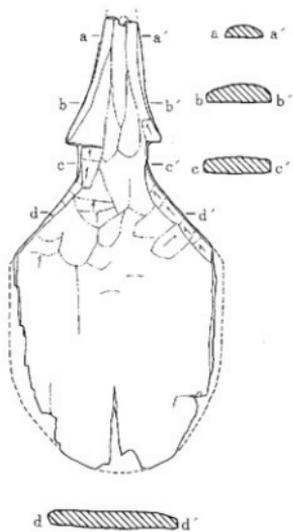
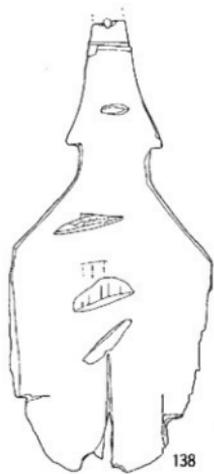
第57图 包含层出土木器实物图(6) V层下



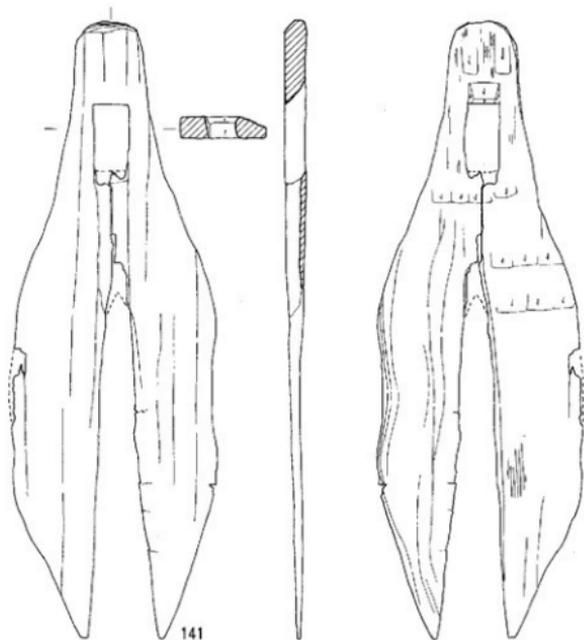
第58图 包含層出土木器突刻图(7) V層下



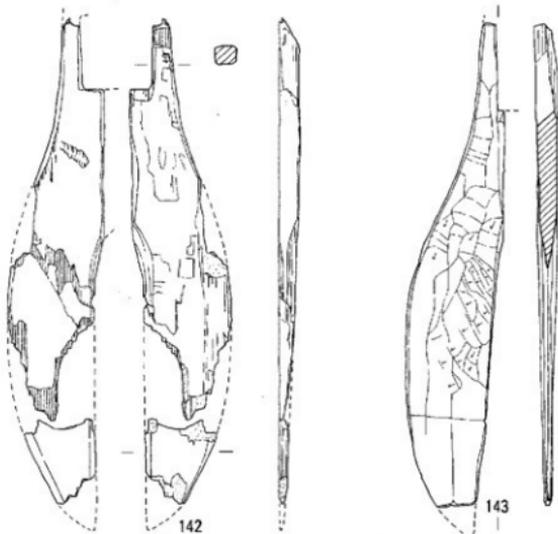
第59图 包含层出土木器实测图(8) V层下



第60区 包含層出土木器実測図(9) V層下



141



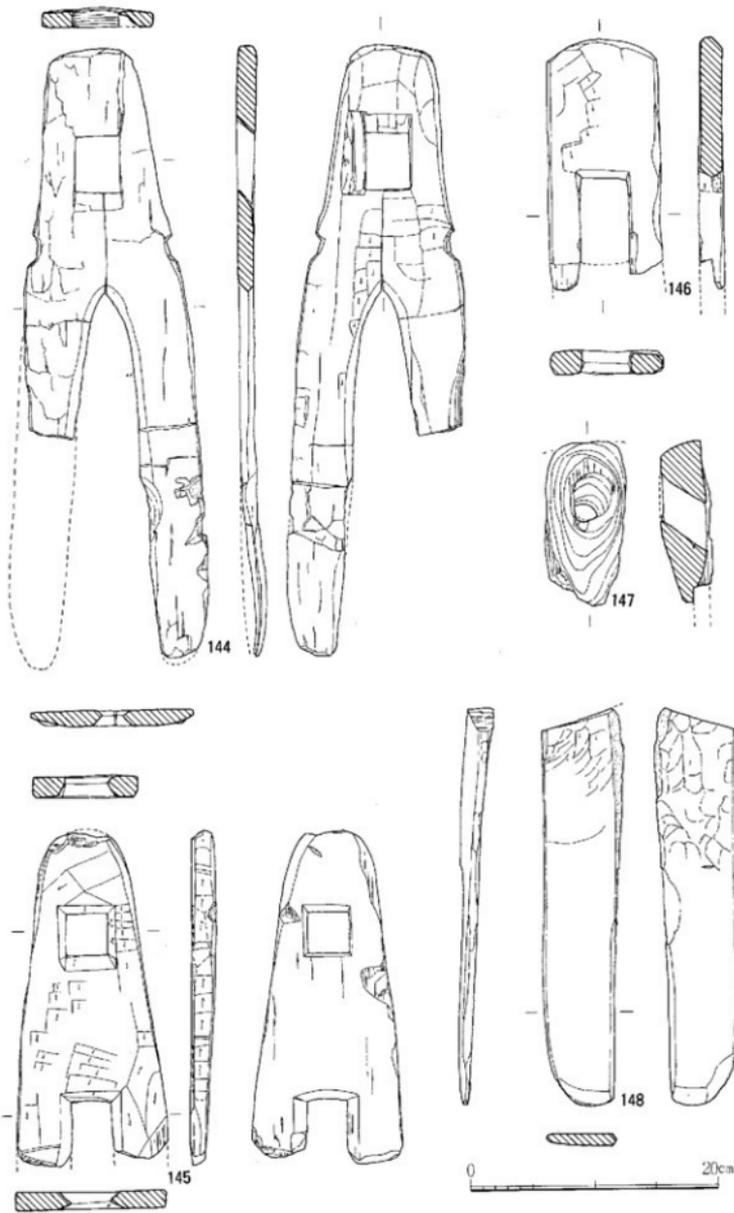
142

143

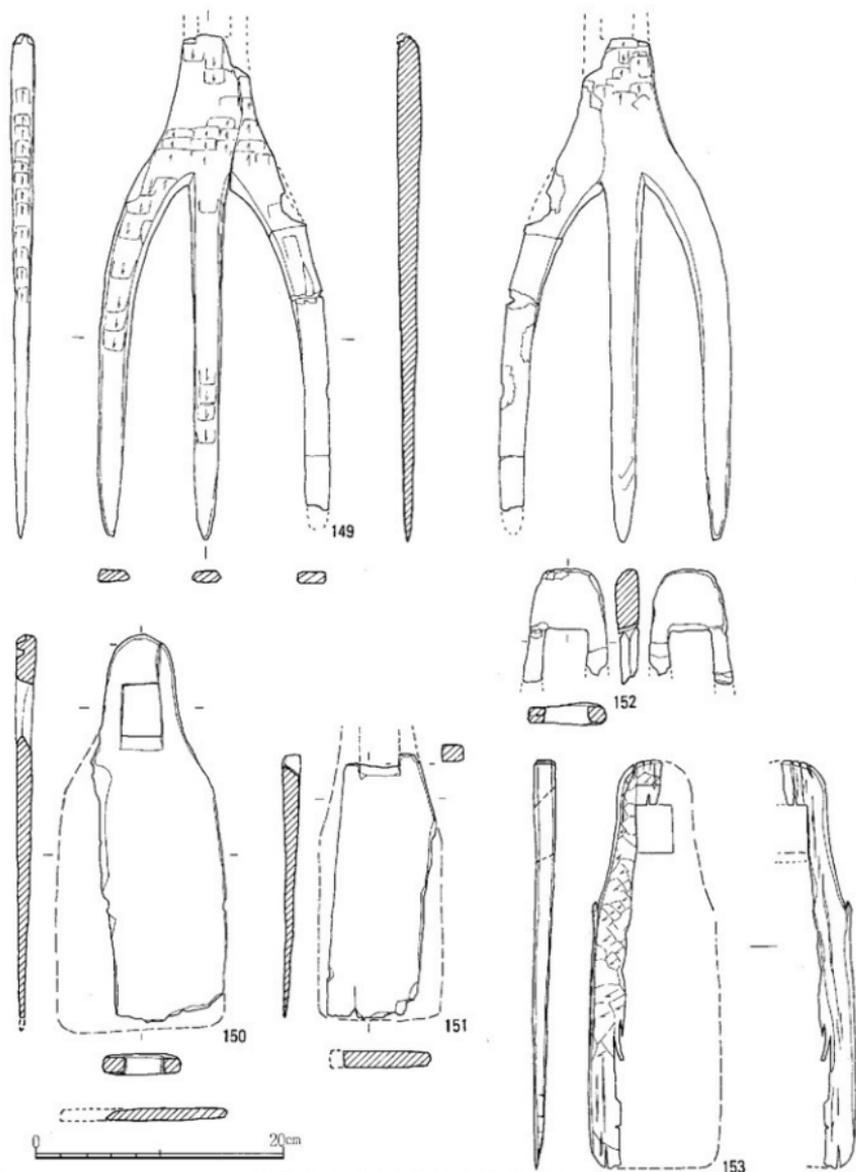


第61图 包含層出土木器实例图 (10) V層

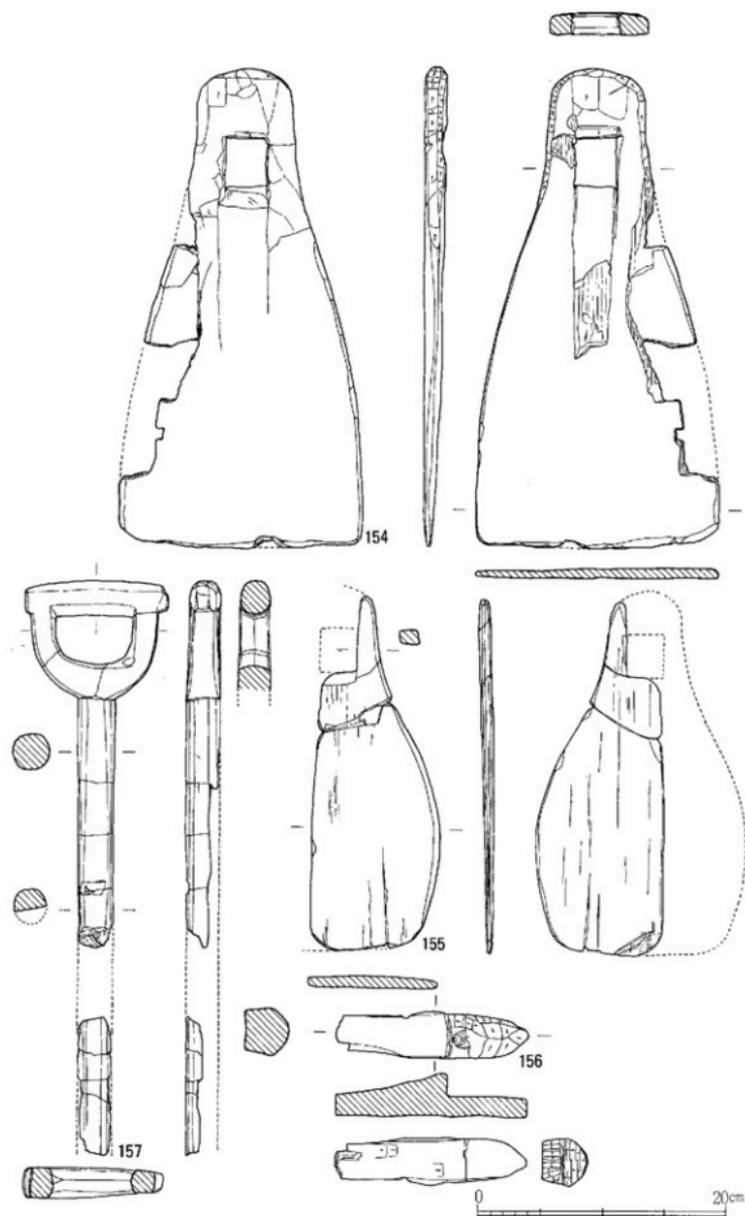
0 20cm



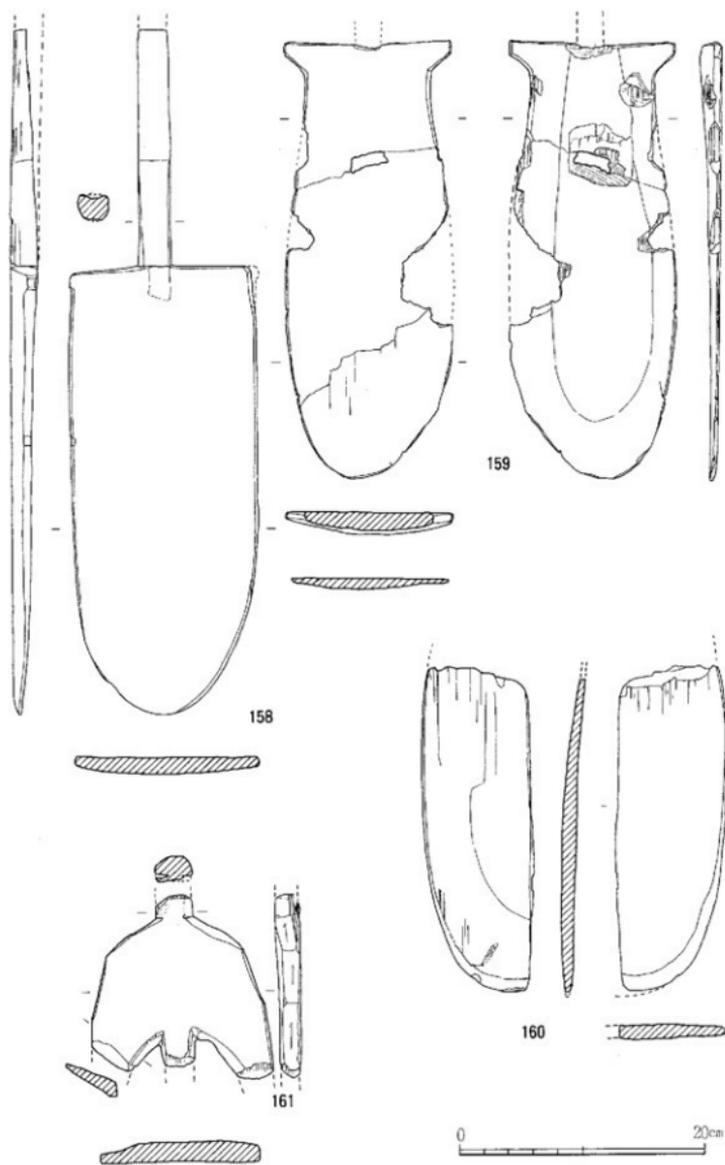
第62区 包含層出土石器実測図(11) V層



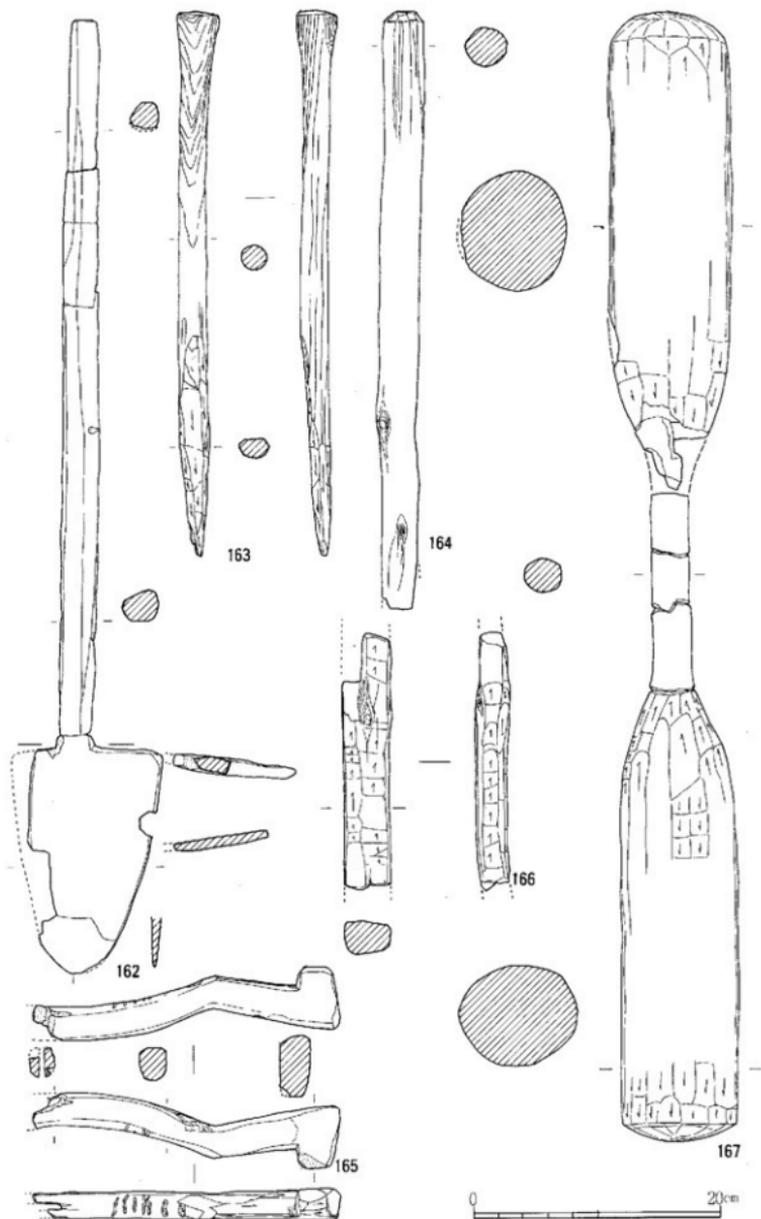
第63号 包含層出土木器実測図(12) V層



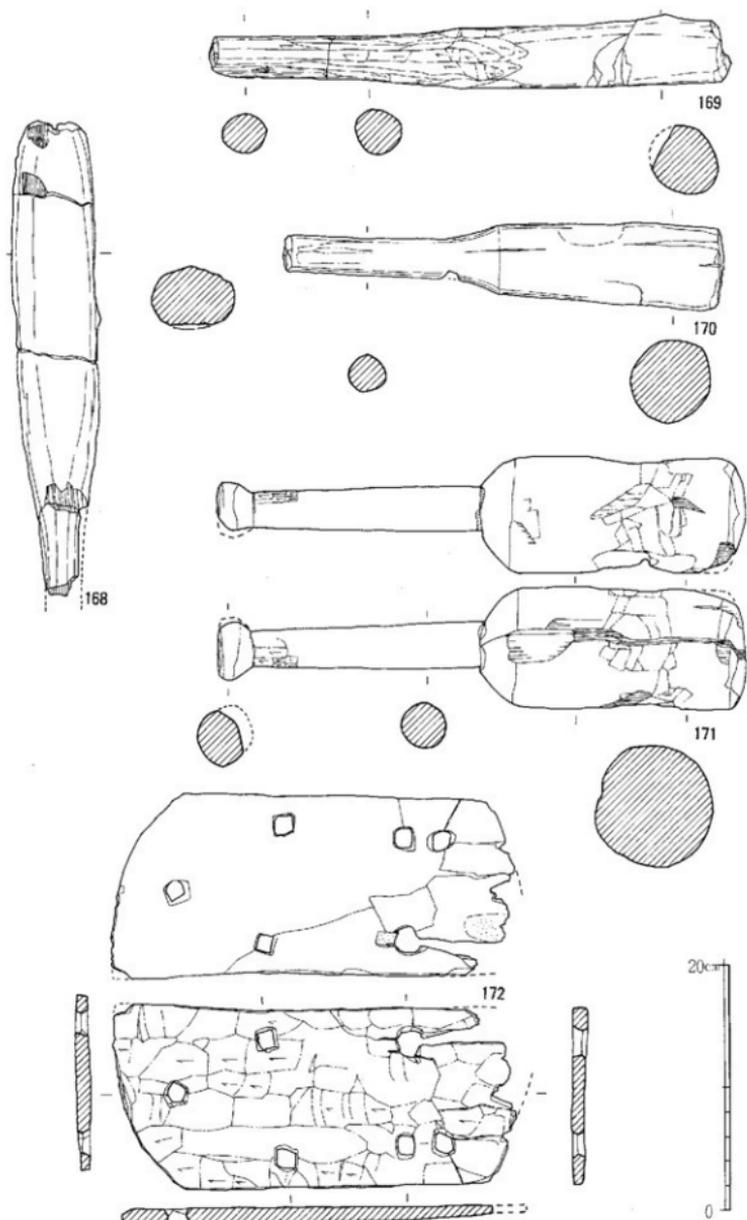
第64图 包含层出土木器实测图(13) V 期



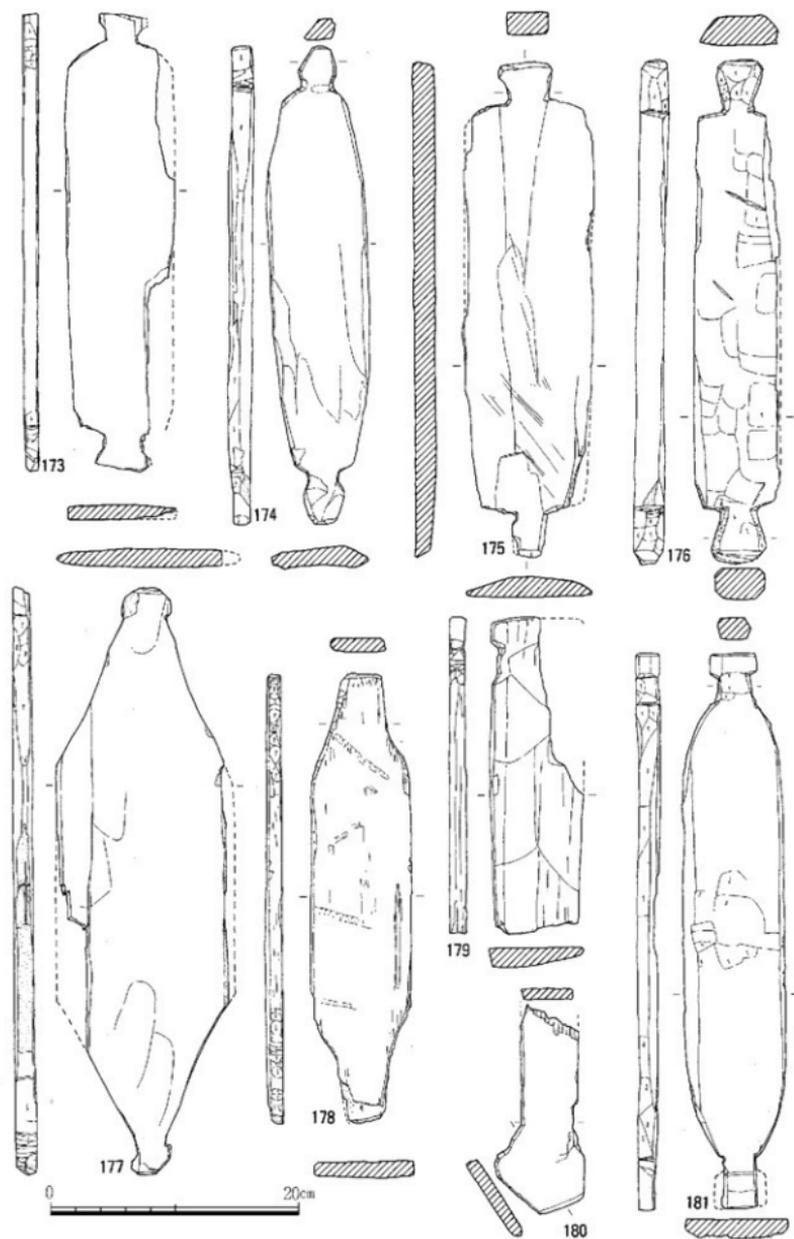
第65图 包舍层出土木器实测图(14) V层



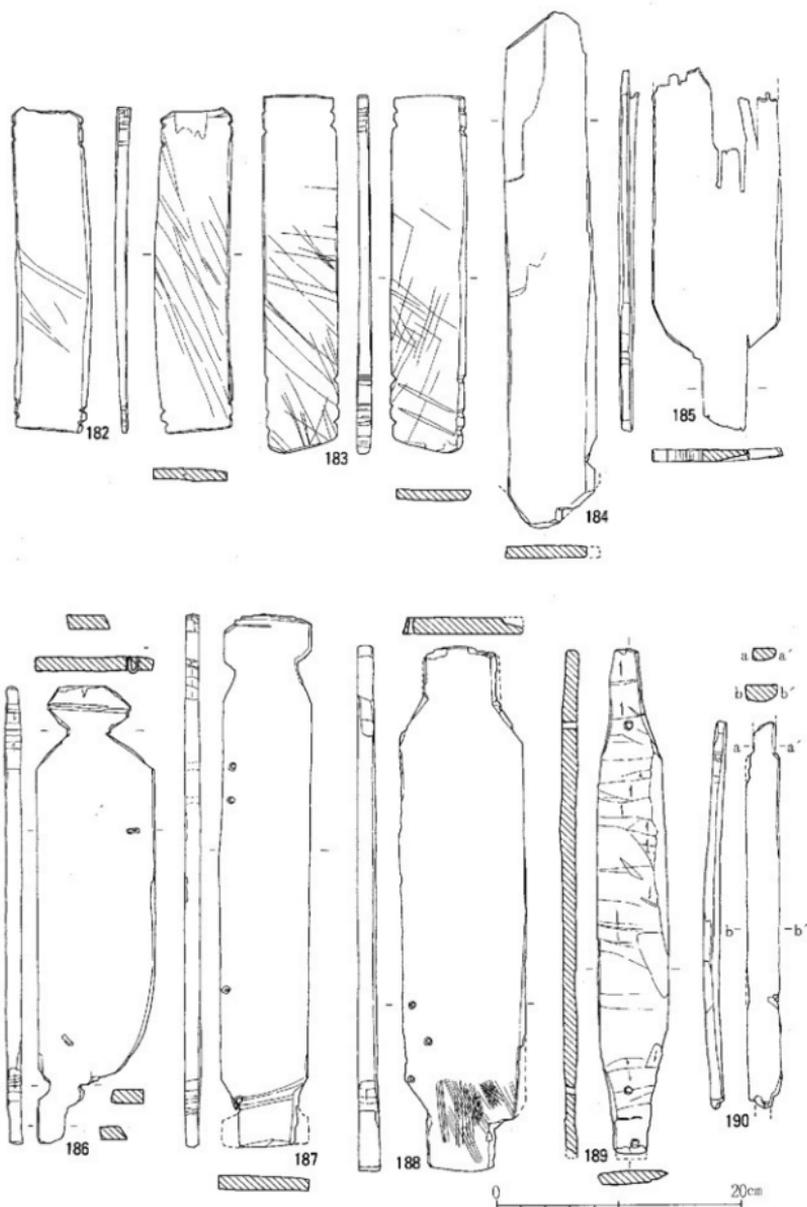
第66图 包含层出土木器尖刻图(15) V 层



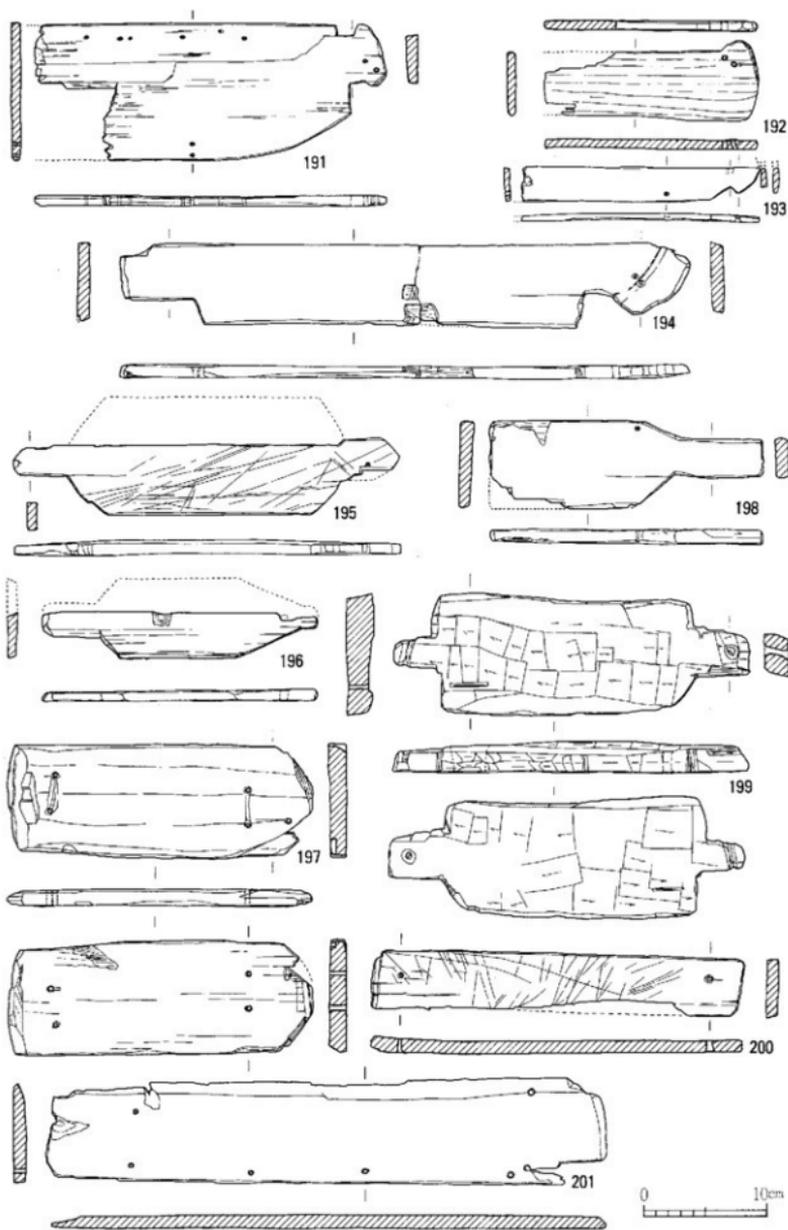
第67图 包含层出土木器实测图(16) V层



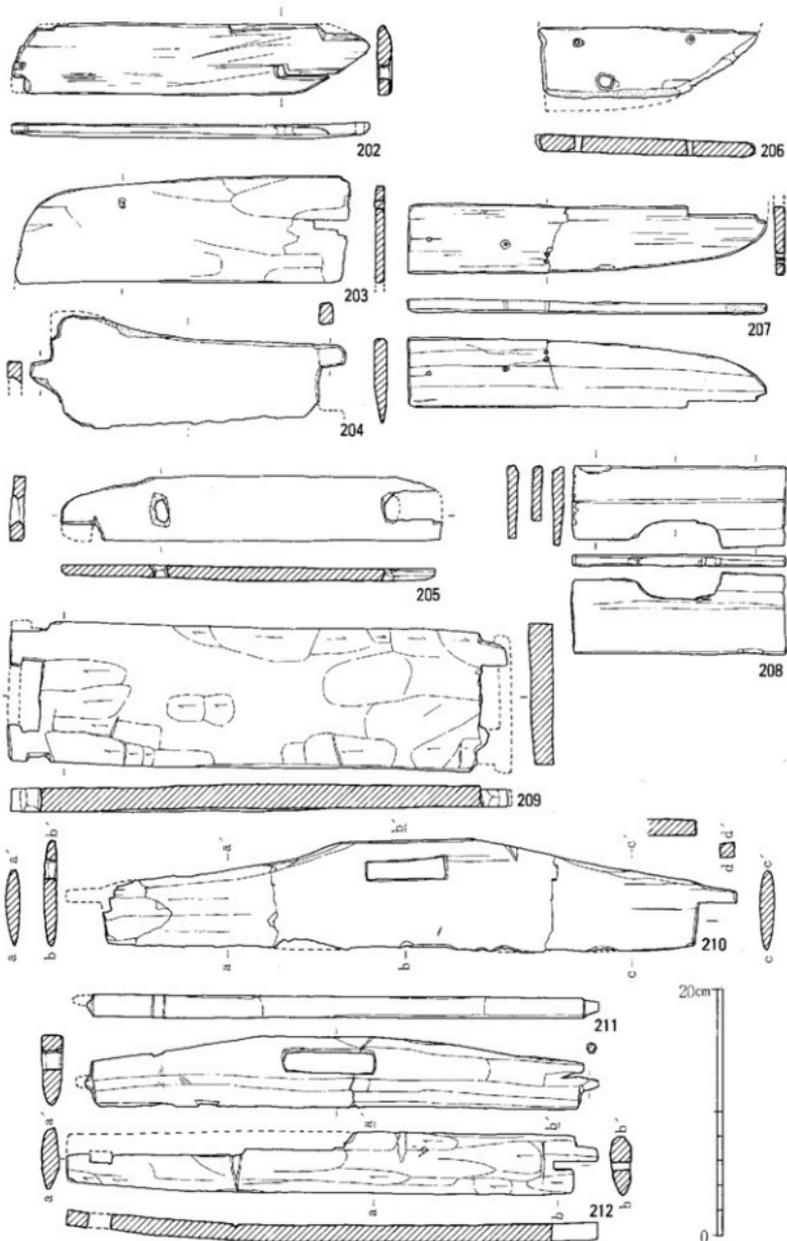
第68图 包含层出土木器实例图(17) V层



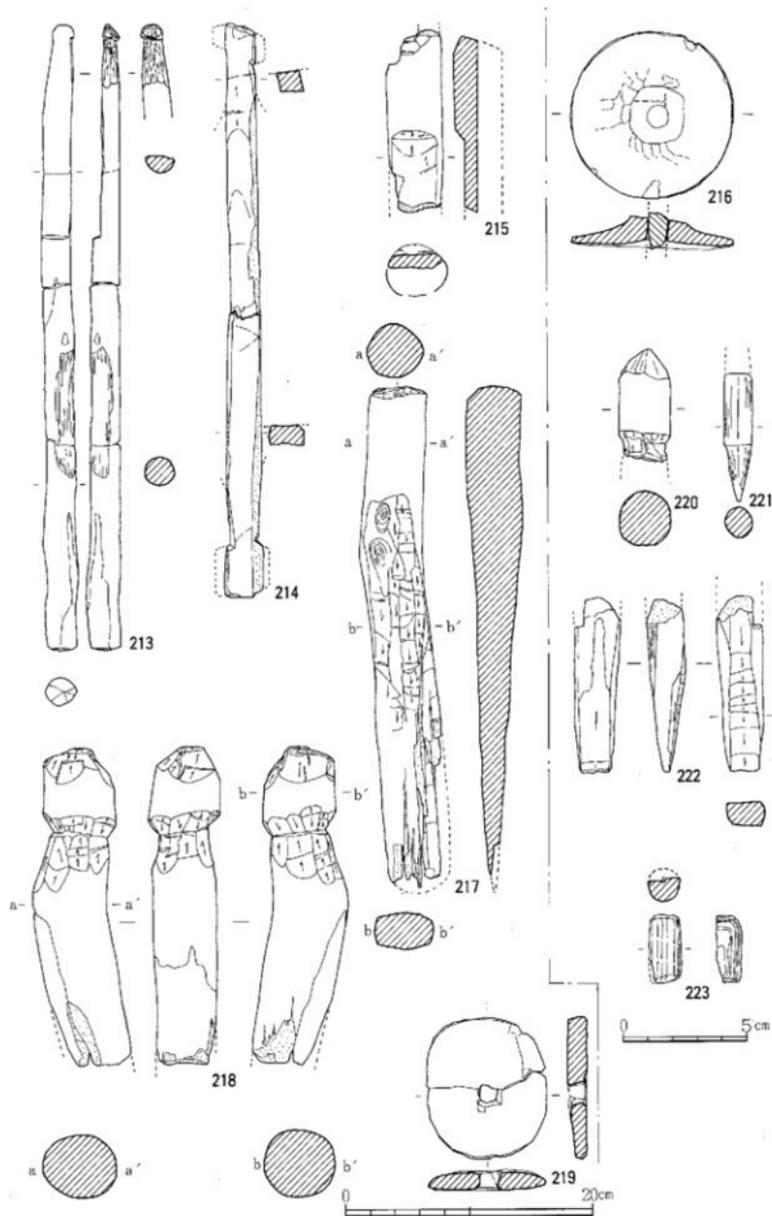
第69图 包含层出土木器实测图(18) V层



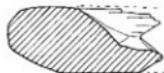
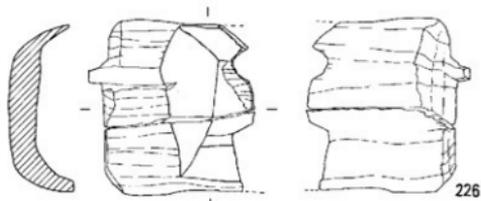
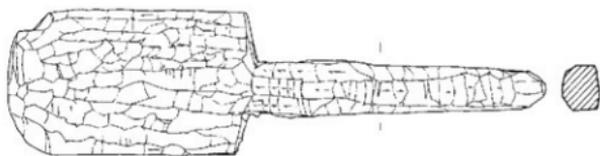
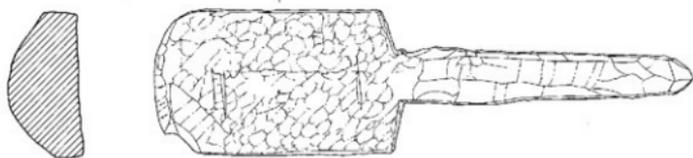
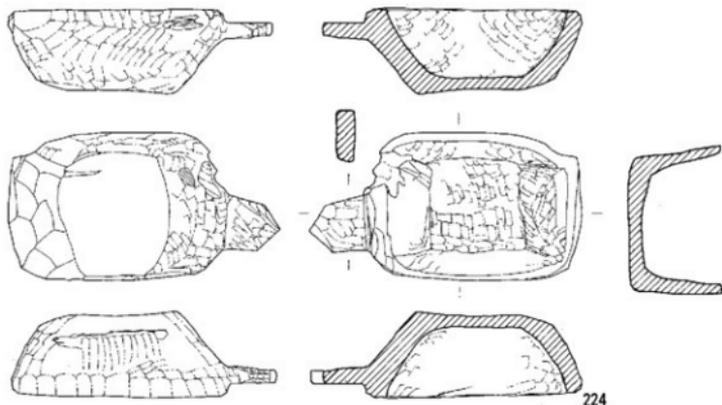
第70号 包含層出土木器実測図(19) V層



第71图 包含层出土木器实测图(20) V层

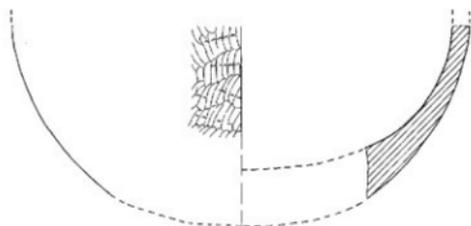


第72图 包含层出土木器类测图 (21) V 层



0 20cm

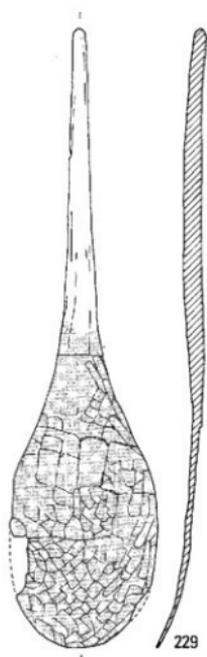
第73图 包舍解出土木器类器图(22) V 册



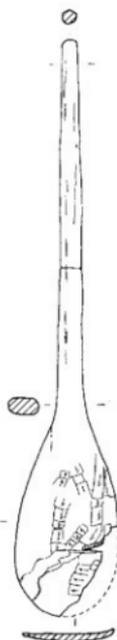
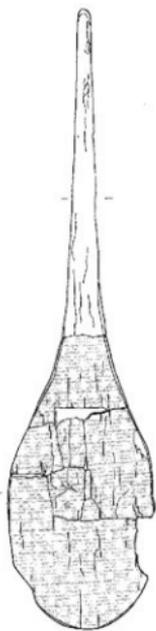
227



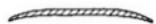
228



229

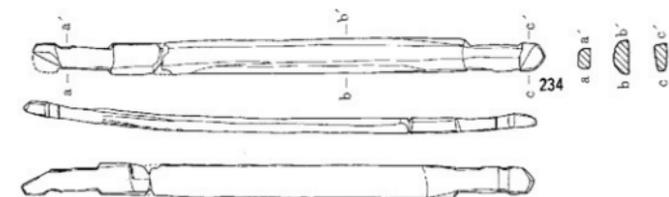
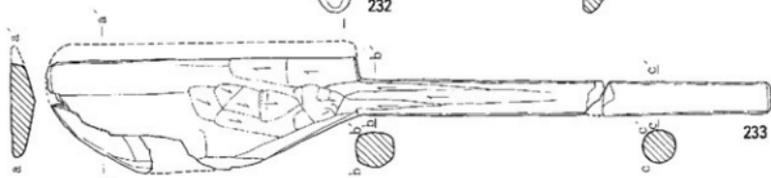
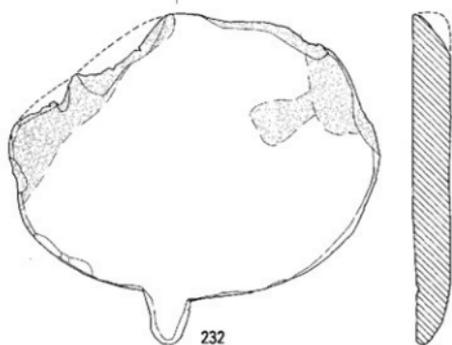
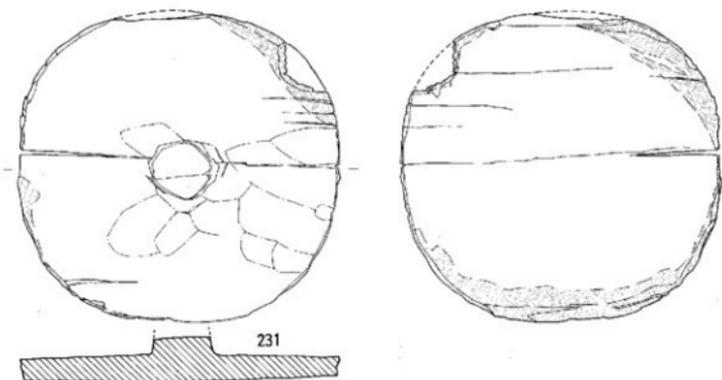


230



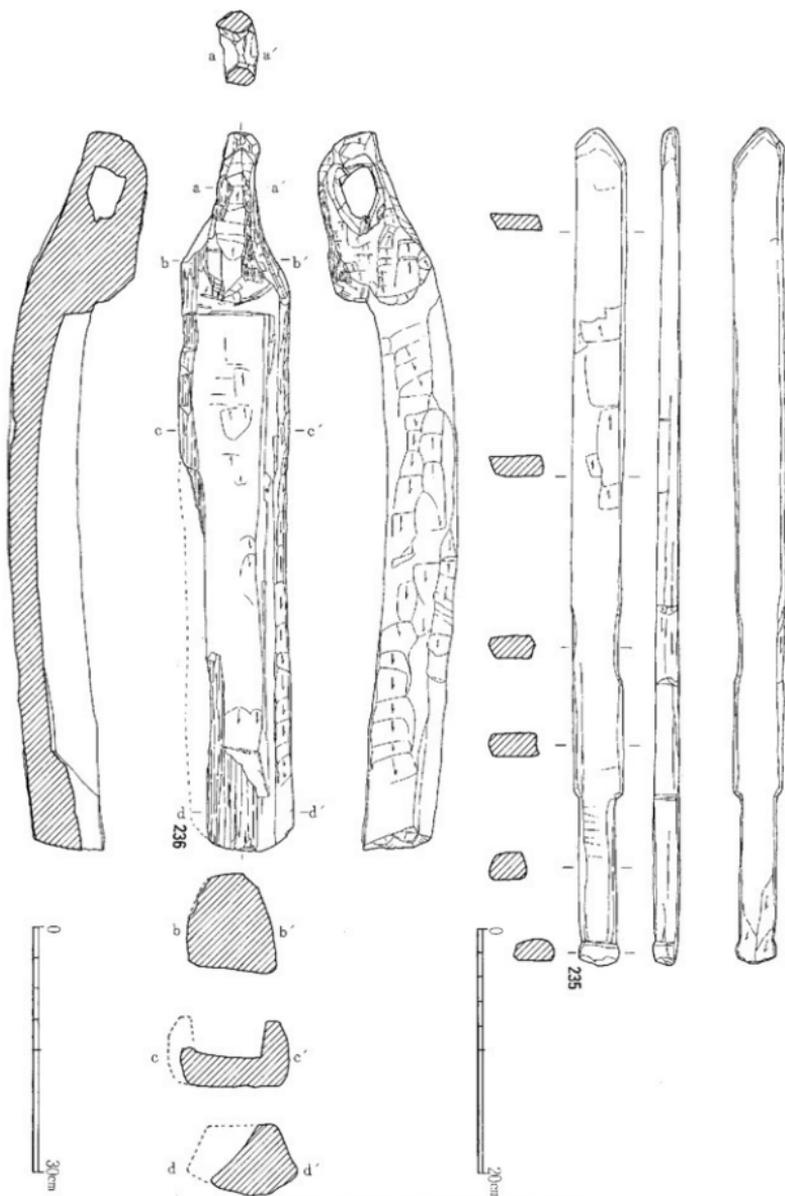
0 20cm

第74图 包含层出土木器实测图(23) V 层

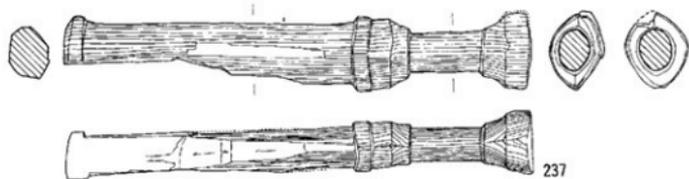


第75图 包含层出土木器夹测图(24) V层

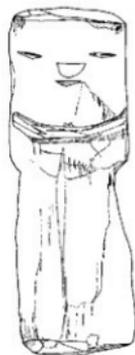
0 20cm



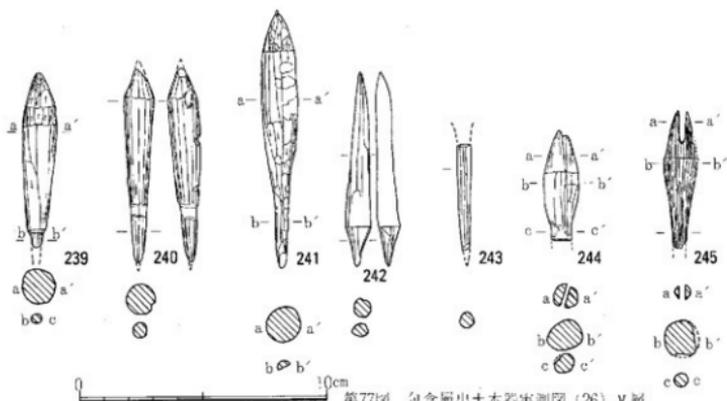
第76图 包含层出土木器夹测图(25)▼附



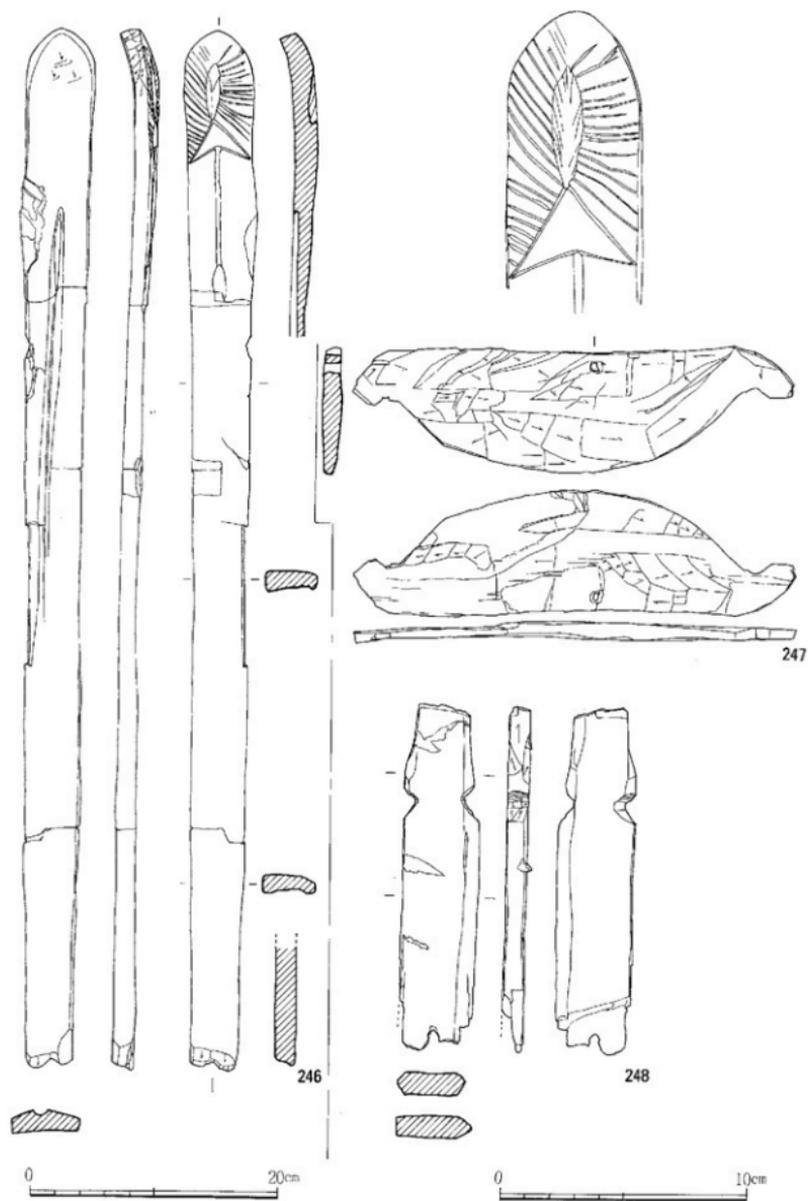
237



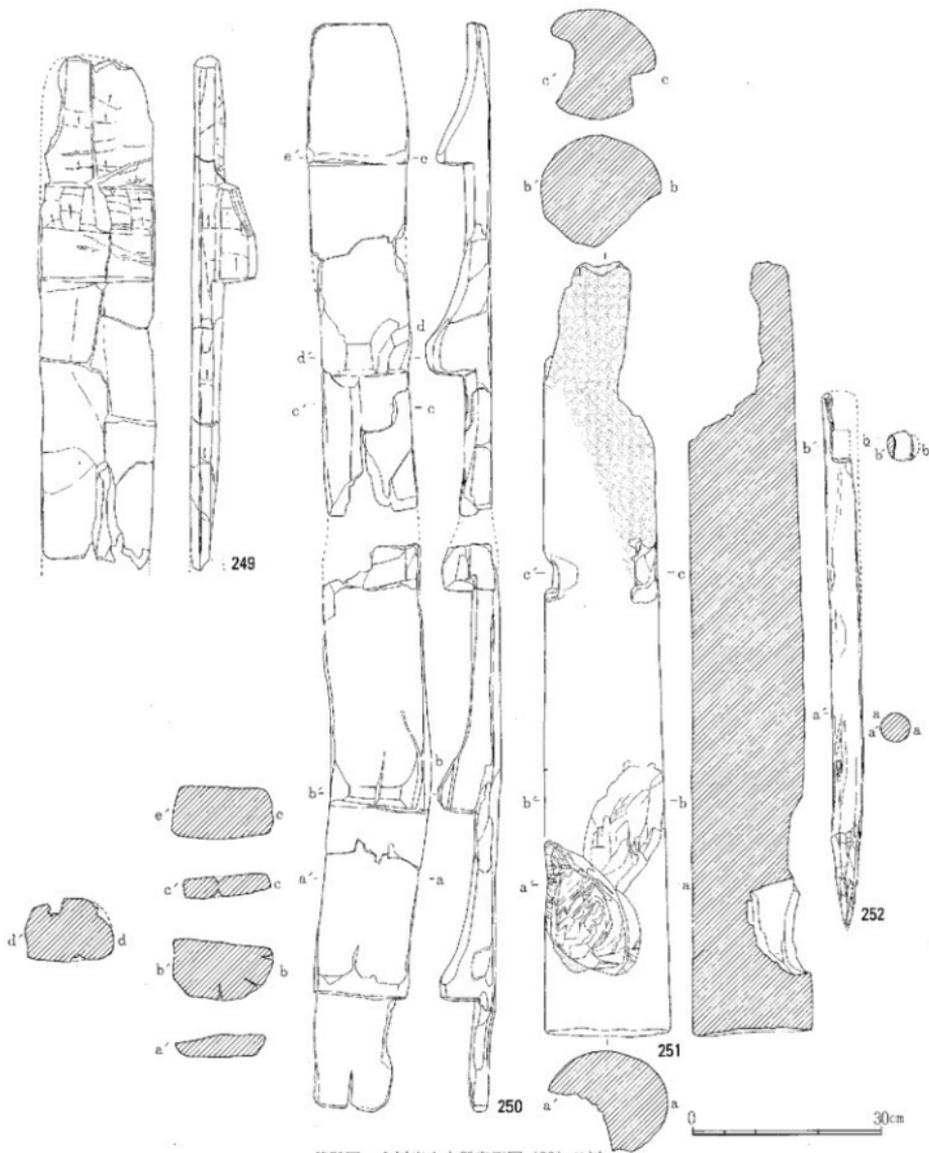
238



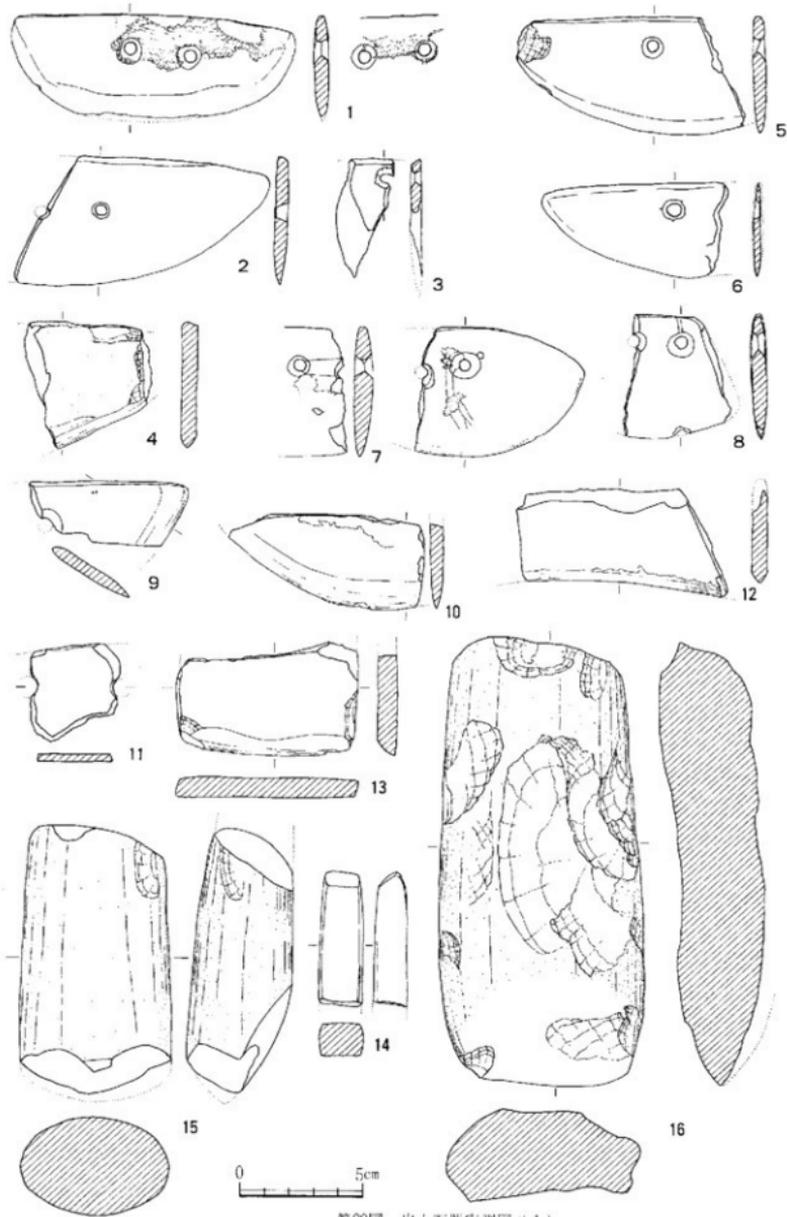
第77图 包舍层出土木器类剖面图(26) V解



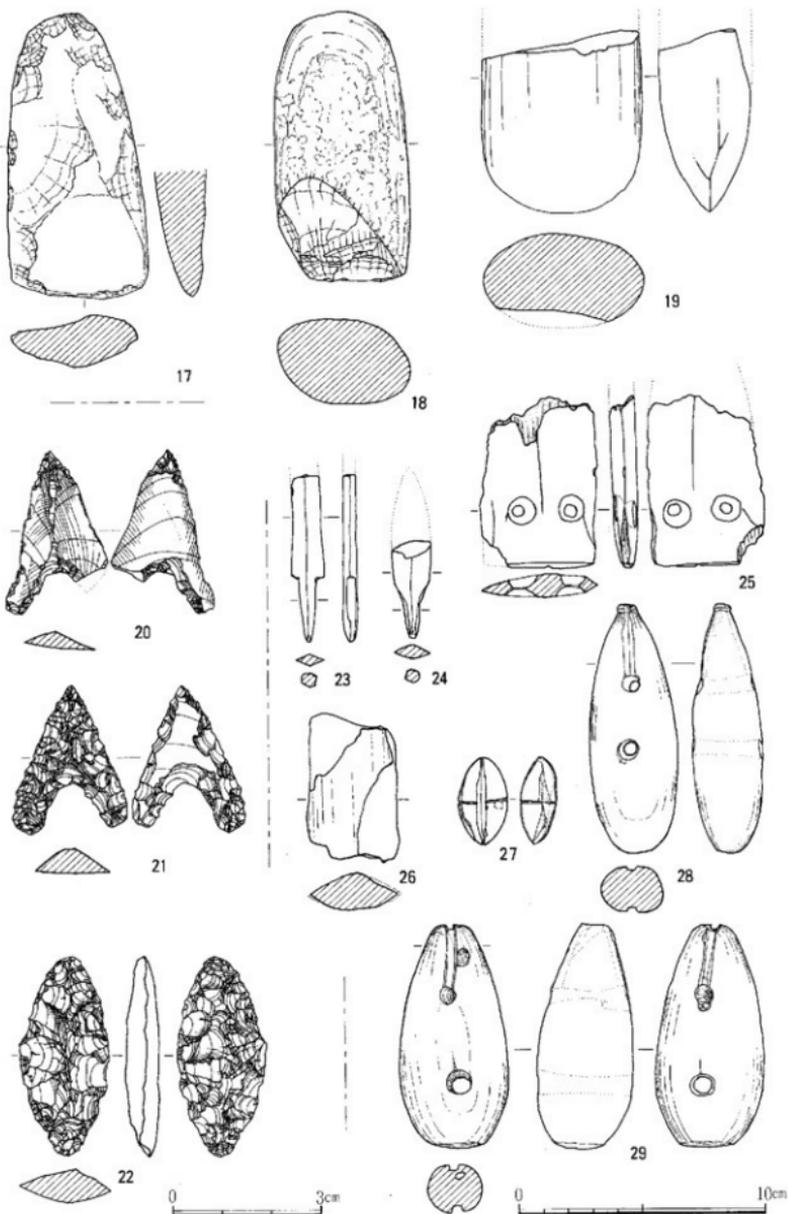
第78图 包含层出土木器实测图(27) V 层



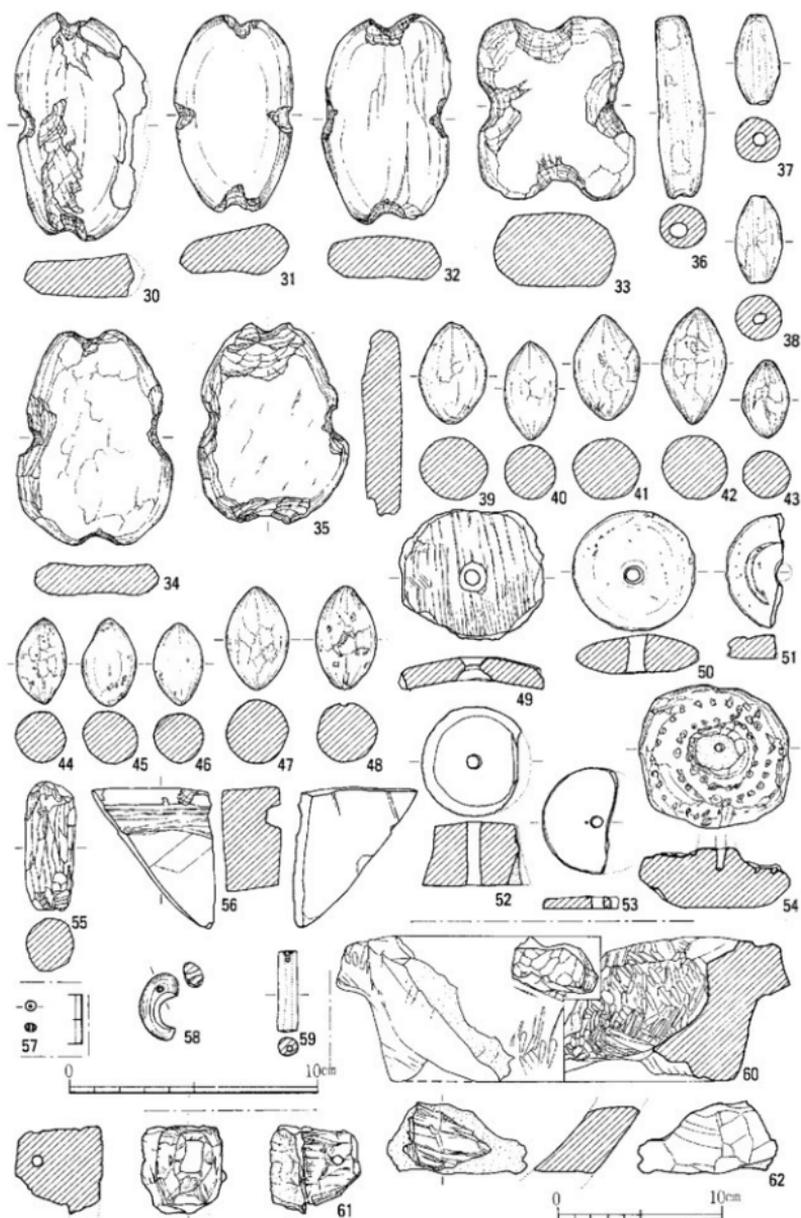
第79图 舍层出土木器实例图(26) V层



第80图 出土石器类测图(1)



第81图 出土石器实例图(2)



第82图 出土石器·石製品·土製品実測図

表1 出土土器観察一覧表(1)

土器番号	出土遺構(施設)	器種	容量(ml) ①口径(幅径) ②(口縁)最大径 ③高さ	形	部	手	法	胎土	焼成	色調	備考
1	第1号土庫	甕	①27.3			口縁外側に斜口凸部を有す。	外面は横位の条痕。 内面は平す。 凸部の割目には焼付工具による。	砂粒を多量に含む。	良	茶褐色	外壁に灰汁塗
2	第1号土庫	甕	①30.6			肩部に一周の凹線を有する。胴部から胴部への移行は緩やかである。	外面は横位のへり筋あり。 内面は平す。	石灰粒を多量に含む。	良	灰褐色	
3	第1号土庫	甕	①24.8 ②3.4			胴部より口縁が膨らむ。	外面下部はへり筋あり、上半はその上から平す。内面もへり筋ありとす。焼成後表面が光る。	砂粒を多量に含む。	良	暗褐色	
4	第1号土庫	甕	①8.7			やや上げねり味。	平す。	砂粒を多量に含む。	良	暗褐色	内面に炭化物
5	第1号土庫	甕	①28.5			外反する口縁部。粘土を貼り付け肥厚させる。	外面は横位のへり筋あり。 内面口縁部は横位のへり筋あり。 内面胴部は指の押圧痕あり。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
6	第1号土庫	甕	①9.8			平す。	内面平す。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
7	第1号土庫	甕	①12.2			平すで胴部は上方に立ち上がり、さらに大きく開く。	平すのため不明。	石灰粒を多量に含む。	良	茶褐色	
8	第1号土庫	甕	①16.0			外反し肥厚する口縁部。	内外ともにへり筋あり。外表面以下は2本の平す線と線部の一部に赤色顔料により彩文を施す。	石灰粒を多量に含む。	良	黄褐色	
9	第1号土庫	甕	①21.3			外反し肥厚する口縁部。	内外ともに横位のへり筋あり。褐色顔料を塗布し、その上から赤色顔料により外面は横線、内面は縦文を施す。	石灰粒を多量に含む。	良	黄褐色	
10	第2号土庫	甕	①19.1			頸りのある胴部。	外面は横位のへり筋あり。内面胴部は平す。胴部は横位の条痕。線部の接合部が明確に光る。	細砂粒を含む。	良	黄褐色	
11	第2号土庫	甕	①10.1			やや内面凹みに開く。	外面は平す。 各部分の内面は指の押圧痕。	砂粒・石灰粒を含む。	良	暗褐色	内面に炭化物
12	第2号土庫	甕	①7.3			胴部が外に張り出す部分。	平す状態。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
13	第2号土庫	甕	①26.0			口縁に凸部を有す。	内外ともにへり筋あり下縁より上縁部。凸部の割目は焼付工具による。	砂粒を多量に含む。	良	暗褐色	内面に炭化物、 外面に灰汁塗
14	第3号土庫	甕	横文彩画			内面平すの器部。胴部にへり筋による輪状彩文を施す。	外面は横位のへり筋あり。 内面上半は横位のへり筋あり、それ以下は平す。	石灰粒・砂粒を多量に含む。	良	黄褐色	
15	第3号土庫	甕	①18.6			外反する口縁部。内面に粘土を貼り付け平す面を作る。	へり筋の上から平す。底部部は条痕のあと赤色顔料で口縁下部に横線文、胴部には本々の平す面を施す。	石灰粒を多量に含む。	良	黄褐色	
16	第3号土庫	甕	①18.5			外反する口縁部。やや膨らむ。	内外ともに横位のへり筋あり。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
17	第3号土庫	甕				口縁周よりやや平す位置に断面三角形の口縁凸部を有す。	外面は平す。 内面は横位の条痕。 凸部の割目は焼付工具による。	砂粒・石灰粒を含む。	良	暗褐色	小瓶片のため口縁の位置は不明
18	第3号土庫	甕				口縁周よりやや平す位置に断面三角形の口縁凸部を有す。	内外ともに平す。 凸部の割目はへり筋状による。	石灰粒を多量に含む。	良	黄褐色	小瓶片に灰汁塗
19	第3号土庫	甕	①7.1			上げねり。胴部は外に張り出す。	内外ともに条痕。 胴部は平す。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
20	第3号土庫	甕	①8.8			上げねり。胴部は外に張り出す。	内外ともに平す。	砂粒を多量に含む。	良	暗褐色	
21	第3号土庫	甕	①24.4(F) 11.1(幅) 23.3 20.3			口縁部は平す。胴部は頸りをもたない。口縁外側に灰汁塗を施す。	外面はへり筋あり。内面は指の押圧痕の上から平す。底部には明確な指押痕が光る。	石灰粒・砂粒を多量に含む。	良	黄褐色	外面上部に灰汁塗、内面に炭化物
22	第3号土庫	甕	①25.5(口) 7.6(幅) 22.5 5.26			やや膨らみのある胴部に外周する口縁部。口縁外側に灰汁塗を施す。	外面はへり筋あり。 内面は平す。 割目はへり筋状による。	石灰粒を多量に含む。	良	外・内ともに灰汁塗	
23	第3号土庫	甕	①18.2(口) 7.6(幅) 22.5 5.26			「く」の字状に膨らむ口縁をもつ。胴部は中央よりやや上位置する。	口縁部は平す。 胴部はへり筋の上から平す。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	外周の一部に灰汁塗
24	第3号土庫	甕	①23.6(F) 7.0(幅) 20.5			「く」の字状に膨らむ口縁をもつ。	口縁部は平す。外面はへり筋あり。胴部は平す。内面はへり筋の上から平す。以下は細砂粒のへり筋あり。内面は指押痕の上から平す。	石灰粒を多量に含む。	良	暗褐色	
25	第3号土庫	甕	①19.6(F) 11.1(幅) 23.3 5.26			強く張る胴部に強い凹線が施され、外反。内面に粘土を貼り付け平すさせた口縁部を有す。	口縁部は平す。上面はへり筋の上から平す。外面はへり筋あり。胴部はへり筋の上から平す。内面は指押痕。胴部は平すのへり筋あり。内面は平す。	砂粒を含む。	良	黄褐色	口縁外縁を平す、内面に炭化物
26	第3号土庫	甕	①9.0(口) 3.4			上部で強く膨らむ口縁部に強い凹線が施され、外反。内面に粘土を貼り付け平すさせた口縁部を有す。	口縁部は平す。外面はへり筋の上から平す。内面はへり筋あり。胴部は平すのへり筋あり。内面は平す。	砂粒・石灰粒を多量に含む。	良	黄褐色	

表1 出土土器観察一覧表(2)

土器番号 種別番号	出土時期 (地層)	器種	位置(cm) ①(口縁部) ②(胴部) ③(底)	形	部	手	法	粘土	焼成	色調	備考
27 17	第3号土層	甕	①27.8	外反する口縁部、肩部は丸くおさまる。			口縁部はヨコナテ、 胴部外面はハナ目、内面はナテ。	砂粒を含む	良	暗褐色	口縁部外縁の一部に黒い付着する
28 17	第3号土層	甕	①15.5	短かく外反する口縁部、肩部は丸くおさまる。			口縁部はヨコナテ、 胴部外面はハナ目、内面はナテ。	砂粒を含む	良	暗褐色	
29 17	第3号土層	甕	①18.5	外反し、逆J字状に近い縁部。			ナテ調整	砂粒を含む	良	黄褐色	
30 17	第3号土層	甕	①14.2	やや盛り上げられた「く」の字状に短かく外反する口縁部を付す。			口縁部はヨコナテ、 胴部外面はハナ目、内面はナテ。	石灰粒を多量に含む	良	黒褐色	
31 17	第3号土層	甕	①11.5	丸い縁部に「く」の字状に外反する口縁部は丸くおさまる。			胴部外面はヘラ磨き、筋はナテ。	砂粒を含む	良	暗褐色	
32 17	第3号土層	甕	①11-20(底)	縁の外に開く。喉に近づくと口縁部は薄くなる。器底の凹凸が目立つ。			内外面共に指調整の上からナテ。	砂粒・石灰粒を多量に含む	良	暗褐色	
33 17	第3号土層	甕	①29.8	口縁部は内面に凸部を有し、肩部は中央を凹む。胴上部の凹凸は八八凹と思われ。			口縁部はヘラ磨きの上からヨコナテ、上面に赤褐色顔料で文様を施される。胴部外面はヘラ磨きの上から粗文、内面はナテ。	石灰粒を含む	良	暗褐色	文様は磨りが浅く、どよよとしたものか不明
34 18	第3号土層	甕	①37.0	口縁部は内面に盛り上がり、平坦面を作る。			ナテ調整	石灰粒・砂粒を多量に含む	良	茶褐色	小瓶片のために、他にくで残存あり
35 18	第3号土層	甕	①28.2	内面にやや突出し、外縁・胴部が下向きの口縁部、胴部の付け根に三角凸を有する。			口縁部はヨコナテ、 外面はハナ目、内面はナテ。	石灰粒を多量に含む	良	暗褐色	
36 18	第3号土層	甕	① 8.5 ② 9.8	胴部最大径は中央より下に位置する。口縁部は「く」の字状に開く。肩部は丸くおさまる。厚みを有する。			口縁部はヨコナテ、胴部外面は縁部のヘラ磨き。内面はナテ、外面は口縁部内面の一部に丹塗り。	砂粒を含む 赤目肌か	良	黄褐色 (内面黄褐色)	
37 18	第3号土層	甕	①14.6 ②19.7	丸い縁部に「く」の字状に近い凸部をもつ口縁部。縁部は丸くおさまる。			口縁部はヘラ磨きの上からヨコナテ、胴部外面はハナ目の上からヘラ磨き、ハナ目が部分的に残る。内面はナテ。	石灰粒を含む が極少	良	黄褐色	
38 18	第3号土層	甕	①11.1 ②15.2	張り強い縁部に「く」の字状に開く。外に開く部分で厚く、肩部で平坦面を作る口縁部が付く。			口縁部は内面はナテ、外面は縁部は縁部のヘラ磨き。その上から口縁部・外面に丹塗りが施される。	砂粒を含む 赤目肌	良	赤褐色 (内面黄褐色)	
39 18	第3号土層	甕	①14.9	「く」の字状に開く部分に口縁部穿孔を有する。			口縁部は外縁は縁部のヘラ磨き。 胴部内面はナテ。	砂粒を含む が数粒のみ	良	黄褐色 (内面黄褐色)	
40 18	第3号土層	甕	①0(外縁)	縁部外に開く。片側2箇所ずつ4箇所を連続して穿孔し、内面縁部は凹む。			外面は放射状にうらみ入り、丹塗り。 内面はヘラ調整。	砂粒を含む が厚手の粘土	良	赤褐色 (内面黄褐色)	
41 18	第3号土層	甕	① 7.2(底) ②18.5	お盆状に上げ底の器種。胴部は中央より上に盛り上がる。口縁部は「く」の字状に丸くおさまる。内面の縁部は縁部、胴部中央に連続した穿孔を有する。			内面上部は口縁部はヨコナテ、胴部外面はハナ目、内面はヘラ磨き。肩部は縁部中央に調整。	石灰粒を多量に含む	良	暗褐色 (内面黄褐色)	
42 18	第3号土層	甕	① 8.3(底)	中央のくの内面より上下とも縁部に開く。調整くは内面が厚く、外に開く部分で薄くなる。器底の凹凸が目立つ。			高の指調整の上からナテ。	石灰粒を多量に含む	良	赤褐色	
43 18	第3号土層	高杯	①22.6	縁部の口縁部。外縁は下がる。			口縁部はヨコナテ、胴部は縁部のヘラ磨き。上面に丹塗りが施される。	砂粒を多く含む	良	赤褐色	
44 18	第3号土層	甕	①18.6(口) ②22.3 ③29.7	縁部の口縁部に短い縁部を有し、胴部は中央よりやや下に位置する。口縁部は丸くおさまる。口縁部は「く」の字状に丸くおさまる。厚みを有する。			口縁部はヨコナテ、外面はハナ目、内面は縁部の粗ナテ、胴部はナテ。	石灰粒を多量に含む	良	暗褐色 (内面黄褐色)	
45 18	第3号土層	甕	①15.2(口) ② 8.7(底) ③1.7 ④1.7	丸形を帯びた縁部に内返し、中央で短かく外反する口縁部を付す。口縁部は「く」の字状に外反し、肩部は丸くおさまる。胴部の付け根に凸部を有する。			口縁部は縁部、凸部はヨコナテ。 胴部外面はハナ目、内面はナテ。	石灰粒・砂粒を多量に含む	良	暗褐色	ほぼ完形
46 18	第3号土層	甕	①10.0(口) ② 5.2(底) ③2.8 ④ 3.4	胴部は短く開く。中央よりやや下に盛り上がる。口縁部は「く」の字状に開く。肩部は丸くおさまる。内面は縁部に4箇所の穿孔を連続して有する。			口縁部はヨコナテ、 胴部外面はヘラ磨き、内面はナテ。 口縁部は外面に丹塗りを施す。	砂粒を含む	良	赤褐色 (内面黄褐色)	ほぼ完形
47 18	第3号土層	甕	①15.7(口) ② 6.3(底) ③5.6 ④5.2	中央に最大径を有する丸い縁部に「く」の字状に外反する口縁部を付す。足部は丸くおさまる。内面には片側の縁部に4箇所の穿孔を連続して有する。			口縁部はヨコナテ、胴部外面はヘラ磨き、内面はナテ。胴部内面は指調整が残る。口縁部は縁部の 足に丹塗り。	砂粒を多量に含む	良	暗褐色	完形
48 18	第3号土層	甕	①16.4(口) ② 7.9(底) ③5.4 ④2.7	中央よりやや下で最大径を有する丸い縁部に「く」の字状に短かく外反する口縁部を付す。肩部は丸くおさまる。			口縁部は縁部は縁部、胴部外面はハナ目、内面はナテ。 胴部内面に指調整。	石灰粒・砂粒を多量に含む	良	暗褐色 (内面黄褐色)	口縁部の一部は欠損するがほぼ完形
49 18	第3号土層	甕	①25.5(口) ② 5.6(底) ③12.3	胴部は明確な縁をもたず平らに立ち上がり、短かく口縁部は明確な縁をもたず短かく外反する。肩部は丸くおさまる。			口縁部は縁部は縁部、胴部外面はハナ目、内面はナテ。 胴部内面に指調整。	石灰粒・砂粒を多量に含む	良	暗褐色 (内面黄褐色)	口縁部の一部は欠損するがほぼ完形
50 18	第3号土層	甕	①21.0	口縁部は内面に縁を作り、短かく外反する縁部は丸くおさまる。			口縁部はヨコナテ、胴部外面はハナ目、下半はその上からナテ、胴部内面は上位がハナ目の上からナテ、それ以下はヘラ調整。	石灰粒を多量に含む	良	黄褐色 一部黄褐色	
51 18	第3号土層	甕	①27.6 ②20.6	「く」の字状に開く部分に口縁部。			口縁部はヨコナテ、 胴部外面はハナ目、内面はナテ。	砂粒・石灰粒を多量に含む	良	黄白色	
52 18	第3号土層	甕	①27.0 ②0.4	「く」の字状に開く部分に口縁部。肩部はやや丸味を帯びる面をもつ。			口縁部はヨコナテ。	砂粒・石灰粒を多量に含む	良	茶褐色	
53 18	第3号土層	甕	①15.1 ②14.6	胴部の張り力は弱い。口縁部は「く」の字状に外反し、内面縁部に設ける部分はずかしく凹む。			口縁部はヨコナテ、胴部外面はハナ目、内面は口縁部下は指調整の上からナテ。以下はヘラ調整の上からナテ。	砂粒を多量に含む	良	黄褐色	

表1 出土土器観察一覧表(3)

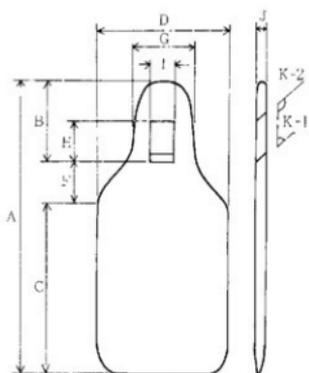
土器番号 器種番号	出土遺跡 (地区)	器種	直径(cm) 高さ(cm) 口径(口径) 口径(口径) 口径(口径)	形 態	手 法	胎土	焼成	色 調	備 考
54 19	第8号土庫	甕	①14.4(口) 7.0(底) ①16.5 ②11.6	口縁部は「く」の字状に強く外反する。胴部の最大径は中や下上に付随する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	石灰化・砂粒を多量に含む	良	緑褐色色	
55 19	第8号土庫	鉢	①19.4	内湾する口縁部をもつ。底径は丸くおこめる。	口縁部はヨコナテ。外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を含む	良	灰黄色色	
56 19	第8号土庫	甕	①16.0(口) 8.0(底) ②00.0 ③12.6	「く」の字状に外反する口縁部をもつ。胴部に凸を有す。胴部は中や下上に最大径を測る。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒・石灰化を多量に含むが中に含まれる砂粒は多少多量	良	灰黄色色	
57 19	第8号土庫	鉢	①20.0(口) 7.0(底) ②2.6	胴部の最大径が中より整直になる部分に「く」の字状に外反する短かい口縁部がついて傾斜している。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。底板の工具を押しつけた跡が胴部に残る。	砂粒を多量に含む	良	灰黄色色	
58 19	第8号土庫	甕	①15.6 ②15.0	胴上縁にかけてやや厚みを増し、「く」の字状に外反する口縁部は必ず中に凸を有す。底径は丸くおこめる。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目の上からナテ、内面はナテ。	濃砂粒を少量含む。底質	良	黒褐色色	
59 19	第8号土庫	甕	①15.5 ②17.4	「く」の字状に強く外反する口縁部。胴部の厚みは少ない。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面上部は胴の厚み調整の上からヨコナテ。下部はハテ調整。	濃砂粒を少量含む	良	灰黄色色(一部黒質)内面黒褐色	
60 19	第8号土庫	鉢	①17.0(口) 5.1(底) ②10.5 ③10.5	胴部が内湾し、口縁部をゆる。底径は丸くおこめる。	外面はハテ調整の上からナテ。内面は底板工具による傾斜のナテ。底部は底の傾斜がゆる。	砂粒・石灰化を多量に含む	良	緑褐色(一部灰黄色)	口縁部が一部欠損するがほぼ完整
61 19	第8号土庫	鉢	①20.1 ②9.0	胴りの少ない胴部に、強く外反し「く」の字状に近い口縁部を有す。	ナテ調整。内面の口縁部を有する部分はハテ調整の調整の上から胴の厚み調整	石灰化を多量に含む	良	黒色	
62 19	第8号土庫	甕	①18.5 ②16.6	「く」の字状の口縁部は中や内湾し、底部にセーラー凸を有する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。口縁部にゆるる部分に底板の工具を押しつけた跡が残る。	濃砂粒・石灰化を含む	良	緑褐色色	
63 19	第8号土庫	甕	①15.2(口) 7.0(底) ②11.4 ③17.8	胴部からの立ち上がりは向斜線をもつ。最大径は胴部中央より中上に位置し、口縁部は内湾し底をゆる「く」の字状に外反。外反して底径が丸くおこめる。	口縁部はヨコナテ。胴部外面は底板方向のナテ。内面は底部の厚み調整の上から胴部に付いてナテ。	石灰化を多量に含む	良	灰黄色色	
64 19	第8号土庫	甕	①21.7	「く」の字状に外反する口縁部。底部にかけて厚みを測る。	口縁部はヨコナテ。外面はハケ目、内面はナテ。胴部	砂粒・石灰化を含む	良	緑褐色色	外面に底板質
65 19	第8号土庫	甕	①19.8	「く」の字状に外反する口縁部。底径は丸くおこめる。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	石灰化を多量に含む	良	灰黄色色(内面胴部灰黄色)	
66 19	第8号土庫	甕	①15.3	口縁部は強く「く」の字状に外反する。内面は底板質。	ナテ調整。内面は底板質。	濃砂粒・少量の石灰化を含む	良	暗褐色色(内面灰黄色)	
67 19	第8号土庫	鉢	①18.7	ほとんど張りのない胴部に上「く」の字状に近い短かい口縁部を有す。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	濃砂粒を含む	良	灰黄色色	
68 19	第8号土庫	鉢	①15.5	傾斜をもつ。底部にかけて厚みを増す。	ナテ調整。外面は胴縁近くには傾斜の工具による調整跡が残る。	砂粒・石灰化を多量に含む	良	黄褐色色	
69 19	第8号土庫	甕	①13.8	「く」の字状に外反する口縁部。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を多量に含む	良	淡褐色色	
70 19	第8号土庫	鉢	①14.9(口) 5.0(底)	胴部から大きく立ち、内湾して口縁部を有す。底径は丸くおこめる。	ナテ調整。	砂粒を多量に含む	良	黄白色	完整
71 19	第8号土庫	甕	①15.2(口) 7.0(底) ②16.2 ③16.2	最大径は中位より中や下に位置し、口縁部にかけて重直に成りくる。口縁部は強く「く」の字状に外反する。底径は丸い。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。底部は底調整	砂粒を多量に含む	良	白褐色	
72 19	第8号土庫	甕	①23.4 ②20.3	口縁部は強く外反し、底部に中央が凸。胴部は中や下の最大径を測る。口縁部は強く外反し、外湾し底径を測る。	外面はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面は底調整の上から胴部の厚み調整	砂粒を多量に含む	良	灰黄色色	外面に底板質
73 19	第8号土庫	甕	①24.5 ②23.5	口縁部は強く外反し、外湾し底径を測る。	外面はハケ目、内面は口縁部はハケ目と認められるが底径調整は悪い。胴部はナテ。	石灰化を多量に含む	良	暗褐色色	外面に底板質
74 19	第8号土庫	甕	①29.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部下一帯の三角凸を有する。	口縁部一帯部分までヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を含む	良	灰黄色色	外面に底板質
75 19	第8号土庫	甕	①27.9	口縁部は「く」の字状に外反し、胴部にかけて内湾する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を多量に含む	良	灰黄色色	
76 19	第8号土庫	甕	①7.8	中や下にかけて底板の底部。	外面はハケ目、内面は底板の工具を押しつけた跡が有るが底径の方向にゆるして調整が行う。	砂粒を多量に含む	良	灰黄色色	
77 19	第8号土庫	甕	①28.4	「く」の字状に外反する口縁部。底径は丸くおこめる。口縁部下面一帯の三角凸を有する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を含む	良	灰黄色色	
78 19	第8号土庫	甕	①25.9	「く」の字状に外反し、外湾する口縁部。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒を多量に含む	良	黒褐色色	外面に底、内面に底板質
79 19	第8号土庫	甕	①20.4 ②19.0	「く」の字状に外反する口縁部。最大径は口縁部付近に付随する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面はナテ。	砂粒・石灰化を多量に含む	良	茶褐色色	底径が若干付随する
80 19	第8号土庫	甕	①27.2	「く」の字状に外反する口縁部。内面に中や底質する。	口縁部はヨコナテ。胴部外面はハケ目、内面は底調整の上からナテ。	砂粒を含む	良	暗褐色色	外面に底板質

表1 出土土器観察一覧表(4)

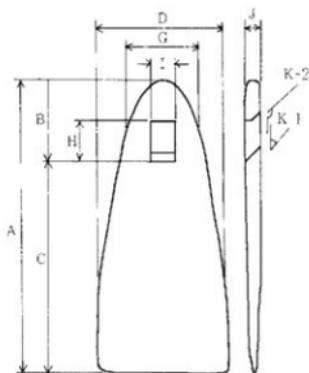
土器番号 埋蔵番号	出土遺構 (地区)	器種	注目点 ①口径(口径) ②(胴部)最大径 ③器高	形 態	手 法	胎 土	焼 成	色 調	備 考
81 30	E-8号土層	壺	①21.5 ②22.8	「く」の字状に外反する口縁部。 最大径は口縁部に位置する。	口縁部はヨコナダ。 胴部外反はハケ目、内反はナダ。	砂粒を多量に含む	良	灰褐色	
82 30	E-8号土層	壺	①21.3 ②21.5	口縁部は「く」の字状に外反する。内面の縁部部分に磨きもつ。	口縁部はヨコナダ。胴部外反はハケ目、内反はナダ。内面に縁部と胴部の縁部部分へハケ調整。	砂粒を多量に含む	良	灰褐色	
83 43	E-6-7	壺	①18.3	内湾気味に立ち上がる口縁部。	ヨコナダ。	砂粒を多量に含む	良	灰褐色	
84 43	E-6-7	壺	①17.5	垂直に立ち上がり外反、鋭角しきりに外に開く口縁部。	残存部分はヨコナダ。	砂粒を多量に含む	良	黒褐色 ~ 黒褐色(黒?)	器底磨削
85 43	E-6-7	壺	①10.4 ②4.3 ③7.3(器高)	外反する口縁部はわずかに内湾する。	口縁部はヨコナダ。胴部外反はハケ目、内反はナダ。	砂粒を含む	良	灰褐色	
86 43	E-7	壺	①8.4 ②8.3 ③8.3	丸底球形の胴部に近く立ち上がる口縁部を付す。口縁部・胴部はやや扁平。	口縁部はヨコナダ。 胴部外反はハケ目、内面は指調整の上からナダ。	砂粒、大粒の石炭を含む	良	赤褐色	
87 43	E-6-7	壺	①11.5 ②9.7 ③10.6	丸底球形の胴部に近似的に外反する裏側の縁部を付す。	口縁部はヨコナダ。 胴部外反はナダ。内面はヘリ削り。(上半は上へ下、下半は下へ)	砂粒・石炭粒を多量に含む	良	暗褐色	
88 43	E-6-7	壺	①7.5 ②7.6 ③5.5	やや尖り気味の丸底。外反する口縁部は外反に丸味を入れたる。	口縁部外反はナダ。内面はハケ目。 胴部外反はナダ。下半はハケ調整。 内面はヘリ削り。	砂粒を含む	良	黄褐色	
89 43	E-7	壺	①11.1 ②9.4 ③9.0(器高)	外反する口縁部は中位でやや膨脹し、端部は尖る。	不明。	砂粒を多量に含む	良	暗褐色	磨削
90 43	E-6-7	壺	①8.0	丸底。最大径を測る部分でやや尖り気味。外反する口縁部は近似的に開く。	口縁部外反はヨコナダ。内面はハケ目。胴部外反はハケ目、ナダ。ヘリ調整。胴部内反はヘリ削り。くびり部にも削り痕。	砂粒を含む	良	暗褐色 ~ 黒色	
91 43	E-6-7	注 冊 (埋蔵品)	①10.5 ②5.0	尖り部からの立ち上がりはわずかに内湾する。立ち上がりの高さは2.0cm。端部は尖り気味。受け部はやや上方に傾く伸びる。	胴部下側はヘリ削り、それ以外はナダ調整	砂粒を含む	良	暗褐色	
92 43	E-6-7	壺	①12.5 ②4.3	半球形をなす。端部は尖くおさまる。	ヘリ削りの上から片削り。外反は横溝状、種丸	陶粒を含む	良	黄褐色	
93 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①7.8 ②6.4	鋭角部に近い口縁部と近く外反する口縁部を付す。	粘土質を練って作るが手ぬねで種丸。口縁部は磨き足すナダ。胴部外反は縦の調整。底面も丸く。内面はナダ。	砂粒、天然の石炭を多量に含む	良	暗褐色	
94 43	E-6-7	壺	①9.2 ②4.5	半球形をなす。口縁部は鋭角が目立つ。端部は丸くおさまる。	手で丸く成形をなすあとへリ削りを行う。	砂粒を含む	やや不良	暗褐色	磨削
95 43	E-6-7	蓋 状	①17.7	口縁部の両端はあまり調整をなさず、端部にかけて近似的に磨きもつ。端部近くでやや膨脹する。	ヘリ削り。	砂粒・石炭粒を多量に含む	良	灰褐色	内面部分は磨削
96 43	E-7	注 冊 10.3	丸底でやや膨らみをもつ半球。端は大きく開く。	口縁部はヘリ削りの上からナダ。胴部外反は不明。底調整はナダ目状の調整。内面はヘリ削り。逆時針回し。	砂粒・石炭粒を多量に含む	良	灰褐色		
97 43	E-6-7	蓋 状	10.3	端は直線的に削り、磨削してさらに大きく開く。端部は丸くおさまる。	口縁部はハケ目。胴部外反はヘリ削りの上からナダ。胴部内反はヘリ削り。縁との縁部部にしぼり痕。磨きナダ。	砂粒を含む	良	暗褐色	
98 43	E-6-7	蓋 状	①11.5(器高)	中位でやや膨らみをもつと調整してさらに大きく開く。端部は丸くおさまる。	胴部外反はヘリ削りの上からナダ。内面はヘリ削り。しぼりが残る。胴部外反はナダ。内面はハケ目ナダ。	砂粒を含む	良	黄褐色	
99 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①約5.6 ②5.2 ③5.9	球形の胴部に外反する口縁部を付す。内面に磨きもつ。	口縁部はヨコナダ。 胴部外反のハケ目がわずかに残る。 胴部内面はナダ。	砂粒を含む	良	黄褐色	
100 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①5.7 ②5.7 ③4.9	中位より下に最大径を測る。器底は薄く深部は尖る。	ヘリ調整。内面の方がやや傾く押しつける	砂粒を含む	良	茶褐色	
101 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①5.0 ②6.7 ③5.4	基部は尖り気味。口縁部の立ち上がりはやや内湾する。	外反はヘリ調整。端部は軽いナダ。 内面は指調整と縦のヘリ調整。内面に縁部は長尺工具によるナダ。	砂粒を含む	良	暗褐色	磨削
102 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①4.8 ②4.0 ③5.2	100とほぼ同様の調整があるが、容量はやや狭くなり、内面口縁部に磨きもつ。	外反はヘリ調整と指の押し調整。 内面は指の押し調整。	砂粒を含む	良	黄褐色	磨削
103 43	F-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①5.7 ②5.2	不明瞭であるが端部をもつ。口縁部は内面に磨きもつて立ち上がる。	ヘリ調整と指調整。	砂粒を多量に含む	良	暗褐色	
104 43	D-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①4.8 ②5.3 ③5.5	球形の胴部に外反する口縁部がつく。	ヘリ調整と指調整。	砂粒を含む	良	灰褐色	
105 43	E-6-7	ミ ニ チュ ム 土 器	①4.1 ②2.7	口縁部は歪形で三角形に近い。	手で形作ったあと、器手のヘリ調整を施す	砂粒を含む	良	赤褐色	
106 44	H-3	壺	①10.7 ②10.0 ③10.6	丸底で底の磨った胴部に外反する口縁部を付す。	口縁部はヨコナダ。 胴部外反はハケ目、ヘリ削り。底部はナダ内面は指調整。	石炭粒を含む	良	暗褐色	
107 44	G-1	皿	①12.6(口) 7.7(底) ③3.3	口縁部は直線的に削り、端部は丸くおさまる。	口縁部は直線的に削り、端部は丸くおさまる。内面はヘリ削り。	高炭	良	暗褐色	

表1 出土土器観察一覧表(5)

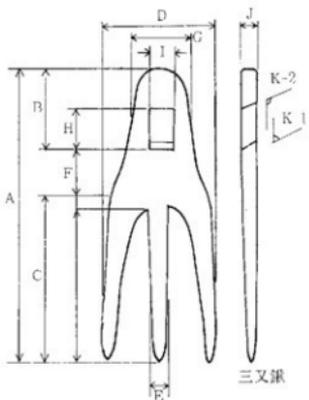
土器番号 発掘番号	出土遺構 (地区)	器種	高さ(cm) ①口縁(底) ②(胴部)最大径 ③底径	形 態	手 法	土 質	色 澤	備 考	
108 44	F - 1	甕	①13.5(口) 7.8(底) ② 3.4(底)	底部にかけてわずかに内湾する。 肩部は丸くおびる。	ナデ調整。	濃砂粒・石 炭粒を含む	黄	淡 褐色	
109 44	E - 2	埴	①12.5(口) 6.2(底) ② 4.4	底部はやや丸くおびる。肩部は丸くおびる。	ヘラナデ。内面はその上から削り出す。	濃砂粒を含む	黄	灰 色	肩部をわずかに 欠落するがほぼ 完整
110 44	G - 3	甕	① 9.4(口) 6.2(底) ② 2.6	肩壁は厚く、特に内面は底部・口縁部の境 が不明瞭。	ヘラナデ。外底に垂直削り痕。	濃砂粒を含む	黄	淡 灰色	
111 44	H - 6	甕	①11.3(口) 7.4(底) ② 2.6	底部は厚く、口縁部が深く引き出され、肩 部は丸い。	ヘラナデ。外底に粘土の巻き上げ痕。	細砂粒を含む	黄	淡 黄 褐色	
112 44	H - 3	埴 (灰黒色)	①13.2 10.4	受け部分の立ち上がりは肉眼的に内湾する。 立ち上がりの高さは1.1cm。受け部は 粘土層に引き出される。	外底部分はヘラ削り(時計回り) 他はナデ。	砂粒を含む	黄	淡 黄 褐色	
113 44	H - 3	埴 (灰黒色)	①11.6(口) 6.4(底) ② 4.0	受け部分の立ち上がりは肉眼的に内湾する。 立ち上がりの高さは0.9cm。受け部はや や上方に伸びる。	外底下部はヘラ削り(時計回り) 他はナデ。	濃砂粒を含む	黄	灰 色	
114 44	F - 2	小形埴	① 8.9(口) 4.2(底) ② 6.3	平面。内底部分に立ち上がり、肩部はまる くおびる。	外面は修整。内面はナデ。	砂粒を多量に 含む。大 粒の石英粒 も多少含む	黄	黄褐色(内 底灰黒色)	外面に灰。内面 に灰白物
115 44	H - 3	甕	①15.6	受け部分の口縁部は深く引き出されて中 内面に入る。	口縁部はモコナテ。 調整外底はハタ目。内面はナデ。	砂粒を多量に 含む。	黄	暗 褐色	外底に灰白物
116 44	H - 4	埴 (灰黒色)	①10.9	受け部分の立ち上がりは薄く、高さは 1.2cmを越える。肩部は丸い。受け部は 縁部が丸い。やや平な方向。	外底下部はヘラ削り。他はナデ。	砂粒を含む	黄	暗 灰色	
117 44	G - 4	埴 (黄褐色)	①13.2 ② 2.3	受け部に扁平なつまみをつける。 底部は扁平な方に厚くなる。	ナデ調整。粘土を巻いた跡が残る。	砂粒を含む	黄	暗 灰色	
118 44	H - 4	甕	① 7.0		ナデ調整。粘土を巻いた跡が残る。 外底にヘラ書き。	黄質	黄	暗 灰色	
119 44	H - 6	高台付 甕?	① 7.3 (高台径)	高台は縁部が丸い。やや内湾に入る。	不明。	黄質	黄	淡 褐色	器底破綻
120 44	G - 4	高台付 甕 (高台径)	① 8.5 (高台径)	高台は外側に開き、内面は高台の縁部が 縁部で接がつく。	ヘラナデ。外底中央は肉眼的に調整の上から ナデ。高台内面は削り出す。	黄質	黄	淡 褐色	
121 44	G - 4	高台付 甕	①14.4(口) 8.7(高台) ② 3.3	口縁部は深く引き出される。高台は外側に 開き、縁部は内外面とも肉眼的で接がつく。	外底外周にヘラ削り。内面口縁部はヘラ ナテ。他はナデ。 高台はヘラナテ。	砂粒・石英 粒を含む	黄	淡 黄 褐色	
122 44	G - 4	埴	①14.1(口) 7.8(底) ② 3.4	平面に開き、肩部はわずかに肥厚する。	ナデ調整。外底に粘土を巻いた跡が残る。	砂粒を少量 含む	黄	暗 褐色	
123 44	G - 4	甕	①17.3(口) 13.9(底) ② 2.1	肩部は丸くおびる。	外底ヘラ削りの上からナデ。外底はヘラ削 調整。粘土を含む土層の残存。内面は縁部が モコナテ。底部は縁部部に肉眼的に調整。その 上からナデ。	黄質	黄	灰 色	
124 44	G - 2	甕 (高台)	①11.1 (高台)	体部は肉眼的に外上方に伸びる。	内面に草花文を刻す。内外面に修整。	白色を少し 黒色炭粒を 少量含む	黄	灰 緑 色	
125 44	F - 6	甕 (白)	①17.3	口縁部は丸くおびる。 外底が丸くおびる。肩部は丸い。	内面に修整。 外底面に修整する。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	灰 白色	
126 44	H - 4	甕 (白)	①17.8	口縁部は丸くおびる。 内面にやや肥厚する。	内外面に修整する。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	淡 灰色	
127 44	E - 6	甕 (白)	①15.1	口縁部は丸くおびる。	内面全面と外底縁部中央まで修整する。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	灰 白色	
128 44	G - 2	甕 (高台)	① 6.0 (高台)	足込みに流線状の浅い段をもつ。 高台は比較的高く寛い。	内面と外面高台部分で修整。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	白 色	
129 44	G - 2	甕 (白)	① 6.9 (高台)	足込みに流線状の浅い段をもつ。 高台は比較的高く寛い。	内面と外面高台部分で修整。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	白 色	
130 44	E - 6	甕 (白)	① 4.5 (高台)	足込みに流線状の浅い段をもつ。 高台は比較的高く寛い。	内面と外面高台部分で修整。 内外面ともにナデ書き文を施す。	白色を少し 炭色炭粒を 少量含む	黄	灰 緑 色	
131 44	H - 6	甕 (高台)	① 4.9(高台)	わずかに上げ幅を越える。	内面にナデ書き文。 内面に修整する。	黄白粒を少し 黒色炭粒を 少量含む	黄	淡 褐色	
132 44	H - 6	甕 (高台)	① 6.0 (高台)	口縁部をなし、中央部に径3cmの円孔を有 す。	外底は肉眼的に調整が施され、縦方向の段を有 す。	大粒の石英 粒を多量に 含む	黄	灰 褐色 土 質 色	
133 44	D - 3	小形 土器	① 6.1(口) 3.4(底) ② 5.6 ③ 5.6	やや丸くおびる。口縁部は内面に不明 瞭な段をもち外底する。	細(ヘラ)調整によるナデ調整。	大粒の石英 粒を多量に 含む	黄	暗 褐色 土 質 色	
134 44	F - 6	支脚	① 4.2(高台) ② 0.4(高台) ③ 8.6	高台が立ち上がり、肩部は丸くおびる。 横断面は楕円形に近い。	楕(ヘラ)調整によるナデ調整。 (器底部分のたのかけ目の調整部分はわず かである)	砂粒・石英 粒を多量に 含む	黄	淡 黄 褐色	



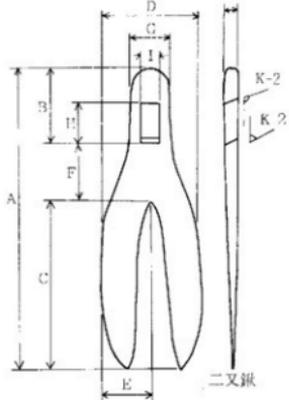
平板1



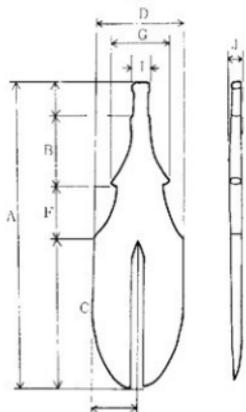
平板2



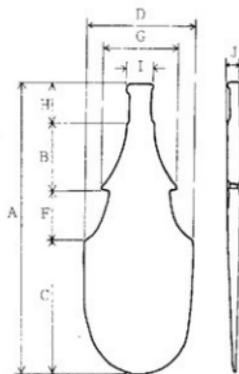
三叉鉗



二叉鉗



ナスビ形木製品1



ナスビ形木製品2

第83図 木製品計測区分(1)



表4 三又鉄

No	種	区	図番	出土地点	形状	寸法											水取り	時期	備考	
						全長 A (mm)	胴部長 B (mm)	刀部長 C (mm)	刀部巾 D (mm)	刃 E (mm)	葉部長 F (mm)	葉部巾 G (mm)	柄孔長 H (mm)	柄孔巾 I (mm)	最大厚 J (mm)	重 K-1				角 K-2
267			27	(G-3) 第3号土壌	カシ	16.9	—	—	—	—	—	3.8	4.05	2.0+	3.7	67.5*	柱目	弥生時代 前期後半	柄孔部分のみ残存する。復元図は第3号土壌出土のNo.15に類似すると思われる。	
16			27	(G-3) 第3号土壌 下	カシ	18.75+	9.45	3.85+	17.0+	2.7	—	16.0	4.5	3.4	3.7	75*	102.5*	*		
15			27	(G-3) 第3号土壌 上	カシ	11.0	11.6	14.8	12.4	2.33	5.3	12.1	3.15	2.4	2.85	61*	—	*		
				(G-3) 第3号土壌 上	カシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	*		
				(G-3) 第3号土壌 下	カシ	10.7+	—	—	—	—	—	—	—	—	2.40+	—	—	*		
				(E-F-0) 第7号土壌	カシ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	*		
130			45	E-1 V 層 下	カシ	30.5+	12.5	9.6+	—	—	8.4+	4.8+	(6.5)	(3.5)	1.6	60*	179.4*	*		
294			45	F-0 V 層 下	カシ	35.1+	10.5+	—	2.8+	—	31.8+	5.5+	(7.6)	—	3.5	1.5	—	131.5*	*	
				F-0 V 層 下	カシ	25.7+	—	13.7+	—	(6.0)	—	—	—	—	0.9	—	—	—	*	
295			46	F-1 V 層 下	カシ	37.04+	7.0+	17.5+	6.0+	(2.3)	12.3	2.75+	(6.5)	—	1.6	(39.5)*	—	*		
				F-2 V 層 下	カシ	34.4+	—	21.8+	—	(3.0)	(11.6)	—	—	—	2.85	—	—	*		
				E-6-7 V 層	カシ	35.9+	—	8.0+	—	3.3	7.8	—	—	—	2.1	—	—	*		
					カシ	22.7+	5.0	9.0	8.7+	5.6+	(3.0)	2.68+	4.85+	1.43+	2.13	48*	—	*		
93			49		カシ	34.1+	—	34.1+	—	2.0	—	—	—	—	2.0	—	—	*		
149			53	H-0	カシ	41.34+	—	28.0	16.9	2.2	31.44+	—	—	—	—	—	—	*		
324			54		カシ	44.54+	7.9+	18.3+	—	3.14+	18.4	—	2.87+	3.24+	1.1	61*	—	*		
					カシ	41.4+	—	22.5+	—	2.85+	—	—	—	—	1.85	—	—	*		
				D-3 V 層 下	カシ	—	—	32.1+	—	2.9	—	—	—	—	1.5	—	—	*		
				F-2 V 層 下	カシ	32.4+	18.4	2.8+	—	—	10.9	8.8	8.2	3.7	1.65	38.5*	129.5*	*		
122			46	F-3 V 層	カシ	60.4	17.1	28.7	9.8+	3.1	14.8	8.1+	5.75	3.8	1.9	49*	142*	*		
				H-2 V 層	カシ	33.3+	—	—	2.2	—	—	—	—	—	1.2	—	—	*		
					カシ	34.0+	—	—	2.3	—	—	—	—	—	1.9+	—	—	*		
309			52		カシ	33.3+	—	24.5	3.5+	(24.0)	2.8	8.8+	—	—	1.55	—	—	*		
					カシ	34.6+	7.0	—	—	—	—	—	—	—	1.9	43*	—	*		
				H-3 V層	カシ	27.0+	13.0	10.0+	3.5+	—	2.7	8.5	7.5	5.5	3.5	2.2	32.7*	147.6*	*	

表5 二又鉄 (1)

No	種	区	図番	出土地点	形状	寸法											水取り	時期	備考	
						全長 A (mm)	胴部長 B (mm)	刀部長 C (mm)	刀部巾 D (mm)	刃 E (mm)	葉部長 F (mm)	葉部巾 G (mm)	柄孔長 H (mm)	柄孔巾 I (mm)	最大厚 J (mm)	重 K-1				角 K-2
141			51	F-1 V層	カシ	50.4	3.8	36.4+	16.5	8.1	19.7+	7.5	5.5	3.5	1.8	—	147*	柱目	弥生時代 前期	刃部一部欠損。
144			45	E-3 V 層 下	カシ	58.84+	2.48	29.8	14.6	8.0	8.2	9.1	6.0	3.68	1.6	36*	126*	柱目	弥生時代 前期	刃部小巾8.45cm、葉部内周縁部はくさばりにゆがみ取らねばならない。
145			53	F-3 V層	カシ	27.34+	11.2	—	4.5+	—	8.6	4.6	3.4	1.9	48*	122.5*	柱目	弥生時代	残存(写図欠損)	
82			45	E-6-7 V 層	カシ	67.74+	2.3	27.3	(22.2)	11.1	1.1	8.4+	2.5+	1.8	40.5*	—	—	*		
79			49	F-1 V 層 下	カシ	39.45	14.8	22.0+	(16.2)	8.35	4.1	6.2	5.8	2.9	7.8	27*	137*	柱目	古墳時代	刃部を欠損する。
81			39		カシ	32.54+	—	32.54+	—	7.6	—	—	—	—	1.2	—	—	*		
281			39		カシ	35.2+	—	31.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	*		
					カシ	14.8+	—	14.8+	5.0	—	—	—	—	—	1.15	—	—	*		
77			46		カシ	32.56+	—	16.6+	—	8.2	—	—	—	—	1.7	—	—	*		
83			38		カシ	29.1+	2.7	22.9+	8.4+	7.0	9.9	2.0	2.1	2.7+	1.1	61.5*	—	*		
					カシ	13.84+	—	13.84+	—	—	—	2.0+	—	—	1.5+	—	—	*		
84			40		カシ	—	2.0	5.7+	8.5+	6.6	11.8	—	—	—	2.7	1.3	26*	—	*	
305			52	H-6	カシ	34.5	7.5+	31.5+	7.3+	2.3	31.8	2.5+	2.0+	—	2.65	60*	—	*		
143			51		カシ	39.6	8.4	21.9	7.9+	7.9+	9.3	2.1+	4.3	(3.4)	1.5	68.5*	133.0*	柱目	No.32に類似。	
306			52		カシ	41.3+	8.5+	22.2+	8.8+	8.8	10.5+	2.6+	4.47+	2.0+	1.25	86.5*	—	*		
305			52		カシ	30.6	—	30.5	8.2+	8.2	10.1	—	—	—	1.01	—	—	*		
307			52		カシ	33.0+	—	16.3+	—	7.5+	6.7	—	—	—	1.6	—	—	*		
304			52		カシ	25.8+	3.35	(7.5)	(11.6)	5.8	4.95	5.3+	3.35+	3.35	1.45	27*	—	柱目	刃部は外縁部が欠損する。残存状態は極めて悪く、刃部形状は磨削のため不明である。	
311			53		カシ	38.8+	20.1+	15.0+	7.3+	7.3	11.3+	3.5+	5.0+	1.6	1.6	50*	—	*		

表5 二又継 (2)

No	種	国	区	出土地点	樹種	法						継					水取り	時期	備考
						全長 A (cm)	胴部長 B (cm)	刃部長 C (cm)	刃部巾 D (cm)	刃巾 E (cm)	基部長 F (cm)	胴部巾 G (cm)	胴孔径 H (cm)	胴孔巾 I (cm)	胴孔深 J (cm)	最大厚 K-1			
312	54	B-6	ナシ	30.4+ A	6.4+ B	24.6+ C	13.8+ D	7.1+ E	5.2+ F	—	3.6 G	11.0+ H	1.0 I	1.55 J	40° K-1	132° K-2	証目	—	
301	51	B-6・7	*	42.3+ A	8.5+ B	26.1+ C	15.9+ D	7.75 E	8.8 F	15.6 G	4.1+ H	2.63 I	1.55 J	40° K-1	— K-2	—	—	刃部縁が平ら。	
310	53	G-2 V 帯	*	41.4+ A	7.8 B	28.6 C	9.7+ D	9.7 E	9.0 F	7.4+ G	—	—	1.6 H	—	130° K-1	— K-2	証目	—	
302	52	G-2 V 帯	*	33.1+ A	—	—	7.65+ D	—	—	—	—	—	0.9 H	—	—	—	証目	奈良時代 — 平安時代	
142	第5区	52	G-4 V 帯	ナシ	30.5+ A	6.65+ B	21.5+ C	—	—	11.35 F	—	—	—	1.5 J	—	138.5° K-1	証目	残存片。刃部は欠損が著しい。	

表6 ナスピ形木製品

No	種	国	区	出土地点	樹種	法						継					水取り	時期	備考	
						全長 A (cm)	B (cm)	C (cm)	D (cm)	E (cm)	F (cm)	G (cm)	H (cm)	I (cm)	J (cm)	K-1				K-2
139	第5区	50	G-1 V 帯	ナシ	45.45 (48)	18.6 (18)	—	7.7 (20.25)	19.2	9.15	11.55 (12.15)	—	2.25	1.2	—	—	証目	奈良時代末 — 平安時代初	刃部3.5cm 深部は数珠により既出。明確な遺新痕を待たない。	
110	第5区	50	H-1 V 帯	*	26.8+ A	7.0 B	9.4+ C	—	7.4 E	9.8 F	4.4 G	2.3 H	1.15 I	—	—	—	—	—	二又継。残存部は全体的に欠。	
138	第5区	50	H-2 V 帯	*	37.3+ A	10.5 B	17.85 C	16.5 D	17.35 E	7.95 F	2.6+ G	2.7 H	1.65 I	—	—	—	—	—	(奈良時代) 後期 → 古墳時代	胴部縁は切り込みが深い。

表7 その他の又継

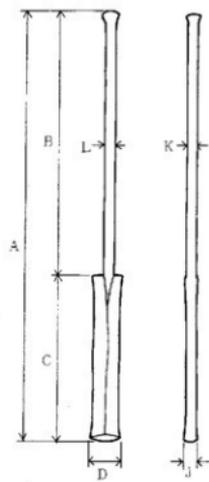
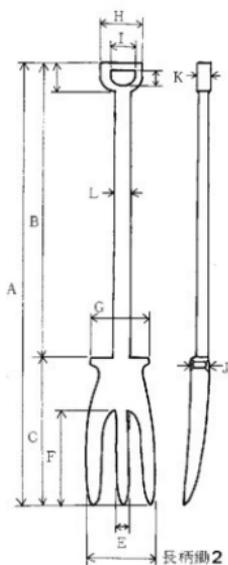
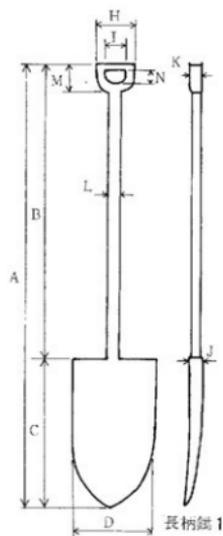
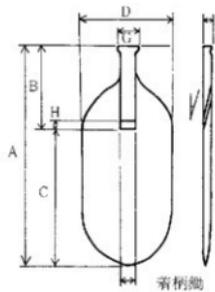
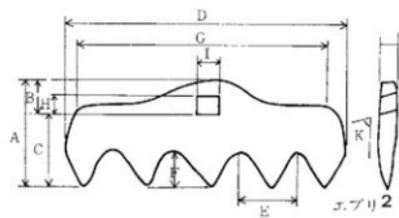
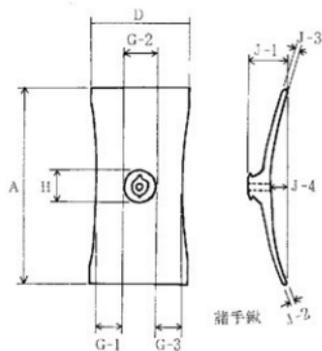
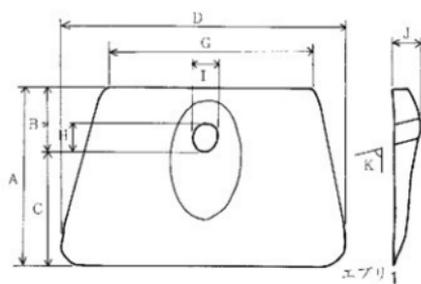
No	種	国	区	出土地点	樹種	法						継					水取り	時期	備考
						全長 A (cm)	胴部長 B (cm)	刃部長 C (cm)	刃部巾 D (cm)	刃巾 E (cm)	基部長 F (cm)	胴部巾 G (cm)	胴孔径 H (cm)	胴孔巾 I (cm)	胴孔深 J (cm)	最大厚 K-1			
12	第2区	28	(G-3) 第3号上層 下層	ナシ ノキ	25.7	9.7	12.9	(27.4)	2.3-3.2	3.6	25.4	3.3	3.9	4.45	85.5°	88.0°	証目	奈良時代 前期後半	—
			(G-3) 第3号上層 下層	ナシ	19.0	—	—	—	4.0	—	—	—	—	—	—	—	証目	奈良時代 前期後半	刃部のみ残存する。刃厚は1.9cmを割り、刃基部に数珠を挿している。先端部は断面厚9.9cmの丸形を呈し、使用による磨耗の観察される。
99	第5区	40	B-6・7 V 帯	ナシ	45.7+ A	2.2+ B	5.6+ C	8.1 D	6.7-1.6 E	8.3 F	2.1+ G	3.0 H	1.1 I	53.0° J	—	—	証目	古墳時代 (5C前期)	又継と思われる。アノカ。
121	第5区	46	F-1 V 帯 下	ナシ	45.5+ A	9.8 B	24.5+ C	17.4 D	2.2 E	6.2 F	7.9 G	5.8 H	3.1 I	2.05 J	53° K-1	125° K-2	証目	奈良時代 後期後半	二又継。

表8 不明継

No	種	国	区	出土地点	樹種	法						継					水取り	時期	備考	
						全長 A (cm)	胴部長 B (cm)	刃部長 C (cm)	刃部巾 D (cm)	刃巾 E (cm)	基部長 F (cm)	胴部巾 G (cm)	胴孔径 H (cm)	胴孔巾 I (cm)	胴孔深 J (cm)	最大厚 K-1				管 径 角 K-2
146	第2区	53	F-1 V 帯 下	ナシ	36.4+ A	20.4+ B	—	—	—	—	9.1 G	4.0 H	2.0 I	—	125.0° K-1	— K-2	証目	奈良時代 後期後半	先端は刃厚約0.5cm。胴孔は1.8cm。胴部が残存するのみ。	
83	第7区	47	G-1 V 帯 下	ナシ	9.5+ A	9.5+ B	—	—	—	—	7.5 G	—	3.15 H	1.6 I	—	135.5° K-1	— K-2	証目	—	—
152	第3区	46	B-6	ナシ	49.3+ A	—	—	—	—	—	6.8 F	4.4+ G	3.5 H	2.0 I	—	114.5° K-1	— K-2	証目	—	残存が残存するのみ。
			F-2 V 帯	ナシ	42.0+ A	5.9+ B	29.0 C	3.4 D	—	6.1 F	—	—	—	—	—	—	—	証目	奈良時代 —	二又継残片?
			G-3 V 帯	ナシ	9.5+ A	9.5+ B	—	—	—	—	7.45 F	4.3+ G	3.0 H	1.6 I	—	113° K-1	— K-2	証目	—	—
			G-3 V 帯	ナシ	11.1+ A	—	—	—	—	—	—	3.7 G	1.7 H	1.8 I	64° K-1	— K-2	証目	—	—	
			B-6	ナシ	12.0+ A	—	—	—	—	—	—	—	—	1.2 H	—	—	証目	—	—	
162	第6区	40	F-6・7 V 帯	ナシ	3.8+ A	11.1 B	—	—	—	—	5.7+ F	5.65 G	2.8 H	2.4 I	48° K-1	61° K-2	証目	—	—	
161	第6区	40	B-6	ナシ	32.3 A	—	25+ B	3.5 C	—	—	—	—	—	1.6 H	—	—	証目	—	—	

表9 若新継

No	種	国	区	出土地点	樹種	法						継					水取り	時期	備考
						全長 A (cm)	胴部長 B (cm)	刃部長 C (cm)	刃部巾 D (cm)	刃巾 E (cm)	基部長 F (cm)	胴部巾 G (cm)	胴孔径 H (cm)	胴孔巾 I (cm)	胴孔深 J (cm)	最大厚 K-1			
20	第2区	28	(G-3) 第3号上層 下層	ナシ	29.7+ A	16.7 B	13.0+ C	9.85 D	—	—	—	—	1.4 H	—	—	—	証目	奈良時代 前期後半	体部に3.4×1.5cmと3.8×1.0cmの長方形孔がある。墨田区蓮花池出土品に類似。
19	第2区	28	ナシ	19.9	8.05	11.35	12.5	3.7+ E	3.4 F	2.6 G	—	—	1.05 H	26.0° I	— K-1	— K-2	証目	—	刃部磨耗
21	第2区	28	(F-2) 第4号土層	ナシ	30.5	13.1	17.4	17.8 D	2.1 E	1.15 F	1.7 G	1.45 H	6.0° I	—	—	—	証目	奈良時代 前期後半?	磨耗面に陥没点のためと思われる水痕跡が打ち込まれている。中央に円孔。その両側に方形小孔を2つける。
19	第5区	44	F-0 V 帯 下	ナシ	25.5	—	19.6 C	14.6+ D	—	—	2.9 G	3.15 H	0.7 I	30° K-1	— K-2	証目	奈良時代 後期後半?	両面下部縁及び刃部縁下に方形の小孔を有す。刃部は磨耗が著しい。	
			B-5	ナシ	20.5+ A	—	—	10.7+ D	—	—	—	—	0.65 H	—	—	証目	奈良時代 後期	F-0 V 帯下の遺物に類似の形。	



第84図 木器計測区分(2)



表13 大足杖木製品(1)

No.	種別	材種	出土地点	器種	法										寸法 (cm)	本取	時期	備考
					全長	A	B-1	B-2	体部幅	C	D	E-1	E-2	F-1				
187	竊取品	61	G-1 V層	ス ㄱ		43.7	7.4	5.8	30.5	7.4	7.05	4.75± $\alpha$	5.06	5.3	1.3	ナナメ	奈良時代末 平安時代 初期	最上方板の断面下部で埋部下に2.5mm $\times$ 3.9mmの凹のV字状の痕を認め、一方の縁部縁近くには凹の横の溝を認める。
183	竊取品	61		ヒノキ	29.35	2.3	6.35	19.70	6.1	5.7	5.6	—	—	0.8-0.9	板目			
182	竊取品	61		ヒノキ	26.6	2.1	3.3	31.2	6.1	5.8	5.7	(5.2) (5.4)	(5.55) (5.4)	0.7-1.0	*		断面に多数の板目方向の釘によると思われる凹痕があり、表面割れが4角、釘の痕跡がある。釘は2段に打込まれる。	
174	竊取品	58	G-2 V層	ス ㄱ	39.35	5.1	5.1	39.35	7.8	2.9	3.3	2.6	2.4	2.0	*		体部と組み合せ部との境には、明確な段差を有す。先端部は円形の突起部をつくり出す。	
331		60			42.5	0.1	8.45	24.95	6.7	5.2± $\alpha$	4.85± $\alpha$	—	—	1.5	*		先端部とともに側面縁からJ字状に削られる。	
176	竊取品	62	G-3 V層	*	31.2	4.9	4.3	22.1	5.8	3.4	2.5	—	—	1.2	*		断面である。埋部下一端に径2.0mmの孔が認められている。先端部はなく、端部は三角形状に削り取らる。体部縁に多数の溝痕がある。	
			H-1 V層	モ 1	18.3	2.3	—	16.0	5.35	3.55	—	—	—	1.3	ナナメ		断面に側面縁からJ字状に削り込み、体部との境に明確な段差をつくる。他方端部には、明確な組み合せ部は存在せず、ナナメに削り込まれているのみである。	
333		56		ス ㄱ	40.2	6.5	6.5	27.2	8.4	7.2	5.8	4.8	4.3	1.7	板目		最上方の板目の先端部には、ともに埋部縁から凹のV字状の痕跡を認め、組み合せ部をつくる。片方の組み合せ部は手削している。	
336		60		モ 1	34.8	7.5	6.7	20.6	9.7	5.5	7.9	4.8	7.3	1.6	ナナメ		本末は、埋部縁下にJ字状に削り込みV字の痕跡を認め、組み合せ部をつくりだしていると思われるが、痕跡は片側縁部が欠失しており、形状をとも定めない。	
				ス ㄱ	40.5	6.5	5.1± $\alpha$	28.9± $\alpha$	8.0	5.15	5.3	—	—	2.5	*		一方の埋部縁の側面にJ字状に削り込まれる。	
181	竊取品	59		*	45.6	8.0	10.0	27.6	8.3	3.8	2.9± $\alpha$	2.6	2.6	—			埋部から組み合せ部にかけて、なだらかで明確な凹みで欠失している。	
343		65		*	42.8± $\alpha$	6.0	7.3	29.5	8.8	8.3	4.4	6.7	—	1.0	板目		一方の先端部に埋部縁からV字状の痕跡を認め、組み合せ部をつくるが、他部には欠失しており、詳細は不明。一方の埋部縁部は深く凹み、凹みは2段、やや膨らみをおいて、縁、溝を認める。	
334		59		*	39.4	1.21	9.5	18.0	9.0	4.0	3.1	—	—	1.9	ナナメ		先端部は、ともに埋部縁から内側面にナナメに削り込み、側面縁は削られる。	
335		60		ヒノキ	49.43	5.5	6.1	37.88	7.7	4.6	4.8	3.2	4.7± $\alpha$	1.7	ナナメ		埋部縁埋部には、凹みの痕跡を認め、埋部縁には、埋部縁を認める。	
321		59	H-2 V層	ス ㄱ	43.4	7.25	5.3	30.35	11.7	11.5	6.1	9.65	—	1.95	ナナメ		表面に線状の凹みによると思われる溝痕を認める。一方の先端部は、埋部縁にV字状の痕跡が入り、他方先端部には埋部縁からJ字状に削り込みを認めている。片側縁中央部に大小2つの痕跡を認める。	
177	竊取品	58		*	48.35	14.6	14.15± $\alpha$	19.6± $\alpha$	13.6	4.0	3.2	3.5	2.4	1.75	板目		先端部は削り取らる。埋部縁から線状のナナメに削り込みを認め、先端部は突起状に削り取らる。	
326		60	E-1 V層		46.8	11.5	13.2	22.1	7.95	4.2	1.4± $\alpha$	3.3	3.1	3.5	*		両端は先端部に削り取らる。埋部縁に線状を認めるためと思われる溝痕を認め、体部は断面J字状を認める。	
			H-2 V層	モ 1	28.1	6.5	—	21.6	8.1	3.4	—	3.9	—	2.1-2.2	*		一方の埋部縁下には、埋部縁から線状の凹み、先端部は深く凹みを行うが、他端は凹みにJ字状の痕跡を加えるのみである。大足杖の木製品である。	
196	竊取品	58	B-6・7	ス ㄱ	36.5	8.6	11.0	16.7	8.1	3.0	3.5	—	—	1.4	*		断面ともに両側部を削らす。両側部からナナメに内側面に削り込みを認めるのみである。断面は埋部縁に線状の凹みである。	
178	竊取品				36.0± $\alpha$	6.2	7.1± $\alpha$	22.7	4.3	4.2	3.0	3.4	3.0	1.0	*		埋部縁の埋部縁に径3.0mm、厚1.5mmの凹のV字状の痕跡を認めて、組み合せ部をつくる。表面に多数の線状の凹みによると思われる溝痕がある。	
331		60									(4.3)	—	(3.2)				先端部は、長さ4.3cm、幅約60mm、厚さ1.35mmの平板の突起部を削り出されている。先端部は中途より欠失しており、詳細は不明。	
352		66	B-6	ス ㄱ	38.3	12.5	—	25.8	9.8	9.6	—	7.8	—	1.5	板目		断面に側面縁から削らす。一方の先端部は3.9cmに埋部縁から削り取らる埋部縁の凹み。先端部は突起状に削り取らる。	
337		62	A-6・7	シイ	43.3	12.4	11.1	11.1	6.45	2.9	1.5± $\alpha$	1.8	1.5± $\alpha$	1.25	*			
			試 葉		28.6	3.8	—	24.8	3.8± $\alpha$	1.1	—	—	—	0.7	*			

表13 大足杖木製品(2)

No.	品名	図号	用途	出上地点	形種	尺				寸				寸法		時期	備考
						A	B-1	B-2	C	体部巾D	区-1	区-2	F-1	F-2	最大径J		
130	湯洗筒	47	F-2	山形	レイ	45.9	9.2	9.5	37.2	6.5	3.8 (4.0)	4.4	1.9	2.5	1.8	ナメ	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
340		65			ス	31.1	7.6	8.1	21.1	6.4	3.4+α	2.0+α	-	-	1.35	*	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
394	湯洗筒	71	F-1	V	フ	41.8	6.5	6.8	28.5	2.7	2.1 (2.4)	2.3	1.7	2.0	1.2	真目	体部が厚く、端部はナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
300		60			ス	34.7+α	5.45	-	25.35	5.9	4.05	4.2+α	4.0	-	1.8	*	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
349		66			ス	43.0	6.35	7.7	28.95	9.3	2.4	2.2	1.2	1.8	1.3	真目	体部中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
248	湯洗筒					14.15+α	4.7	-	9.45+α	3.1	2.8	-	2.05	-	0.9	*	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
320		59			ビ	37.7+α	11.3	4.5+α	22.0	7.6	6.5	-	3.7	4.0+α	0.9		筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
338		62			ス	36.0+α	9.55	-	29.43	4.6	5.2	-	3.3	-	1.0		筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
329		60				34.8	4.6	-	30.4	4.4	2.45	-	2.35	-	1.3	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
339		62 (66)			ス	34.6	6.3	5.9	22.4	6.4	3.1	3.2	2.9	3.4	2.5	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
332		60	F	V	ス	33.4	5.7	5.0	25.7	3.1	3.0	2.0	2.7	1.5	1.2	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
186	湯洗筒	61				37.5	6.9	6.8	34.7	9.6	3.65 (3.9)	6.7	2.6	3.35	1.3	ナメ	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
341		64				45.0	9.35	-	35.65	7.7	7.4	-	5.8	-	1.5		筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
199	湯洗筒	63			ス	38.9	3.1	4.5	23.2	9.8	2.0	2.8	-	-	2.6	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
189	湯洗筒	61				41.15 (41.8)	10.2 (10.6)	9.9	32.2	5.8	2.8	2.55	-	-	1.3	ナメ	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
196	湯洗筒	61				31.8	2.6	1.0+α	28.1	2.7	1.8	1.5	-	-	1.4	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
198	湯洗筒	61			ス	43.1	7.9	7.5	27.75	10.2	6.8+α (6.2)	5.85	-	-	1.75	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
193	湯洗筒		H	3	ス	39.5+α	3.5	-	35.4+α	3.9+α	2.1+α	-	1.5+α	-	0.6	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
175	湯洗筒	58	H-3	V		40.7	4.5	6.2	32.0	10.6	4.3	2.05	3.25	2.5	1.8	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
176	湯洗筒	56				41.35	5.05	5.1	31.2	6.7 (7.0)	3.95	4.4	2.45	3.15	2.45	真目 (半目)	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
191	湯洗筒	62	G-1	V	ス	38.5+α	4.1	-	24.45	11.2	5.1	-	4.0	-	0.85	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。
195	湯洗筒	63			ビ	22.35	6.65	5.3	9.4	3.7 (7.5)	0.9 (1.8)	2.1 (2.9)	-	-	0.9	真目	筒中央部は、内周みにナメに削り込み、先端部は方形の溝を削り出す。体部には加工痕を彫削に成す。

表13 大足伏木製品 (3)

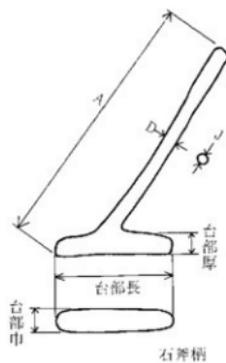
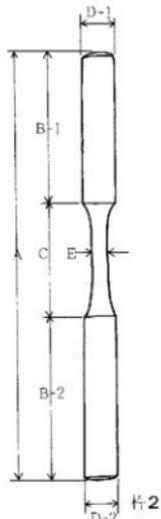
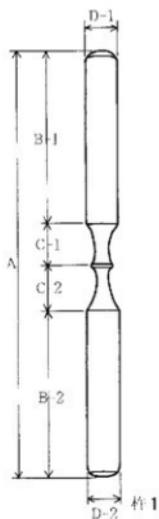
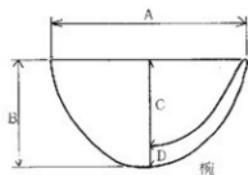
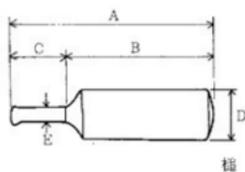
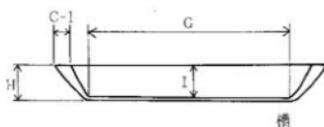
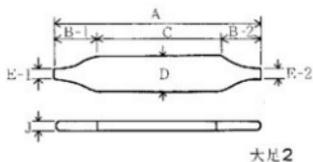
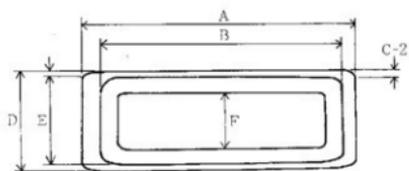
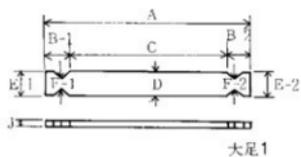
No	洋名	国産	出土地点	樹種	寸法 (mm)										木取り	時期	備考
					全長	A	B-1	B-2	C	体節長 D	E-1	E-2	F-1	F-2			
			真 珠		34.2±w	3.2	—	—	6.95	—	—	—	4.7	4.4±w	0.9	製材	文庫部は縦線部からL字状に切り込み部を脱、ほぞ状の突出部につくられる。他部は欠失している。
364	75	月-6			36.1	7.7	2.4±w	28.0	5.15	4.35±w (5.0)	—	—	3.8	—	2.45	製材	
173	第69回	58	G-1 V編	A 杉	37.6	4.5	3.1	28.0	8.75	3.35±w	4.1±w	2.43	3.0	1.2	製材	断面が方形で、表面に凹凸が認められる。	
340	62	B-6		サシ	20.5±w	4.5	—	16.0	8.0	3.5	—	3.05	—	2.05	製材		
			G-2 V編	サシ	24.0	—	—	—	6.1 (5.78)	—	—	—	—	—	2.1	製材時代末	断面が方形で、真珠部以下のおおむねV字状の小欠れをもっている。
314	第72回	68	H-1 V編	ヒノキ	46.8	7.0±w	10.1±w	29.3	2.8±w	2.33±w	3.05±w	2.0±w	2.5±w	—	1.8	製材	平安時代末
			H-2 V編	A 杉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	製材	大足と思われるが写真は欠失している。

表14 杵

No	洋名	国産	出土地点	樹種	寸法 (mm)										木取り	時期	備考
					全長	A	B	B	体節長 C	地節長 D	地節長 D	地節長 D	最大径 J				
128	第50回	48	(G-3) 第3号上層	カシ	70.3±w (72.2)±w	49.7	—	—	11.1±w (C.1±w)	9.4±w	—	7.2	—	—	3.6	製材	断面中央部にそろばん状の突出部があり、先端部に使用痕が見られ、先端部は円まる。
			(G-3) 第3号上層下	杉	17.0±w	17.0±w	—	—	—	—	—	8.5	—	—	—	芯材材	断面中央部のみ残存する。
			(G-3) 第3号上層		50.2±w	48.15	—	—	2.05±w	—	7.85±w	—	—	—	—	製材	断面中央部の縁に2条の凹溝を有し、断面先端部は凹溝を有す。断面先端部下に最大径を持つ。
369	36			杉	48.0	44.5	—	—	—	—	—	—	—	—	3.95±w	芯材材	断面中央部は円まるを有す。第4号上層部は断面に類似している。断面に地味が見られ、酸化している。断面は欠損しているが、そろばん状の突出部を持つものと推定される。
375	76	(H-3) 第3号上層			108.6±w	49.4	35.7	11.8	11.7	6.55	6.9	8.5	3.5	—	製材	断面中央に5.8(横)のそろばん状の突出部を持つ。先端部は凸面を有す。No55と類似する。	
55	第37回	37	(G-3) 第3号上層	杉	148.9	63.5	61.9	11.5	12.5	7.8	7.9	4.0	4.2X3.7	—	製材	断面中央部にそろばん状の突起を有し、断面に凹凸が認められる。断面は凸面を有す。No55と類似する。	
56	第31回		(F-2) 第4号上層	ヤブ	123.7	49.8	52.2	10.9	10.8	8.8	9.15	3.9	4.1	—	製材	断面中央部にそろばん状の突起を有し、断面に凹凸が認められる。断面は凸面を有す。断面は断面に2条の凹溝を持つ。	
315	56	A-6-7		サシ	38.8±w	26.0	—	—	—	—	11.65	—	—	4.5±w	芯材材	断面は凹面。	
388	43	E-6-7		ヤブ	39.3±w	20.2±w	—	—	—	—	8.3	—	—	—	製材	断面先端部は円まるし、断面に凹凸が認められる。	
285	43	V		ヤブ	45.2±w	31.0	—	12.2	—	—	8.2	—	—	3.1±w	芯材材	断面先端部は凹面を有す。断面と断面との境は不明瞭である。	
66	第47回			ヤブ	47.4±w	29.4±w	—	18.0±w	—	8.1X7.5	—	—	—	2.9±w	芯材材	断面は凹面を有し、断面と断面の境は不明瞭で、わずかな凹溝を有して連なる。	
87	第47回				43.6±w	34.0±w	—	9.6±w	—	7.9X6.35	—	—	—	3.2±w	芯材材	断面中央部より折れ、先端部は尖ったE-6-7形状と類似する。	
280	46				52.9±w	35.0	29.0	28.8±w	—	9.5	9.3	—	—	3.0±w	芯材材	断面先端部は凹面を有す。	
168	第87回	56	B-6		39.0	26.5±w	—	17.5±w	—	—	—	—	—	2.5±w	芯材材	断面は欠損が著しい。	
			G-3 V編	カシ	25.6±w	25.6±w	—	—	—	—	—	—	—	—	芯材材	断面先端部は凸面を有す。	
167	第65回			サシ	92.6	38.0	29.0	35.6	—	9.35	9.85	—	—	3.0	芯材材	断面先端部は凸面を有し、断面と断面の境は不明瞭で、わずかな凹溝を有す。	

表15 タテギネ・ヨコネチ (1)

No	洋名	国産	出土地点	樹種	寸法 (mm)										木取り	時期	備考
					全長	A	B	B	体節長 C	地節長 D-1	地節長 D-2	地節長 E					
12	第11回	25	(E-6) 第1号上層		47.3	—	23.2	6.7X6.9	—	4.5X3.6	製材	平安時代	短中製品。横線の折りは無い。横線部以下20mmに切り込んでいる。				
35	第30回	32	(G-3) 第3号上層	カシ	30.5	16.5	14.0	7.2	—	—	3.25	製材	平安時代	先端部に使用痕あり。先端部は凸面を有す。			
34	第26回	32	(G-3) 第3号上層	サシ	29.85	17.1	12.75	7.8X4.85	—	5.4X3.6	製材	平安時代	断面と断面の境に不明瞭な痕跡を有す。断面は八角形の断面を行い、断面と断面との境は不明瞭である。				
109	第76回		E-2 V編		42.6	22.2	20.4	5.8X5.5	—	3.4X3.7	芯材材	平安時代末	断面の部分のみ加工。断面は丸いまま使用。				
88	第47回		E-6-7 V	サシ	27.2±w	18.5	8.7±w	9.1	—	—	2.5	製材	平安時代末	断面中央部に使用痕あり。			
171	第67回	56	H-2 V編	カシ	42.65	21.5	21.15	5.5	—	—	3.5	+	平安時代末	断面中央部に使用痕あり。			



第85圖 木器計測区分(3)

表15 タテギネ・ヨコツチ (2)

No.	洋名	国産	出土地点	樹種	法 量 (cm)						木取り	時期	備 考	
					全長	幅	厚	寸						寸
								D-1	D-2	寸				
170	第97区	56	H-3 V層	サカキ	35.9	18.4	17.5	6.9	—	—	3.05	丸木	奈良時代(中)	墓室に使用順と見られる出物がある。塚部から掘部にかけて平定時代(中) 内堀内堀・小林立堀 両層部は「家」定国取り部上を覆す。
339	57	表	表	?	38.2	23.0	15.2	6.7	—	—	3.6	芯持材	塚部中央部に使用跡あり。掘部先端部は先定時代になっている。	

表16 有柄木製品

No.	洋名	国産	出土地点	樹種	法 量 (cm)								木取り	時期	備 考
					全長	幅	厚	寸	寸			寸			
									D	E	F				
6	第97区	56	(E-6・7)第1号土層	サカキ	98.7	73.9	24.8	13.4	5.7	2.85	3.8	芯持材	奈良時代前期後半	墓室には掘工痕が明確に見る。塚部連部は埋込あり(米倉埋込・小林立堀・塚部連部、1943.田原墓室の97区)見られる。	
69	第33区	32	(G-3)第3号土層	サカキ	109.7±α	66.7	43.0±α	7.8	3.5	4.0	3.8-4.0	柾目	奈良時代前期後半	覆板をなす。(塚中)	
73	第33区	36	(F-2)第5号土層	サカキ	56.2±α	7.8±α	49.9	8.0	1.9	2.6±α	2.6±α	柾目	奈良時代前期後半	覆板をなす。(塚中)	
136	第50区	49	F-2 V層下	サカキ	80.98±α	47.4	33.56	9.0	0.79-1.25	2.25	2.55-3.7	柾目	奈良時代前期後半	表面は板状を呈し、先頭部はコの字部にて成形して入り部部と作り出す。片側部は板部から成り出しており、なだらかな板状をなすのが特徴であるが、効力は片側部を付した自動的に表面部に定る。	
137	第50区	49	H-3 V層下	サカキ	83.25±α	66.95	16.3	5.2	2.1	2.9	3.5	柾目	奈良時代前期後半	覆板をなす。表面はしり出し、前面は三角部をなす。	
113	第50区	41	E-6・7 V層	サカキ	58.5	—	—	6.4±α	3.0	2.2-2.7	—	柾目	古墳時代(5世紀末)	ナメクサ穴を穿する内製品である。表面は片側部にて入り部部を作り出している。	
233	第57区	70	D-2 V層	サカキ	(58.7)	25.4	(30.3)	9.2±α	3.0	2.8	2.8	柾目	奈良時代前期後半	表面は片側部をナメクサ穴にて作り出し、入り部部となっている。用途不明。	

表17 柄 (1)

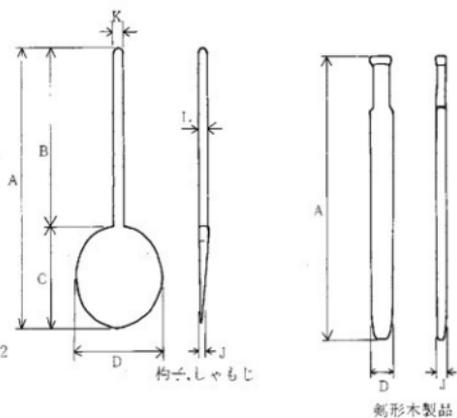
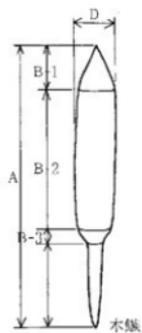
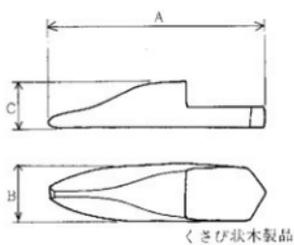
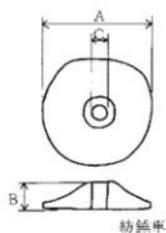
No.	洋名	国産	出土地点	樹種	法 量 (cm)				木取り	時期	備 考			
					全長	幅	厚	寸						
												寸		
11	第11区	26	(E-6・7)第1号土層	サカキ	278.6	3.0-3.1	—	—	芯持材	奈良時代前期後半	柄の半製品?。先頭部は125.6cmまで一面からのみ削り加工を施し、方角は先頭部に向かつて鋭角を削る。先頭部が9.2cmには、表面にも同様に先頭部方向へ削り加工が施されている。用途は不明である。			
5	第9区	26	(H-3)第5号土層	サカキ	7.7	2.2 (傾)	—	—	—	—	—	—	—	寸法は長さ12.15cm±α、幅0.6cm、厚さ2.6mmを計る。表面は板状を呈し、先頭部は丸く削り出している。用途は不明である。
42	第27区	33	(H-3)第5号土層	サカキ	12.9	3.1	2.6	—	—	—	—	—	—	寸法は長さ14.0cm、幅3.2cm、厚さ5.4cmを計る。表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り加工する。用途は不明である。
43	第27区	35	(G-3)第2号土層	サカキ	20.3±α	2.0	1.5	—	—	—	—	—	—	寸法は長さ15.7cm、幅0.6cm、厚さ3.0cmを計る。表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
72	第34区	36	第3号土層下層	サカキ	32.1±α	3.4 (傾)	—	—	—	—	—	—	—	先頭部はV字の切り込みがあり、表面には圧痕が認められる(く)の字部に類似する。鋭い刃によるものと思われる。
41	第37区	35	(G-3)第3号土層	サカキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石片の柄。柄の両部が削る寸法5.6cm、幅4.4cm、厚さは長さ17.6cm、幅4.4cm、厚さ3.0mmを計る。用途は不明である。
37	第37区	35	(G-3)第3号土層下層	サカキ	68.6±α	2.9-3.6	2.4-3.0	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
38	第37区	35	(G-3)第3号土層	サカキ	12.1±α	3.55-5.5	2.3-3.4	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
39	第37区	35	第3号土層	サカキ	17.1±α	3.8-3.8	2.9-3.2	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
71	第34区	36	(針葉樹)	サカキ	60.6±α	3.3-4.4	1.9-4.4	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
104	第66区	36	(G-3)第3号土層下層	サカキ	49.1±α	2.4	3.1	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
35	第66区	35	(G-3)第3号土層	サカキ	31.6	4.3-5.4	2.9-4.6	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
				サカキ	90.0	2.5 (傾)	—	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
98	第50区	49	E-6・7 V層	サカキ	5.5	2.35	1.0	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
2	第7区		(F-6・7)第1号土層	サカキ	52.4	5.5	4.2	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
374		76	E-0 V層	サカキ	72.0	3.2-3.6(傾)	—	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。
			F-1 V層下	サカキ	37.8	—	—	—	—	—	—	—	—	表面は板部を先頭部に向けて鋭く削り出している。用途は不明である。

表17 柄 (2)

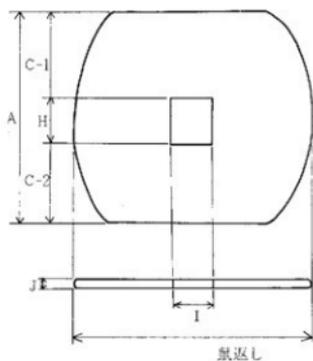
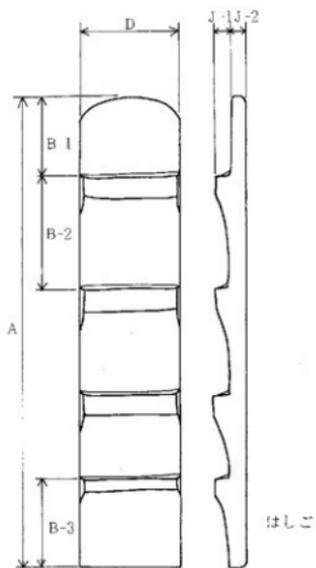
No	種	国	図	原	出土地点	形種	造 型 (cm)					木取り	時 期	備 考		
							全 長	A	B	山	J					
188	第58図	48	F-3	V	下	ナシ?	32.45	3.4	-2.2	3.4	-2.5	刺合	古	遺品	遺品下字の造り加工を施し、腹部のみが調整前の状態。先端部下3.1cmに長さ3.8cm、深さ0.7cmの十字の痕りをもっている。	
186	第68図	56	G-1	V	層	ユズリ?	21.2+α	4.0	2.8			忠持	古	遺品	初期長方形を呈す。表面は粗面磨きを施す。	
163	第68図	56	G-3	V	層	ナシ	44.6	2.2	2.2			横目	古	遺品	柄の基部を柄に結用している。先端は鋭く削り出す。	
165	第68図	56	H-1	V	層	ヤブツ?	24.8	2.55	-5.1	2.2	-2.5		横目	古	遺品	基部は十字に突出する。柄は中絶において(C)の形状に再現し、管装部には管装部は1cm、深さ2.3cm+αの方形の痕りを有し、基部を管装するものと思われる。腹部は短ずればと思われる痕りが認められる。横目?
300		49	H-2	V	層	ナシ	38.6+α	3.0	-2.25	2.8	-3.1		古	遺品	断面円形。表面は削り加工を施す。	
313	第127図	49	H-3	V	層	ナシ	50.8	2.4	-1.5	2.5	-0.9	忠持	古	遺品	基部は右方から断面取りを行い、基部より20cm付近から先端部にかけて十字痕りを持つ。先端部は断面取りを施す。管装部は管装部及び管装部は不明。横目?	
318		57				ナシ?	39.4+α	2.5	2.0(倍)			横目	古	遺品	断面は長方形。表面は粗面磨きを施す。	
317		57				ナシ?	39.4+α	2.5	2.0(倍)			横目	古	遺品	断面は長方形。表面は粗面磨きを施す。	
317		57				ナシ?	39.4+α	2.5	2.0(倍)			横目	古	遺品	断面は長方形。表面は粗面磨きを施す。	
317		57				ナシ?	39.4+α	2.5	2.0(倍)			横目	古	遺品	断面は長方形。表面は粗面磨きを施す。	
127	第56図		G-3	V	層	ナシ?	—	0.75	3.4			横目	古	遺品	柄、断面は長さ59.3cm、巾3.3cm-6.5cm、厚さ3.2cm-4.4cmを呈す。「十字」の痕り。	

表18 容器 樽 (1)

No	種	国	図	原	出土地点	形種	造 型 (cm)										木取り	時 期	備 考				
							全 長	A	B	C-1	C-2	全 高	D	E	F	G				器 高	H	I	
4	第8図	25	(E-6?)		第1号土壌		(31.0)	(25.3)	3.65	3.5	3.5	(31.8)	(19.7)	(9.0)	21.8	4.5+α	3.4+α	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。		
54	第31図	34					56.35	—	—	—	—	19.0	—	—	9.3	—	—	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。		
50	第30図	33					42.0	18.0+α	—	1.15	8.46	—	5.2+α	15.0+α	—	—	—	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。		
49	第30図	33					42.0	18.0+α	—	1.15	8.46	—	5.2+α	15.0+α	—	—	—	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。		
44	第38図	33	(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
46	第38図	31					ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横目	古	遺品	断面は欠失している。木取り断面の一方に断面円形の凹痕をもつ。
45	第38図		(G-3)		第3号土壌		ナシ	53.6	35.3	1.15	17.55	2.0	9.6+α	6.0+α	4.3	—	31.15	3.2	2.5	横			



剣形木製品



第86図 木器計測区分(4)

表18 容器 槽 (2)

No	種 別	材 質	出 入 口	出 入 口 部 寸	形 状	寸 法 (mm)										木 取 り	時 期	備 考
						A	B	C	1	C-2	全 高	E	F	G	底 高			
135	250円		D-3 V	下	スチ	計 測 不 可 解										縦正取り	明治時代 後期 ～ 戦前時代	裏面より、取付部の取手跡を認められ、 埋付のたかぶり部、僅少なり分ら ない。
236	高170円	71	G-2 V	上	シ	88.3	59.8	23.05 6.65	1.15±	13.3±	9.3±	8.75	53.75	16.8	3.4- 5.4	漆喰取 り	明治時代 末 ～ 戦前時代	背側部は欠失している。取手跡に磨耗を なし、漆喰は残りを行す。
			H-3 V	上		27.0±	15.5	—	0.8- 0.1	9.4±	—	—	—	7.5±	7.3	漆喰取 り	明治時代 初期	背側部は欠失している。背側はタテ方向のメ リによって欠損に調整する。
						27.0±	—	9.5	—	11.2±	—	—	—	9.5±	7.0	漆喰取 り	明治時代 初期	光線部に硝子状の欠損を持つ。残存状況 悪いため測定部は不明。
						43.3±	32.7	4.0- 2.3±	1.1±	10.1±	—	6.4	22.0	9.8	6.5	漆喰取 り	明治時代 初期	外形は窪み型を呈し、底面は平面を呈 す。底面厚は厚い。底面厚は方形の突出部を もつ。
						30.5±	14.2±	2.0	1.9	14±	8.3	12.0	8±	5.5	3.3	漆喰取 り	明治時代 初期	短縮部の一方向欠失する。
						94.5±	88.5	3.9	—	—	—	27.0	82.5	9.5	7.0	漆喰取 り	明治時代 初期	幅径2.0-2.5cm。底面及び背側部のみ 短縮部には平らな板状を呈し、側面に それぞれ2-3cmの凹溝を帯ずる。
250	高170円	70				13.5±	7.0±	(5.3)	0.75 0.3	14.3±	12.6	6.0	3.4±	6.4	2.9±	漆喰取 り	明治時代 初期	主軸方向側面に前面角の隅の隅の 取手を残していたものと思われる。残存状 態は不良。
			H-6 V	上	クリ	—	—	1.6	—	7.1±	—	—	—	—	4.8±	漆喰取 り	明治時代 初期	短縮部のみ残存した。側面中央に線をも つ。
			H-3 V	上	シ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	漆喰取 り	明治時代 初期	硝子に割傷しており、復元不可能。
			F-4 V	上		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	漆喰取 り	明治時代 初期	硝子に割傷しており、復元不可能。

表19 容器 桶・高環・蓋など

No	種 別	材 質	出 入 口	出 入 口 部 寸	形 状	寸 法 (mm)				木 取 り	時 期	備 考
						A	B	C	D			
9	高180円	25	高 環	(E-6-7) 第1号土環	ヤマダワ	—	7.45±	—	—	横木取 り	明治時代 前期	組合せ式高環の部材。器蓋には木環を塗布している 漆喰部には凹み部を呈しを塗布している。(E-6-7の 変形か)
10	高180円	25	高 環			15.4± (30.6)	6.9±	—	—	漆喰取 り	明治時代 前期	裏面の縁部で、裏の底面が凹んでいる。器蓋面は 全面に凹み部を呈し、凹み部を呈している。器蓋 面は全面に凹み部を呈し、凹み部で木環を呈 している。
47	高190円	32	高 環	(G-3) 第3号土環	タスノキ	11.3×4.0 (4x10)	12.1	4.1	8.0	横木取 り	明治時代 後期	短縮部が凹み、凹みの凹みを呈す。短縮部は全面に 凹み部を呈し、凹み部を呈している。
36	高200円	34	高 環	(G-3) 第3号土環		9.8	3.8	2.9 (4.0)	0.8 (0.95)	横木取 り	明治時代 後期	凹みの凹みを呈す。短縮部は全面に凹み部を呈 している。凹み部を呈している。
			高 環	(G-3) 第3号土環	タスノキ	21.1±	5.1	1.2	1.0-1.1	漆 目	明治時代後期 後半～ 戦前時代	外形は凹み部を呈し、凹み部には凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
95	高250円		高 環	E-6-7 第6号土環	スズ	16.8±	2.2	1.75	1.05	横木取 り	明治時代 後期	短縮部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
134	高380円	48	高 環	F-1 V	ヒノキ	15.5×14.0 ±	7.4	4.0×5.5 ±	1.7	漆 目	明治時代後期 ～ 戦前時代	短縮部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
228	高740円	70	高 環	F-2 V	カシ	—	8.3±	—	—	漆 目	明治時代末 ～ 戦前時代	凹みの凹みを呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
324	高730円	69	高 環	G-2 V	スズ	22.05±	2.5±	1.4±	1.1	漆 目	明治時代 後期	短縮部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
324	高730円	69	高 環	G-3 V		16.85×12.13 (筒丸形状)	7.2	5.5-5.75	1.0±	横木取 り	明治時代 後期	外形は凹み部を呈し、凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
231	高750円	70	高 環	G-4 V	モミ	26.2 (筒 丸)	25.25 (筒 丸)	—	3.65 (つまみ部)	漆 目	明治時代 後期	つまみは凹み部を呈し、凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
232	高750円		高 環	II-3 V	タスノキ	30.2 (筒 丸)	27.0 (筒 丸)	—	3.75	漆 目	明治時代 後期	凹みの凹みを呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。
227	高740円	70	高 環		ヤマキ	18.55±	7.0±	4.95±	2.1±	横木取 り	明治時代 後期	凹みの凹みを呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。凹み部は凹み部を呈す。 凹み部は凹み部を呈す。

※ 材質決定、形状などについては、以下の人の報告を受けた。(五十音順・敬称略)  
乙島幸夫・金子邦之・藤野誠一・下条信行・深谷新吾・立平達・平谷純寛・野村達雄・西谷正・澤村功・村田家・松岡正・三島角・高橋英樹・植田清一・藤山一・渡辺

表20 杓子・杓文字

No.	排	区	区	出土地	製種	法 量 (cm)					本取り	時 期	備 考	
						全長 A	長さ B	巾 C	厚 D	最大厚 E				
31	第30区	34	(G-3)	カシ	16.75±0.6	8.5±0.4	1.95±0.1	1.4	10.25	6.5 (6.7)	0.3~1.1	既 目	杓文字をなし、柄は「家」に似ているが、身幅は多少削り面を獲す。保存は良好、柄筋は斜面頂部の方角を呈す。	
53	第30区	54	(F-2)	*	24.95	8.05	3.9~4.35	1.8~1.7	16.9	12.6	1.0	既 目	身幅は内側を狭く削り、杓子状をなし、柄筋は扁平に作り出す。	
230	第74区	69	E-1 V 層 下	カシ	47.2±0.4 (47.3)	30.6	1.8~2.4	0.9~1.4	17.3	8.2±0.4	0.3~1.4	*	発土時代後期 → 古墳時代 → 内濠時代	身幅は深く約2/3法に削られ、No.229に類似した形をなす。
132	第58区	48	F-2 V 層 下	カシ	31.15±0.4	12.6±0.4	1.7~4.9	2.15~2.35	18.55	16.1	3.95~3.4	既 目 志村?	木芯が柄筋を通り身幅にいたる。身幅は内側を狭く削り、杓子状をなし、先端部は欠失している。身幅部は内側が明瞭に見える。	
205	第37区	99	G-2 V	カシ	43.55	23.4	2.1	2.4	20.15	11.8	5.5	平家時代	杓子の半製品と思われる。柄筋を中央に欠失、鋭い角作りや外側を削り出している。表面は半削に加工しており、身幅にくり取りの彫筋は目立たない。また、先端部4.6cm、5.4cm及び6.3cmに土軸とほぼ等しい三本の刃物痕が見える。	
229	第74区	69	H-3 V	カシ	50.4	30.4	0.9~3.3	1.3~1.4	30.0	12.1	0.3~1.4	既 目	身幅は深く柄筋に加工されている。杓文字をなし、削り面をよく獲す。柄筋の表面ともウレシが付着しているが、磨いたものかどうかは不明である。	

表21 くさび・釘状

No.	排	区	区	出土地	製種	法 量 (cm)					本取り	時 期	備 考	
						全長 A	長さ B	最大厚 C	最大厚 D	最大厚 E				
73	第34区				(H-3)	カシ	21.1	2.7~5.8	2.2~2.84 (2.85)			発土時代 後期初層	縁部に十字彫の突起面をつくるクサビカサカサ。	
222	第72区	68	くさび形木製品	D-3	カシ	7.15±0.4	1.0~1.85	0.3~1.5					先端部のみ削り、二側面より削り出している。	
156	第64区	55	くさび形木製品	H-3 V層	カシ	15.3	2.9~3.8	1.55~2.4				奈良時代末 → 平安時代初	アツ骨筋部のクサビである。先端部は側面よりアツ骨筋が突出して尖鋭化されている。削り面は明瞭に見える。	
			くさび形木製品	E-6・7 V 層	カシ	16.31±0.4	3.0	3.7				既 目	古墳時代 (5C前半)	H-3区出土No.156と類似する。縁部時にクサビとして使用する。

表22 紡錘車

No.	排	区	区	出土地	製種	法 量 (cm)				本取り	時 期	備 考	
						外径 A	外径 B	孔径 C	最大厚 D				
18	第31区	27	(G-3)	第3号上層下層	(Vツ)	3.9	0.65	3.4				奈良時代 後期後層	柄筋はほぼ直方形状をなす。削りによる加工痕、両側面に研磨をほどこす。
102	第50区	47	E-6・7 V層			6.4	—	0.9				古墳時代 (5C前半)	削りによる加工痕を消した後、両側面に研磨をほどこす。孔径より削り出し4本の直線が残る。
101	第50区	41				8.4	2.4	0.3					削りによる加工痕を消す。半環型に削り出しをなし、中心部より3.0×3.0cm、厚0.3cmの方形の作り出し部を削り、中心部より削り出し部を削る。表面は半削をほどこす。中心部及び作り出し部小孔にはびごり痕が認められる。
216	第72区	68	G-3 V層	スギ	0.55	1.1	0.8					奈良時代 平安初期	加工痕、両側面に研磨している。縁孔には鋭角輪郭がみられる。回転軸は厚0.8cmの棒状をなし、両側面を削り出している。両端は丸みを帯びている。

表23 木軸

No.	排	区	区	出土地	製種	法 量 (cm)					本取り	時 期	備 考	
						全長 A	B1	B2	B3	最大厚 C				最大厚 D
103	第50区	42	B-6・7 V 層	イヌノキ	10.0 (10.8)	2.95 (3.8)	3.65	0.1	3.3	1.55			古墳時代 (5C前半)	体部に削り加工痕、研磨を施す。
104	第50区	42		カシ	5.25±0.4	2.95 (3.3)	1.6	0.1	0.6±0.4	1.9		既 目	体部に削り加工痕が明瞭に見える。先端部はつぶれている。	
107	第50区	42		イヌノキ	7.4±0.4	1.3±0.4	3.8	—	2.3±0.4	1.2			板の厚を削り出し、体部に削り加工痕、研磨を施す。	
106	第50区	42		イヌノキ	5.5±0.4	0.6	4.1	—	0.8±0.4	0.85			体部に削り加工痕、研磨を施す。	
108	第50区	42		イヌノキ	5.05 (5.95)	—	—	—	—	1.3			体部に削り加工痕、研磨を施し、両側面をなす。	
109	第50区	42		イヌノキ	4.1±0.4	—	4.1±0.4	—	—	2.0×1.4 (電筒部)		既 目	先端部は板ばきみ状をなす。	
116	第50区	42	F-1 V層	イヌノキ	6.95±0.4 (8.4)	2.8 (3.4)	2.65	0.35	1.75 (2.3)	2.15			先端部はつぶれている。	
242	第77区	42	F-5 V層	タイシ ツタバナ	7.95	1.4	5.3	—	1.55	1.05				
244	第77区	42	F-2 V層	イヌノキ	4.5±0.4	1.65	1.6	1.3	0.5±0.4	1.4			先端部は板ばきみ状をなす。体部に削り加工痕、研磨を施している。	
245	第77区	42	G-1 V 層 下	イヌノキ	5.65±0.4	1.95	3.0	—	0.7	1.4 (1.45)			先端部は板ばきみ状をなす。体部に削り加工痕が明瞭に見える。	
210	第77区	42	H-3 V層	イヌノキ	7.9±0.4 (8.8)	1.2 (1.7)	4.3	0.4	1.9 (2.4)	1.25			両側面を欠失、両側面に削り出しの痕跡あり。体部に削り加工痕、研磨を施している。	
240	第77区	42		イヌノキ	10.4±0.4 (10.5)	1.6 (1.7)	4.9	—	3.9	1.45			両側面は半削に削り出す。体部中央部は削り加工痕、研磨を施しており、他部は削り出しを明瞭に獲す。	
229	第72区	42	B-6	イヌノキ	7.14±0.4	1.55	4.95	0.1	0.6	1.35			体部に削り加工痕、研磨を施す。	
243	第77区	42		カシ	4.3±0.4	—	—	—	4.3±0.4	0.6 (電筒部)			管筒部のみ残存する。	
221	第72区	42		カシ	5.25±0.4	—	2.95±0.4	—	2.3	1.15			先端部は欠失している。体部に削り加工痕、研磨を施している。	

※ 本表の製種表記については略号に統一されている。

※ 本表の名称については、今日までつかわれているものも使用した。用途が分かるものについては可能な限り、明瞭にそくした名称とし、明瞭不明のものには製種及び加工方法から名称を付した。

表24 偽器

No.	探区	図番	器種	出土地点	法 量 (cm)			水取り	時期	備 考	
					全長 A	最大径 D	最大厚 J				
14	第11区	32	銅 輪	(G-3) 第3号土壌					弥生時代 前期後半	銀装付銅。内径8cm、最大径4.4cm、最大厚0.6cm。断面は薄肉部、厚さ1cm、2層・内面を包んで外周溝を施し、その上に来ウレドで彩色している。比1:983「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。「古代文化」第30巻1号。	
205	第74区	71	銅形木製品	(G-3) 第3号土壌	スチ	66.5	2.8-4.0	2.2	板目	弥生時代 後期前半	柄部径13.0cm、厚さ3.0cm有り。柄部と輪部を有する。輪部は長さ2.8cm、厚さは14.6cm、厚さの厚さの間に長さ2.4cm、3.0cmの筋を作り出し、輪部先端部に長さ0.2cmの突起部を有している。
237	第77区	72	銅形木製品	G-3 V層	*	1.6-3.1	1.4-2.6		板目	古墳時代	木目をよく残用して彫られている。柄部径は長さ2.3cm、厚さ3.1cmを有する。輪部と柄部を有する。輪部は長さ2.8cm、厚さは14.6cm、厚さの厚さの間に長さ2.4cm、3.0cmの筋を作り出し、輪部先端部に長さ0.2cmの突起部を有している。
237	第78区	72	鳥形木製品	G-3 V層	マフ	17.85	4.9	0.8-0.4	板目	古墳時代前期 - 平安時代前期	柄部径に長さ2.4cmの円孔あり。蓋部と柄部を有する。
248	第78区	73	銅形木製品	H-3 V層		85.1	6.5-3.8	2.0-1.3	板目	板目	スチ一枚板を加工し、漆出した半端部を丸く削り、彫刻を施している。地方の輪部は蓋部から削り出し粘着を有している。鳥形彫刻同類物？比1:981「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。238。
298	第77区	71	木 杖	H-3 V層		14.2	3.8-4.7	2.0-4.3	芯材	芯材	柄部下部を削り込みを有する。輪部及び柄部をつくり出し、輪部は両側の筋を包み込むことにより成形する。輪部には縦筋を有する。柄・輪ともに下層を削り加工を施す。
348	第78区	72	人 形 ?	F-2 V層	スチ	14.1	3.1	0.9	板目	板目	板厚も薄い。輪部から1cm前後の両側部は、長さ1.4cm、1.0cmで0.4cm前後の筋を有する。輪部をつくり出している。
353	第70区		杖	H-3 V層	スチ	19.3	2.9	0.4	板目	板目	三角形に成形された柄部から2.3cmに狭り入り、縛った痕跡がみられる。
110	第51区	41	小形銅造形	K-6・7 層		30.35	3.6			古墳時代 (S古墳)	小形銅造形。外部にフリを施す。内面を削り出し字にくりぬいた丸木輪状を有する。輪部内部に小孔が穿たれている。

表25 - その他の木製品

No.	探区	図番	器種	出土地点	法 量 (cm)			水取り	時期	備 考	
					全長 A	径 D	厚 J				
			杖	(G-9・7) 第1号土壌	シチ	137.5±a	6.1-6.8(後)		板目	漆地に焼いた痕跡が残る。	
250	26		杖	第1号土壌	モウ	53.7±a	7.0	7.35	芯持ち丸木	漆地同類。表面には両取り加工を施す。厚さは定か。	
			杖		スチ	53.8	1.8	1.5	板目	表面は両取りを有し、一定は両取りを有する。	
254	26		杖		カシ	45.1	2.75	2.4	ナメ	断面平らに削り、両端を丸く削り、彫刻を施している。漆地同類物？比1:981「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。238。	
			杖		イヌ	57.3	2.2-1.2	0.83-0.312	板目	漆地不明。輪部有り。第1号土壌出土の漆地土器同類。	
			杖		カシ	64.1±a	4.5	3.8	芯持ち丸木	表面には両取りの痕跡を有する。比1:981「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。238。	
356	26		杖		イヌ	44.2	2.0-0.15	1.05-0.2		表面には両取りの痕跡を有する。比1:981「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。238。	
48	第20区			(H-3) 第5号土壌	クス	—	—	—	板木	表面に3本の溝を有する。輪部は両側の筋を有する。輪部には両取りの痕跡がみられる。溝の深さは約1.5cm、幅は約0.5cm、長さ約1.5cm、幅約0.5cm、高さ約0.5cm。	
13	第11区			(G-2) 第3号土壌上層	*	5.1±a	3.8	2.25±a		弥生時代 後期前半	漆地に両取りの痕跡を有する。比1:981「福内南内町アイソ」遺跡出土の漆地土器同類。238。
52	第30区	33	杖	(G-3) 第3号土壌	ヒノ	10.6±a	6.7	5.4±a		弥生時代 後期後半	表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖		マツ	40.9	7.5	7.45			表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖	(G-3) 第3号土壌上層	クス	34.0±a	4.2	2.83			表面は両取りを有する。漆地は平らに削る。
			杖	(G-3) 第3号土壌		42.4	15.1	2.0			表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
208	35	34	杖	(G-3) 第3号土壌下層	カシ	15.4±a	4.7-4.25	3.2-2.6	板目	板目	表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖	(G-3) 第3号土壌下層	クス	24.8	3.0-0.8	1.5-1.6	板目	弥生時代 前期後半	表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖	(G-3) 第3号土壌下層	クス	13.6±a	8.0±a	1.15	*		表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖	(G-3) 第3号土壌下層	クス	43.2	2.0-1.4	2.3	板目		表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖	(G-3) 第3号土壌下層	クス	38.7	14.7	2.0			表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
260	32	35	杖	(G-3) 第3号土壌下層	カシ	43.3	16.3	6.0-6.3	板目	弥生時代 前期後半	表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
263	31	37	杖	(G-3) 第3号土壌下層	クス	42.3±a	17.6				表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
89	第47区	40	杖	K-6・7 層	ヒノ	26.05	2.0-0.8	2.3-0.0	芯持ち丸木	古墳時代 (S古墳)	表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖		クス	8.8±a	2.55-3.4	1.4-2.72	芯持ち丸木		表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。
			杖			14.3±a	2.15-2.5	2.15-3.12	板目		表面は両取りを有し、両端部・中央部に加工する。加工部には彫刻とその痕跡が残る。

表25 その他の木製品 (2)

No.	洋名	国産	品名	出土地点	法 量 (cm)				小取り	時期	備 考	
					縦	横	厚	厚				
206	第71回	68	柵	D-6	ホシ	6.5+ $\alpha$	1.9+ $\alpha$	1.5	柵目	明治時代 (50年前)	裏面に油が塗らる。表面に長さ4.0cm $\times$ 幅3.0cmの方形孔を設ける。用途不明。釘と鋼と共に組み合せ製品か。 季節による。表面に長さ3.5cm $\times$ 幅2.5cm $\times$ 厚さ1.9cm $\times$ 厚さ0.8cmの半円形の鉄釘を設ける。また下方向部付近に方形の孔を設けた鉄釘がみられる。用途は不明。 外縁は端部に似ており、納部と端部の境に明らかな段差を有す。建築物の部分品か。	
					スギ	19.25	4.15+ $\alpha$	3.3				*
207	第71回	68	柵	D-3	クスノキ	37.6+ $\alpha$	3.16+ $\alpha$ (楕小巾) 11.05+ $\alpha$ (楕大巾)	1.85 (楕小巾) 4.55+ $\alpha$ (楕大巾)	1.25 (楕小巾)	明治時代	半圓部に径1.0cmの孔を設けている。用途は不明。	
208	第71回	64	柵	F-1 V 層下	ヤブ ツバキ	66.5	6.0	6.0	芯材 丸木材	明治時代 後期?	先端部は枕木を呈し、横方向の継ぎ目を利用して裏面に沿って上方向の切り込みを入れている。 丸形断面の長さ8.5cm、径3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。釘は出さず、面に埋まっている。欠品品である。	
209	第72回	68	柵	D-6	ホシ	4.6+ $\alpha$	1.7-2.1	2.2	芯材 丸木材	明治時代	裏面は側面より釘を打ち込まれている。裏面は半圓形であるが先端部で4.4cm長さ、全幅より釘を加え、径を縮めている。用途は不明。	
95	第31回	64	農具?		スギ	4.3	11.8	6.75-6.3	板目		用途は不明。側面長方形を呈す。丸釘断面材の近接材片であろう。断面は楕円形。鉄釘径1.0cmに長さ5.5cm、径0.1cmの半円形の鉄釘を設ける。断面は楕円形。鉄釘径1.0cm、長さ1.5cm、径0.2cmの半円形の鉄釘を設ける。断面は田舎形出木の有刺断面材と類似している。組み合せ品の鉄釘と思われる。 径3.5cm、長さ0.9cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。残片のため用途は不明。番裏の残片部と思われる。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	33.1	6.8-8.4	1.4	ナメ			
			農具?		ホシ	15.4+ $\alpha$	5.0+ $\alpha$	0.6	板目		裏面は側面より釘が施されている。 長さ5.0cmの半円形の鉄釘を設けている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	15.9+ $\alpha$	3.6-2.9	1.6-1.4	*			
			農具?		スギ	3.4	3.2	0.3	板目		裏面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	15.9+ $\alpha$	3.6-2.9	1.6-1.4	*			
			農具?		スギ	36.3+ $\alpha$	5.5	0.85+ $\alpha$	板目		裏面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	3.7	1.75	1.35-0.9	半圓形			
			農具?		スギ	2.4	3.4	5.5	板目		裏面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	15.9+ $\alpha$	3.6-2.9	1.6-1.4	*			
			農具?		スギ	33.0	2.7-7.3	-	丸木材		明治時代 後期以降	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。
					+	15.9+ $\alpha$	3.6-2.9	1.6-1.4	*			
318	第72回	68	柵	F-5	ホシ	26.0+ $\alpha$	4.7-6.0	3.9-5.1	*	明治時代 (50年前)	鉄釘部は納部と納部の間の釘の切り込みを入れている。納部には奥の板に釘を打ち込んであり、その釘は奥の板に埋まっている。 断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
316	56	柵	F-2	スギ	20.0	2.6	3.2	板目	明治時代 中期	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。		
354	66	柵	C-3	スギ	8.6+ $\alpha$	4.5-3.6	収縮-圧縮 のため計算 不可	板目				
360	75				クスノキ	80.5	15.7	4.0-3.3	板目		板材の断面に半円形の釘の切り込みがある。 断面長方形を呈し、側面に長さ0.15cm、幅0.1cmの釘を打ち込んであり、その釘は奥の板に埋まっている。 断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
315	第72回	64	クヤビ?		ササキ?	14.9	4.5	1.0-1.9	丸木		断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
311	第71回	64	柵	H-2	スギ	42.9 (42.6)	5.7	1.85	*	明治時代	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
310	第71回	64	柵	H-3	スギ	51.6	5.2-9.1	1.2	*	明治時代	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
			建築材?		ホシ	50.5	5.45	1.7	板目		断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	28.3+ $\alpha$	4.6+ $\alpha$	7.1	板目			
217	第72回	68	柵	F-2	ヤブ ツバキ	40.15+ $\alpha$ (41.7)	3.1	4.5	芯材 丸木材	明治時代	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
			柵		+	41.4+ $\alpha$	4.6-5.23	4.3	芯材 丸木材		断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					ホシ	40.6+ $\alpha$	2.5-2.7	2.6-1.15	芯材 丸木材			
319	第72回	68	有孔円盤		スギ	11.6 (5.1)	9.7 (短径)	1.50	板目		断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
			柵		C-2	ホシ	5.3	2.7	1.9	ナメ	明治時代	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。
					E-6	19.05+ $\alpha$	2.0	1.6		明治時代 (50年前)	断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
			柵		ホシ	-	-	0.7			断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	
					+	41.4+ $\alpha$	4.6-5.23	4.3	芯材 丸木材			
311	第51回	41	柵		スギ	63.9+ $\alpha$	3.15	1.5-3.1	芯材		断面は側面より釘が施されている。 径3.5cm $\times$ 幅0.6cmの孔がある。径3.3cm、長さ3.3cmの半円形の鉄釘を設ける。 三又部、刃部に再加工を施している。	







表26 板材 (4)

No	種	国	出土地点	部	材	寸法 (cm)			孔距	孔径	孔深	水取り	時期	備考
						全長	巾	厚						
381	第70区	62	F-2 V	木	サ	A	45.35	8.7	1.1				ナメシ	有孔板材である。先頭部は7mmの字取に直差し、縦横縁部に沿って一定の距離を置いて、方に2個、方に4個の円孔を配する。字取部より左端に向かって斜めに削り込む。左向き。 裏面に縦方向の筋りが見られる。縁部材。 有孔板材である。縦横縁部、計測不能。 断面は長方形を呈する。先頭部下5.0mmの縦縁部寄りには0.6mmの円孔を設ける。 先頭部下19mmと29.5mmに字取の狭りを見える。片側縁部の先頭部下24mmに深くL字状の狭りを見いだす。 先頭部下2.9cmに孔径1.4cm、長さ1.6cmの楕円形孔を設ける。縦横縁部についている。側面には直差りの短字取が見える。 有孔板材である。縦横縁部に2個の孔を設ける。一方の側部中央部にL字取の狭りを見える。 先頭部下17mmと4.5mm、裏面に残る一方の縁部とは対称的に、後方の縁部は中央でふくらみを持つ。直線的に伸びる縁部の真ん中にV字の狭りを見える。
						B	94.9	7.6	5.25~1.3		ナメシ			
						C	16.7	6.5~7.45	2.9~2.4		ナメシ			
						D	—	—	—		板目			
357	67				ス	A	51.2	8.6~8.7	1.6				板目	
						B	52.4+α	13.1	1.8		板目			
363	66	F-2 V	木	サ	ナノキ?	A	46.7	16.75	3.25				板目	
						B	25.1	16.6	1.1		板目			
365	75				カ	A	35	5.5	0.6				板目	
						B	—	—	—					

表27 はしご

No	種	国	部	材	出土地点	部	材	寸法 (cm)			足かけ部D	足かけ部J-1	縦部J-2	水取り	時期	備考	
								全長	B-1	B-2							B-3
58	第3号土壌	上	(G-3)	木	ク	ス	ク	A	94.5+α	10.6	23.3	—	16.4	4.6	2.7	芯材材	先頭部より二段目まで残存する。足かけ部から底部にかけてなだらかに内湾しながら伸び、足かけ部上面はややくらみを持つ。加えて横は比較的よく残っている。No. 360に類似する。 先頭部下二段目まで残存する。残存状態は悪い。
								B	59.0+α	26.9	22.1	13.8	3.7	2.85			
249	第79区	74	F-2 V	木	ア	ク	ク	A	54.3+α	—	30.4	15.4	12.0	3.2	3.5	平流板	細字部より二段目まで残存する。足かけ部の下部と底部との境には明確な段差を有し、足かけ部上面は平面面を呈す。足かけ部には明確な加工痕を見える。
								B	—	—	30.4	15.4	12.0	3.2	3.5	平流板	
250	第79区	76	F-2 V	木	ア	ク	ク	A	158.9	18.6	30.8	22.00	11.8	4.8	3.3	芯材材	ほぼ完形で出土したが、中継で縦横欠失していたため、接合は不可能であった。足かけ部上面はややくらみ、下面は内湾がみに板部につながる。
								B	173.5	—	—	—	—	—	—	—	
	(G-3)	第3号土壌	上	木	板	板	材	A	—	—	—	—	—	—	—	—	
								B	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表28 ねずみ返し

No	種	国	部	材	出土地点	部	材	寸法 (cm)			水取り	時期	備考				
								全長	C-1	C-2				全巾			
32	第4区	74	E-3	木	E	シ	シ	A	55.3	24.4	30.3	42.8	6.2	6.5	2.5	古流時代 (5C前)	板面には縁上げを明確に残す。 大型のねずみ返しであるが、大きさに比べて薄く仕上げられている。 字取しており、板面は残存していない。他の建築材の可成り残存する。
								B	70.5+α	32.0	38.5	56.0	8.7	9.1	2.0	古流時代	
363		74	E-3	木	ア	ク	ク	A	44.0+α	—	—	12.00+α	—	—	1.9	平安時代後	
								B	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 本資料集については、以下の注釈を参考にされた。

- a. 小野丸蔵 - 史料集 1978 「道土遺跡」 第4分冊の1 本館蔵
- b. 小野丸蔵 - 史料集 1978 「道土遺跡」 第4分冊の2 本館蔵
- c. 小野丸蔵 1978 「山形県神宮寺遺跡文化財調査報告書」
- ・断面にあたっては可能な限り、多くの部位を計測したが、必ずしも完全なものとはいえない。
- ・縁部・その他の木製品については、3ヶ所の計測にとどめ、必要部位については備考に記した。
- ※ 大型の土壌及び一般表の作製は、山口、松村、既報同様で検材を重なり、同部が中心となって作製したものである。





表29 建築材 (3)

No	区分	面積	出土地点	樹種	法 量 (cm)			木取り	時 期	備 考
					全長 A	の D	厚 J			
32	第32区	66	B-6・7	ク	46.4±α	3.85	4.0-4.4	種 目		同一樹種に接して、長さ1.8mの長方形のはてを数枚を、断面は長方形を呈する。しかも厚さは一定ではない。一方の先端は十字の字状の断面を呈するが、法定断面は十字の字状に成らない。
300		66		ス	45.2±α	3.7	2.3	*		先端部に方形のほぞを作り出す。基部は欠損、長さ0.3cm、幅1.6cmのほぞを穿る。
373		76	D-2 V 堀	クスノキ	121.8	31.5	1.8-2.6	*	奈良時代末	定規で丁寧に測られ、痕跡を呈す。同じく不明。
61		74	E-2 V 堀		181.5	5.05-6.4	(径)	芯持ち材	奈良時代初	穴材を削る。断面は楕円に十字状の痕跡を認める。
		74	F-2 V 堀	カシ	54.4±α	6.5	4.8	芯持ち丸木	平安時代初	一端は十字状に切り込み、先端部は折れ曲が加工。
					155.2	9.8	2.1	割 材		表面に横溝を残す。表面に腐蝕、先端部は欠損加工する。断面長方形。
					39.1	8.8	9.9	芯持ち材		基部は両側に長さ5.5cm、幅4.4cmの深さ1.9cmの方形のほぞを設ける。
372		76	G-1 V 堀	マツ	117.4	4.8-11.5	(径)	*		穴材を用いる。
60	第32区	87	G-2 V 堀	ス	57.15	8.2	3.4	ナメシ		厚手の長方形の板材の半軸をやわらせて、ほぼ等しい面積に3個の方形孔を角隅をばらばらにして、半径に穿っている。おののおの孔の幅に長さ2.1cm-2.55cm、幅0.3cm-0.3cmの厚板を嵌め、その中に短欠(く)をくまびで固定した状態が残る。他材と組み合せた時の既述の溝の一つも穿れられる。縦長距離とも横切距離の両方、先端部下面面に面を呈して、一方には深めのV字状、他方は浅いく字状の痕跡を認める。
				メシ	93.5±α	15.0	12.5	半 腐 材		断面に一方がくまび削り痕を呈す。先端部を欠失している。
202	第79区		G-3 V 堀		170.6	8.3-9.9	(径)	*		先端部は浅く削り痕を呈す。基部は納孔1.8cm×0.7cm。
539		74		メシ	64.0±α	14.8	8.1	下 段		先端部は浅く削り痕を呈し、断面部から先端部にかけては側部部から断面部に十字状に切り込み。
				ス	57.1±α	12.1	5.9-5.6	芯持ち半板		断面部には浅く削り痕を呈す。両端部は欠損後加工。
367		75	H-1 V 堀	*	46.5	6.8	5.3	角 材		先端部下面に小欠りが入る。
				*	36.8±α	14.7	5.6	根 目		建築材と思われる。使用用途はよくない。
				*	48.4±α	12.7	4.05	*		頂上建築材と同一木材材とみられる。
			H-2 V 堀	ゴヤヤ	49.0±α	4.0	3.8	芯持ち丸木		穴材を用いる。先端部下面に長さ4cmの方形の孔を穿れ、先端部を削る。断面には横溝を残す。断面は長方形を示す。
			H-3 V 堀	アツブキ	43.7	3.7-4.7	(径)	*		穴材を用いる。先端部下面に長さ4cmの方形の孔を設け、先端部はより削り加工を施し、尖らせている。
				サカサ	57.0±α	8.9-9.9	(径)	芯持ち材		穴材のほぞを用いる。
				マツ	27.2	8.1	3.4-4.4	種 目		中央部に1辺0.6cmの方形孔を穿す。外側部は3面で残存部分が少ない状態は不明。
6	第32区	75		シ	42.2±α	4.7-5.85	1.75-2.95	板 目		両端部は欠失している。断面に3.5cm-10.5cm間隔を置いて、長さ2.2cm-2.5cm、幅0.8cm-2.2cmの方形の孔を穿つ。
63	*	74		ササキ	53.06±α	6.7	8.0±α	芯持ち材		穴材のほぞから部の残の厚い部分を利用して十字状の切り込みを施し組み合わせ部を作る。その他の部分は米道加工のまま使用しており切り込み下面には横溝を残している。断面には丁寧に丁寧な加工が認められている。
355		66		(泡孔材)	11.4±α	9.7	6.0	*		穴材を用いる。断面は浅く削り加工を認める。
				(イナシ)	59.0	8.9-2.5	2.6-3.8	割 材		断面長方形に腐蝕している。
				トナリ	75.0	5.2-9.3	5.9	割 材		
				シ	14.2±α	2.45-4.35	(径)	*		先端部を削り角状に仕上げている。
				サツ	114.9	4.9-2.4	(径)	丸 木		先端部が両側に加工されている。先端部付近に切り込みを穿れ、先端部は4面削定の面取りを施している。断面4.4cmを穿る。
				(サツ)	97.5	6.1-4.9	*	*		断面幅5.5cm、厚さ厚3.5cm、幅3.3cmを穿る。断面は直角の断面に1.8cmから先端部に約2cmまでより削り痕を認める。他材に加工する。側面及び断面は米道加工のままで、側面を残す。
				(サツ)	115.5	10.5-19.4	8.1-5.1	半 腐 材		残存状態は悪く、片側断面下面に浅く削り痕を認める。
376		76		シ	94±α	14.0	6.5-4.0	*		先端部を一方から削り加工されている。表面に腐蝕を残す角もある。頂上建築材と同一個体。
				(丸孔材)	50.3±α	6.1	5.2	芯持ち材		先端部に削り痕を認める。断面上部の残存が少く、
				ナリ	303.7	14.3-12.1	8.5-7.2	半 腐 材		基部を丁寧に削り削っている。使用分。
				シ	50.7	4.9	2.2	板 目		断面は実証されておらず、断面は方形。断面は断面の残、未調査。
				*	219.70±α	6.5	(径)	芯持ち材		穴材のまま使用している。断面部に5分厚1.5cmの切り込みを入れる。
360		76		サツ	178.0	11.8-13.3	16.7-7.7	*		断面に十字状に5cm切り込み、幅7cm、断面下部に長さ15cm、深さ2.5cmの切り込みを穿つ。表面に腐蝕。
				ナリ	170.5	10.25	7.05	芯持ち材		巨材と思われる。
				シ	273.0±α	10.6	7.7	割 材		
				*	123.4	6.3-4.5	3.5-2.5	板 材		
				メシ	62.5±α	10.3	8.5	芯持ち材		先端部を削り加工している。断面は欠失する。
380		74		ス	31.9±α	9.15	9.0	*		穴材を用いる。断面には断面削り痕を認め、断面下部に断面削り痕の組み合わせの孔を設ける。径4cm、1.77とされており、
				*	43.7±α	7.5	6.5	芯持ち丸木		断面を残す。断面には明確な加工を残す。
										先端部を一面加工で痕跡を呈す。



# 出土石器・石製品・土製品一覽表

表31

No.	発掘区	品名	石種	材料	出土地点	備考
1	第80区	石 槌 丁	〃	細石質キルンフェルス	F-0 V層下	敲打型後研磨、穿孔は表面から、奥部穿孔部にヒレあり。
2	〃	〃	〃	安山岩質硬質キルンフェルス	第3号土層上層	磨滅している。穿孔は表面から。
3	〃	〃	〃	〃	F-2 V層下	〃
4	〃	〃	〃	〃	第8号土層	表面部は丹が塗られている。
5	〃	〃	〃	小豆色硬質キルンフェルス	H-3 V層	作部は敲打型後研磨、穿孔は表面から。
6	〃	〃	〃	安山岩質硬質キルンフェルス	E-2 V層	表面とも剥離している。
7	〃	〃	〃	小豆色硬質キルンフェルス	H-4 Ⅱ層	穿孔は表面から、多孔か、ヒレ部が残っている。
8	〃	〃	〃	〃	〃	穿孔は表面から、多孔あり。
9	〃	〃	〃	安山岩質硬質キルンフェルス	E-5・6 V層	〃
10	〃	〃	〃	〃	?	?
11	〃	石 槌 丁 ?	〃	〃	H-4 Ⅱ層	穿孔は片側から?
12	〃	石 槌	〃	〃	H-3 V層	敲打型後研磨。
13	〃	薄平片 刃石等	建築シルト岩	〃	H-4 V層	削磨加工後、研磨。
14	〃	片状片 刃石等	〃	〃	C-3 V層	刃部欠損、側面加工後研磨。
15	〃	太形 片 刃石等	小山澤山玄武岩	〃	H-2 Ⅱ層	敲打型後研磨、再利用か。
16	〃	〃	〃	〃	E-5・6 V層	敲打型後研磨、使用による欠損か。
17	第81区	鈎 刃 石 等	玄武岩	〃	H-2 V層	削磨加工後、刃部研磨。
18	〃	〃	キルンフェルス	〃	F-5・6 V層	作部は敲打型後研磨、刃部は打ち欠き。
19	〃	結刀型 刃石等	玄武岩	〃	F-6・7 V層	敲打型後研磨。
20	〃	割 片 状 黒 曜 石	〃	〃	E-6・7 V層	長さ 1.3g、発生時代不明の破片
21	〃	打 割 石 槌	〃	〃	C-6 V層	長さ 2.15g
22	〃	〃	〃	〃	第3号土層下層	長さ 4.87g、発生時代不明の破片
23	〃	磨 製 石 槌	硬 砂 岩	〃	F-4 V層	〃
24	〃	〃	黒色板状岩	〃	H-4 Ⅱ層	〃
25	〃	石 尖	薄石片岩	〃	E-3 V層下	発生時代不明の破片?
26	〃	磨 製 石 槌	結 晶 岩	〃	E-5・7 V層	〃
27	〃	石 槌	黒色板状岩	〃	H-4 Ⅱ層	結晶部に整形し、研磨を加えた後、十字に彫り目を入れている。 長さ 11.54g
28	〃	〃	薄石片岩	〃	〃	作部は研磨、穿孔は表面から、上層に欠けの跡をつくり出しておりヒレ部が残る。 長さ 131.1g
29	〃	〃	〃	〃	E-6 V層	作部は研磨、穿孔は表面から。
30	第82区	〃	〃	〃	第3号土層上層	作部は整形し、研磨し、上層に表面から打ち欠き跡をつくり出している。 長さ 16g + α
31	〃	〃	〃	〃	〃	長さ 121.7g
32	〃	〃	〃	〃	H-4 Ⅱ層	長さ 139.7g
33	〃	〃	〃	〃	〃	長さ 262.5g
34	〃	〃	〃	硃文片岩	第8号土層	長さ 134.3g
35	〃	〃	〃	〃	〃	長さ 120.75g
36	〃	土 槌	土 質	〃	H-1 Ⅱ層	焼成工具を上から上へ打ち、その後から調整。長さ 23.4g
37	〃	〃	〃	〃	H-4 Ⅱ層	焼成工具に粘土をまきつけ、結晶部に整形し、焼成工具を上から削いでいる。長さ 9.8g
38	〃	〃	〃	〃	〃	焼成工具を下から上へ削いでいる。長さ 10.3g
39	〃	投 擲 上 部	〃	〃	H-6 V層	長さ 24.96g
40	〃	〃	〃	〃	F-1 V層下	長さ 16.9g
41	〃	〃	〃	〃	C-2 V層	長さ 20.8g
42	〃	〃	〃	〃	H-6 V層	長さ 27.36g
43	〃	〃	〃	〃	〃	長さ 16.44g
44	〃	〃	〃	〃	F-3 V層	長さ 12.98g
45	〃	〃	〃	〃	E-6・7 V層	長さ 13.2g
46	〃	〃	〃	〃	〃	長さ 11.87g
47	〃	〃	〃	〃	F-3 V層下	長さ 33.65g
48	〃	〃	〃	〃	F-2 V層下	長さ 22.6g
49	〃	結 晶 岩	〃	〃	第3号土層下層	焼成土器片再利用。長さ 27.91g
50	〃	〃	〃	〃	F-3 V層	片状結晶、凹部に泥線が認められる。長さ 30.91g
51	〃	〃	〃	〃	E-6・7 V層	表面及び凹部に泥線が認められる。長さ 12.86g + α
52	〃	〃	〃	〃	C-3 V層	長さ 8.6g + α
53	〃	〃	〃	〃	F-6・7 V層	長さ 11.44g + α
54	〃	土 槌	土 質	〃	第3号土層下層	表面に焼成工具で削られている。長さ 75.23g + α
55	〃	薄石片岩	〃	〃	E-6・7 V層	細かい作り加工を加えている。未製成?
56	〃	薄 石	〃	〃	H-4 Ⅱ層	〃
57	〃	玉	ガラス	〃	F-3 V層下	〃
58	〃	刀 玉	薄石片岩?	〃	F-6・7 V層	長さ 3.57g
59	〃	磨 正 砵	土	〃	H-2 V層	長さ 3.9g
60	〃	石 槌	薄 石	〃	H-4 Ⅱ層	〃
61	〃	〃	〃	〃	F-6・7 V層	〃
62	〃	〃	〃	〃	H-4 Ⅱ層	〃



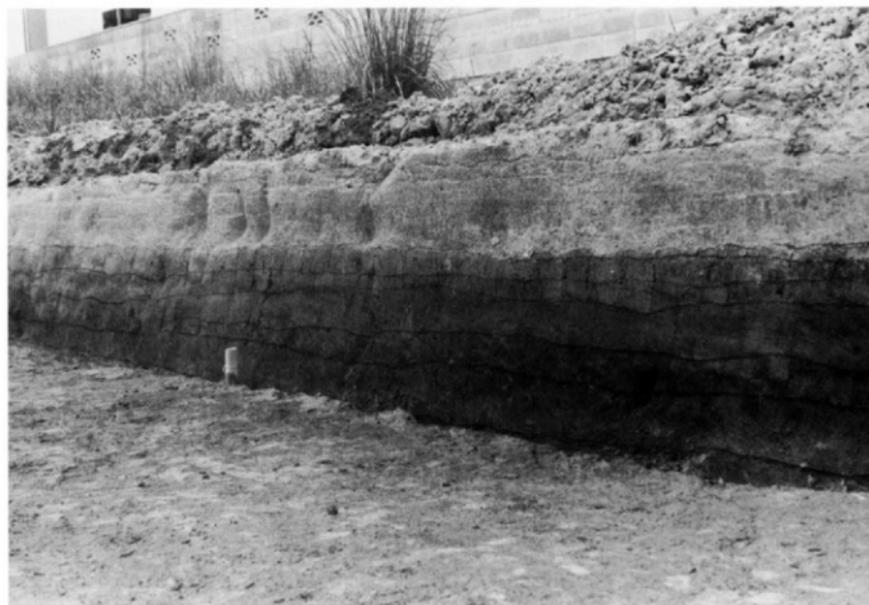
# 圖 版



拾六町ツイン遺跡周辺航空写真



1, 調査区西壁土層 (A-7)



2, 調査区東側土層 (F-1)



1. 第1号土罐遺物出土状況



2. 第2号土罐遺物出土状況



1. 第2～4号土壇全景（南より）



2. 第8号土壇（東より）



1. 第3号土坑柱列



2. 第3号土坑土層



1, 第3号土墙残列



2, 第3号土墙残列



1. E-6・7区遺物出土状況(西より)



2. E-6・7区遺物出土状況(西より)



1. E-6·7区遺物出土状況



2. E-6·7区遺物出土状況



1. G·H-2·3区遺物出土状況



2. G·H-2·3区遺物出土状況



1. G·H-2·3区遺物出土状況



2. G·H-2·3区遺物出土状況



1. B-6区遗物出土状况



2. B-6区枕列出土状况



1. B-6区~E-6·7区全景



2. B-6区桩列



B-6区坑列





1, C-5区杭列



2, D-2区杭列



1. C-3区杭列出土状况



2. C-3区杭列出土状况



1、調査区東側水田検出状況



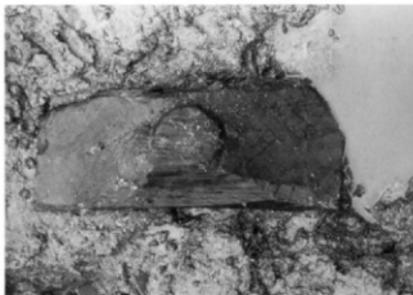
2、同水田畦畔検出状況



1. 粘粉土层



2. 粘粉土层



1, 第1号土墙(3)



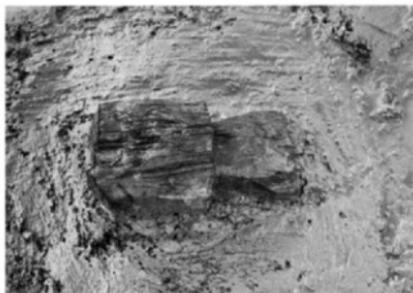
2, E-6·7区(99)



3, 第1号土墙(3)



4, E-6·7区(建梁材)



5, E-6·7区(90)



6, E-6·7区(97)

7, E-6·7区(79)  
各区出土遗物出土状况(1)

8, E-6·7区(101)



各区出土遗物出土状况(2)

1. E-6·7区(97)



2. E-6·7区(290)



3. 第3号土壘(61)

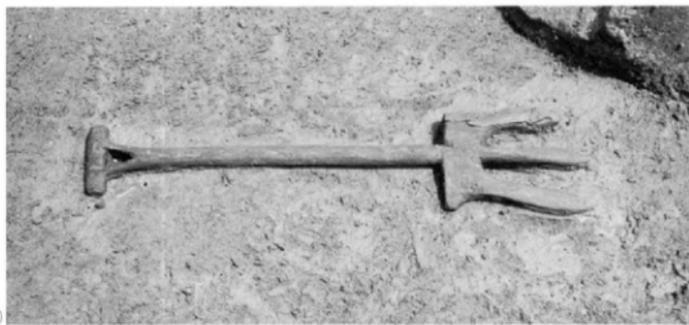
各区出土遗物出土状况(3)



1. H-2 (171)



2. H-3 (容器)



3. F-0 (124)



4. H-3 (157)



1. E-6·7区 (114)



2. G-1区 (107)



3. B-6·7区 (344)



4. F-6·7区 (158)



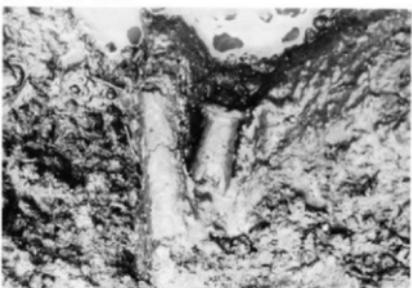
5. G-3区 (建築材)



6. H-3 (229)



7. G-3区 (容器)



8. 第1号土坑 (9)